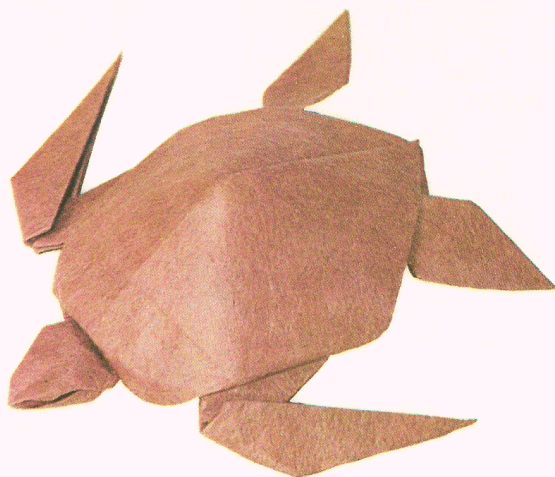
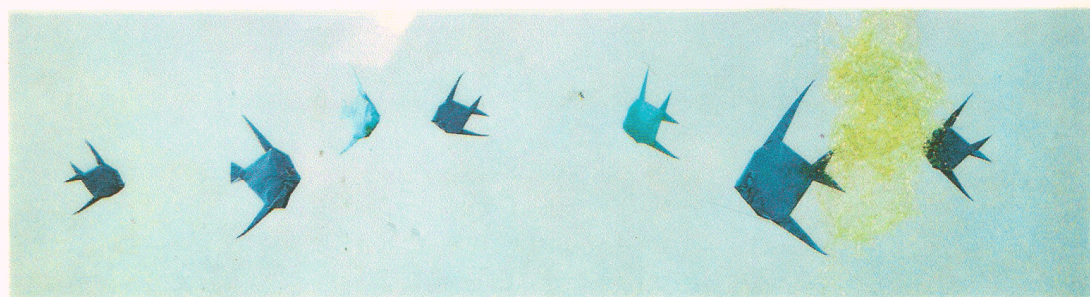
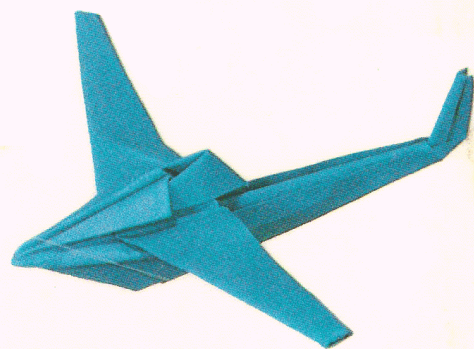


美しい折り紙

吉沢 章創作折り紙作品集



美しい折り紙

吉沢 章創作折り紙作品集

鎌倉書房

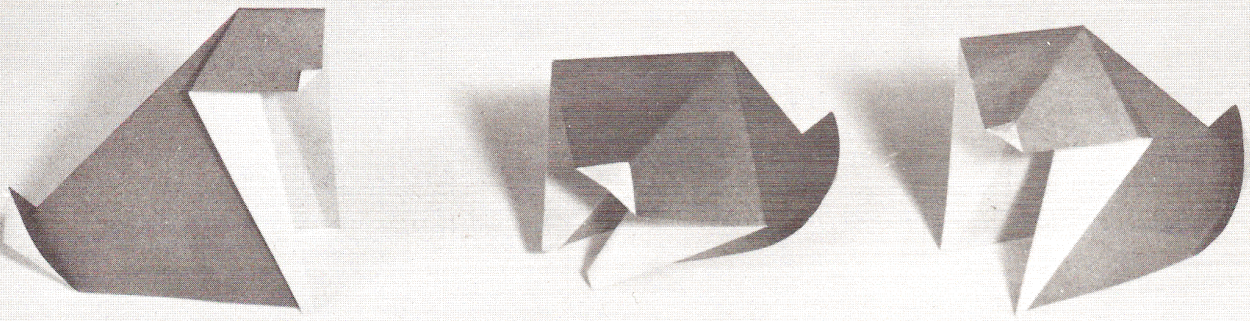
目次

はじめに	1
こいぬ	2
魔法のじゅうたん	4
グライダー	5
おうちと木	6
ちようのいろいろ	8
かたつむり	10
かんむりとぼうし	12
とらの子	14
てんぐ	16
からすてんぐ	17
きんぎょ	18
花かご	20

折り紙の限界	22
創作について	22
基礎折りについて	22
やくそく	23
用紙の作り方	23
基礎折り	24
内裏雛	26
五人ばやし	28
こいのぼりとかぶと	30
菖蒲の花	32
エンゼルフィッシュ	34
ほととぎす	36
がん	37
雉(きじ)	38
ことり	40
とんぼ	42
すず虫とこおろぎ	44
きつねの面	46
用紙の原型と折づるの バリエーション	47

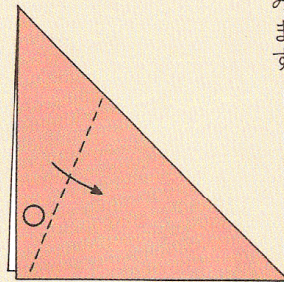
えび	48
さかな	50
海がめ	52
子ぐま	54
からふと犬	56
ゴリラの子	58
うさぎ	60
クリスマスの飾り	
星 ろうそく くつ下	62
サンタクロース	64
ししがしら	66
おにの面	67
鬼	68
森のこびと	69
快速艇	70
ひこうき	72
燈台	74
雪国のこども	76
あとがき	78

こいぬ



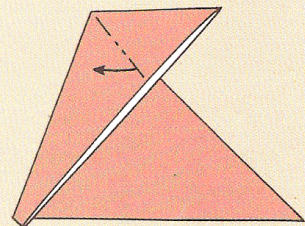
①

なににみえるかな？
○印を前にして
わんわんをつくり
ましょう ちよっと
谷線を折って
みます



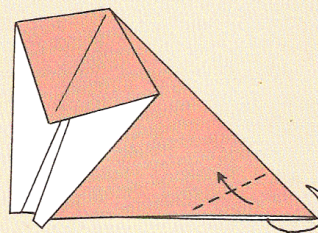
②

おや うしろをむいて
いるところかな
上のふくろをひらいて
みましょう



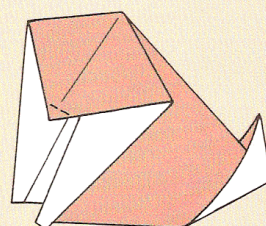
③

ほら おかおができた
あんよができた
こんどはしっぽを
つくりましょう



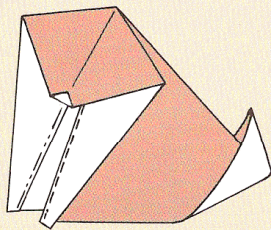
④

おはなをつくれば
もったかいくな
りますよ



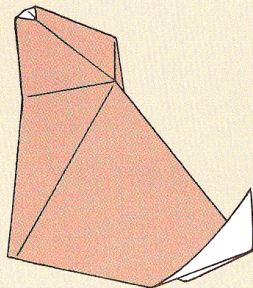
⑤

どこからおもしろい
においがしてくるぞ
山線と谷線に
折りかえたら……



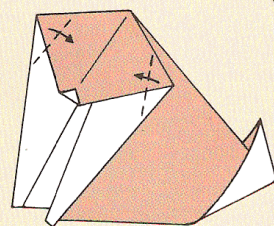
⑥

あつちをむいたり
こつちをむいたり
おはなをくくん
させてます



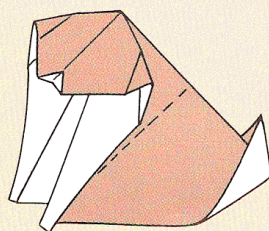
⑦

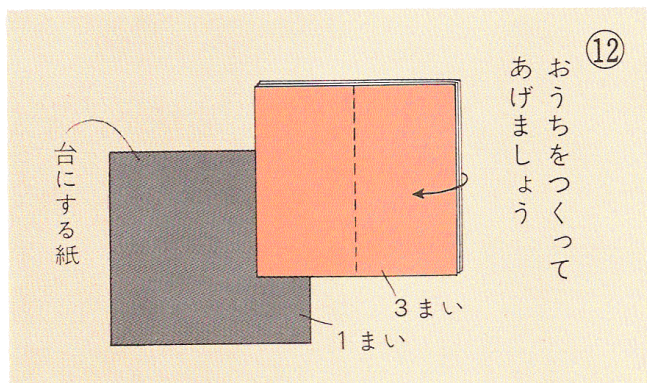
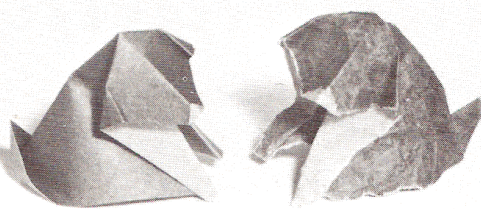
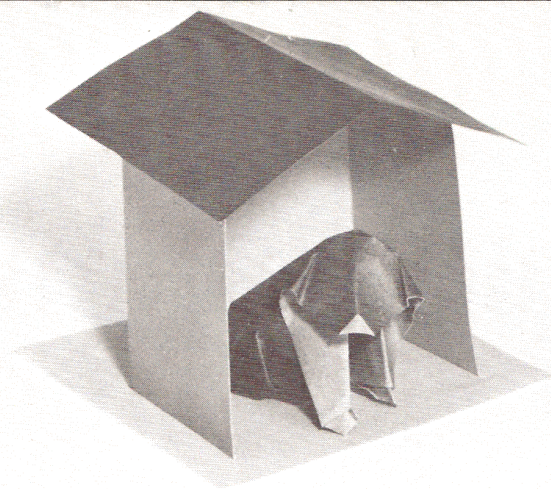
さつきから
おかあさんが
よんでいる
おみどうしたの……



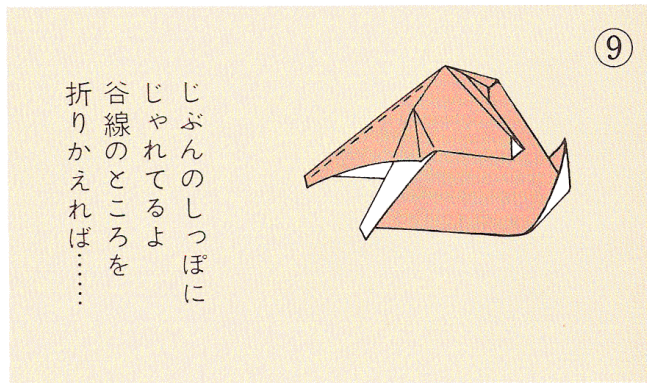
⑧

谷線を折ってから
おなかを
ふくらませれば……

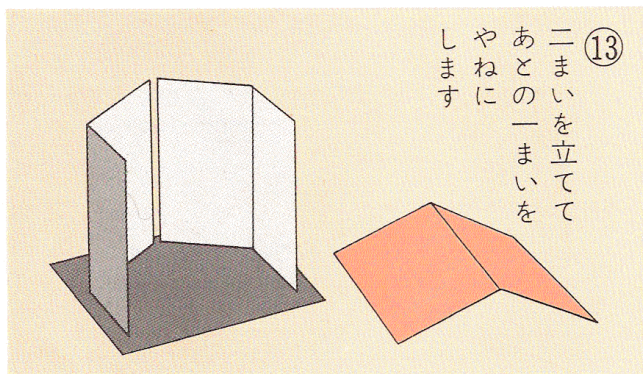




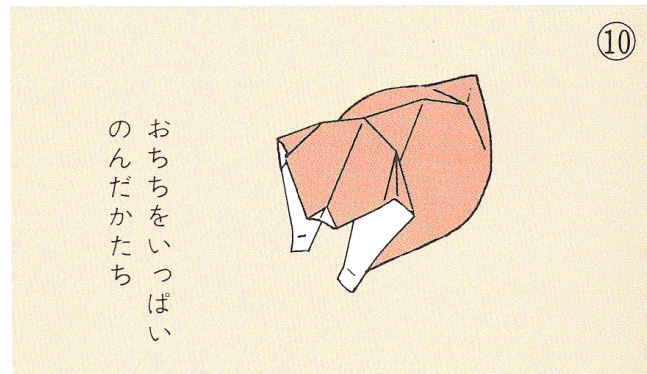
⑫
おうちをつくって
あげましょう



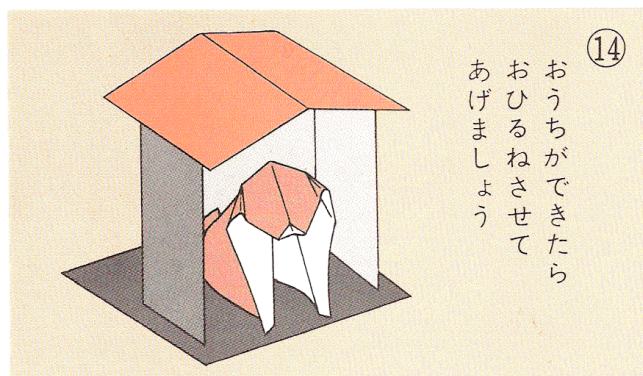
⑨
じぶんのしっぽに
じゃれてるよ
谷線のところを
折りかえれば……



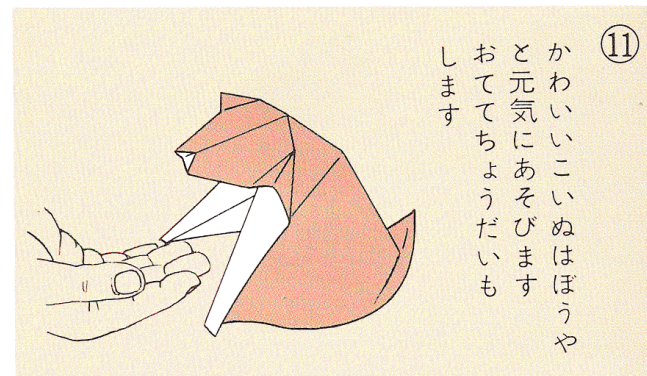
⑬
二まいを立てて
あとの一まいを
やねに
します



⑩
おちちをいつぱい
のんだかたち



⑭
おうちができたら
おひるねさせて
あげましょう



⑪
かわいいこいぬはぼうや
と元気にあそびます
おててちょうだいも
します

幼児向きの折り紙
この折り方を参考にしてたのしい雰囲気をいろいろ工夫してください。

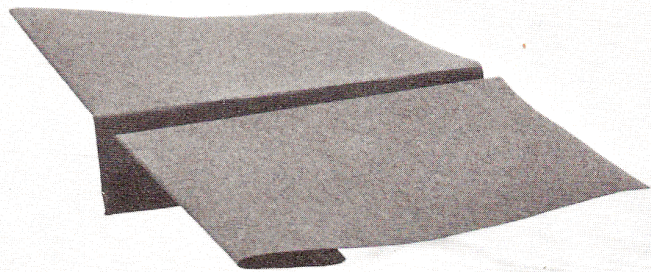
①図、正方形の紙を対角線に折って立て、坐っている動物に見たてます。この場合、何に見えますかというような質問をしないで、小さいこともと同じ向きに並んで、いっしょに考えながら、やさしいテーマをつけて、情緒的に操作を展開してください。

②図、上のカドを頭に見たてることによって、③④図、紙の中ほどが体、右のカドが尾になり、全体の意味づけがしぜんにできてきます。

紙の合せ方がずれても、また、頭の大きさや前足の太さなども全く自由です。頭を大きくすれば幼いこいぬ、頭を小さくすれば母犬になります。紙をもんでのばし、ふちを指先でちぎって折れば毛むじらの感じになります。

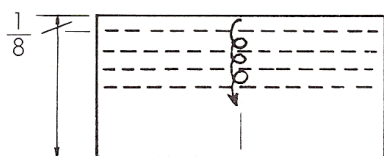
なお、この折り方は正方形でない不等辺四角形や菱形に近い紙でも折れます。

ここでは◎はつけませんがそれぞれに個性があります。



魔法のじゅうたん

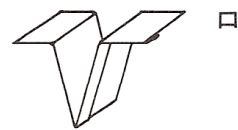
参 考 図



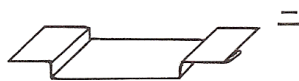
ホ



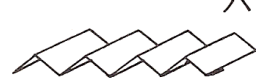
イ



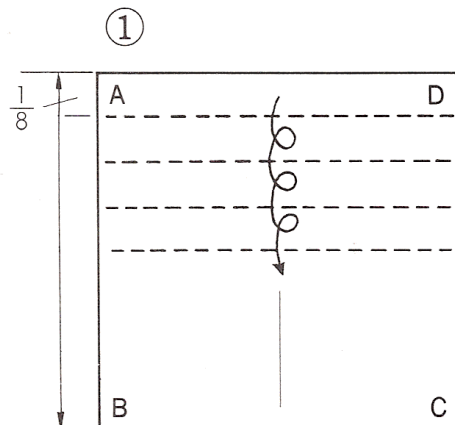
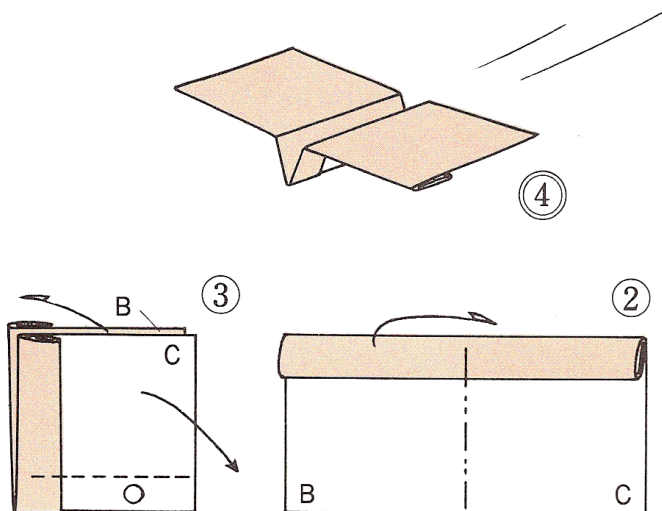
ロ



ニ



ハ



正方形の紙で折れる「グライダー」と、童話に出てくる「魔法のじゅうたん」を工夫してみました。グライダーは戸外でも飛ばせますが、魔法のじゅうたんは室内または風のないところで飛ばします。

魔法のじゅうたん

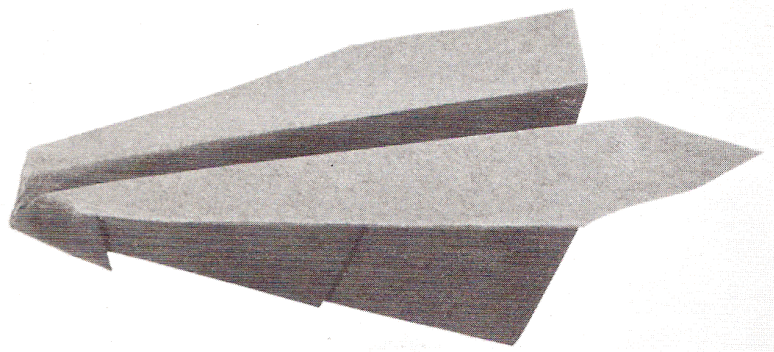
① 正方形の紙の上から $\frac{1}{8}$ の幅を四回折る。

② 中心の折り線からBを裏へ折る。

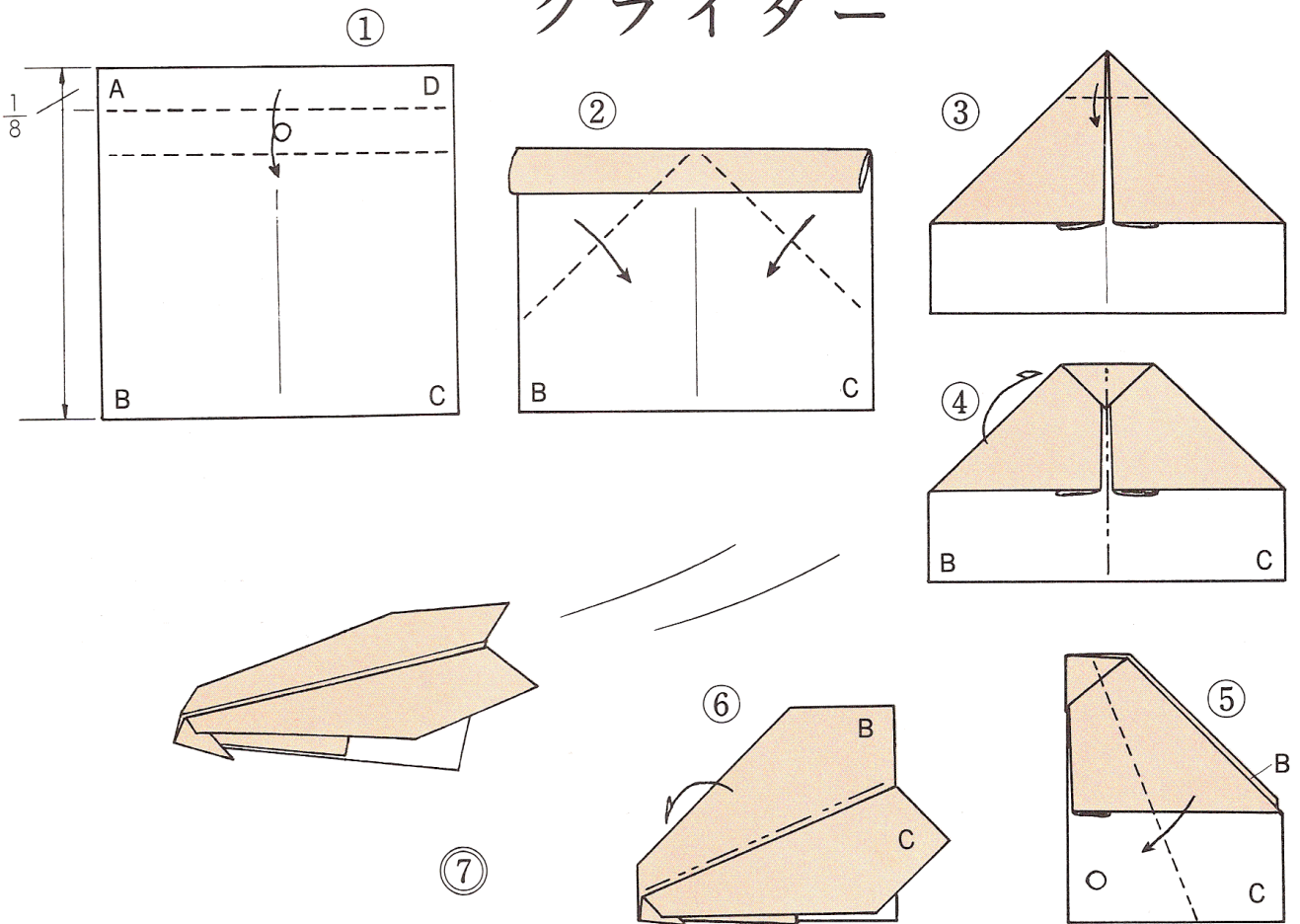
③ 谷線の位置からBとCを矢印にひらいて折る。

④ ④の形にととのえ、③の○印のところを持って、軽くはずみをつけて手を放す程度にします。あまり力を入れすぎないようにします。

〔註〕この折り方の特徴は重心のとり方が理想的なので、滞空時間が長いことです。②まで折ってから参考図イ、ロ、ハ、ニのように折るかえてもよく飛びますが、原形をホのように長方形にしても飛びます。参考図ホの長さは幅の二倍ですが、薄口の紙で上手に作れば、長さが幅の三倍位でも飛びます。(その後の実験で幅の二十倍の長さの紙でも飛ぶことが判りました。)



グライダー



グライダー

① 正方形の紙の上から $\frac{1}{8}$ の幅を二回折る。

② 巻き折りにした部分を指でしごいてなじませてから矢印に折る。

③ 谷線のところを親指の爪で強く押しつけてからカドを折り下げる。

④ 中心の山線を折るさい、上の方つまり小さい三角のところをやぶれないように、しずかに押しつけて二つに折る。

⑤ 谷線でCを矢印に折る。

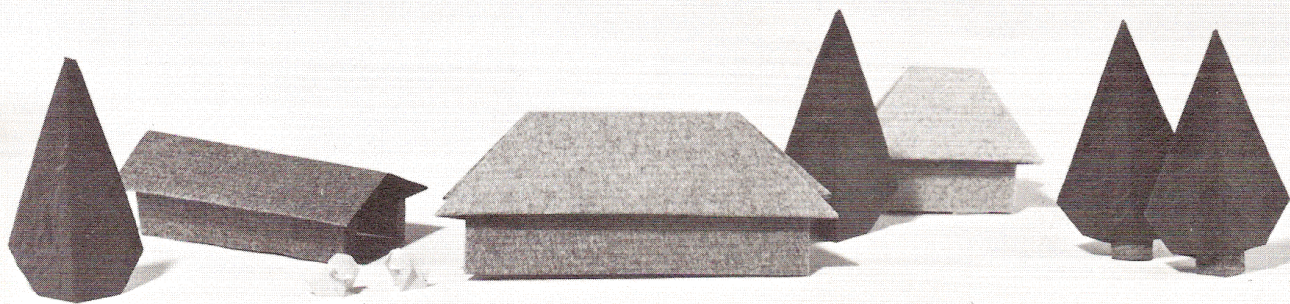
⑥ Bを向う側へ折る。(⑤の左上の小さい三角がずれて少し出た方がよく飛ぶ。)

⑦ 出来上り。

飛ばし方は⑤の○印を持って軽く投げる。

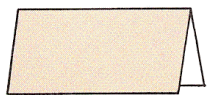
〔註〕このグライダーの特徴はゆるやかな飛び方です。

紙の厚さは普通便箋ていどの紙で15 cm 四方位を基準にして、厚さや大きさを加減して下さい。

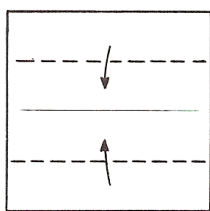


—— おうち ——

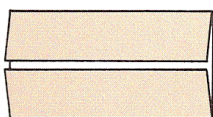
〔イ〕



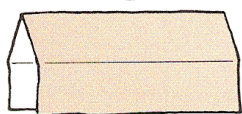
①



②

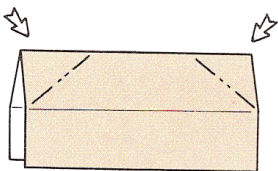


③

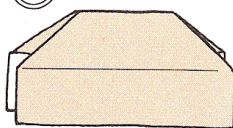


〔ロ〕

①

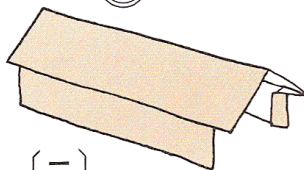


②



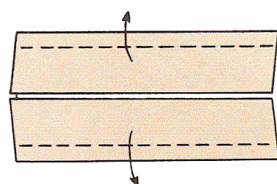
〔ハ〕

④

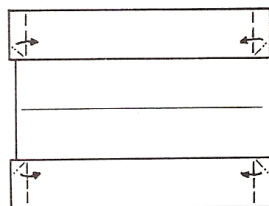


〔ニ〕

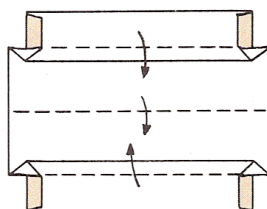
①



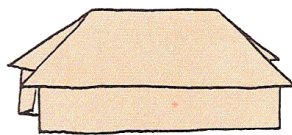
②



③



⑤



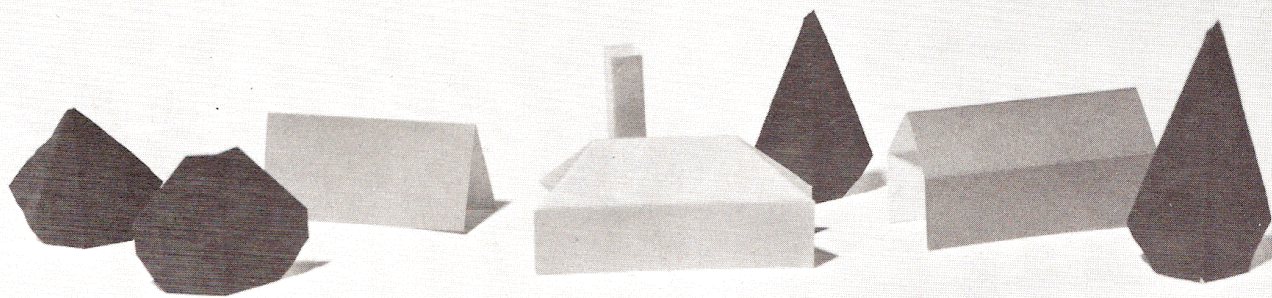
〔ホ〕

○〔ホ〕、〔ニ〕の折り方で、大きいのと小さいのをつくって重ねれば、二階建てになります。

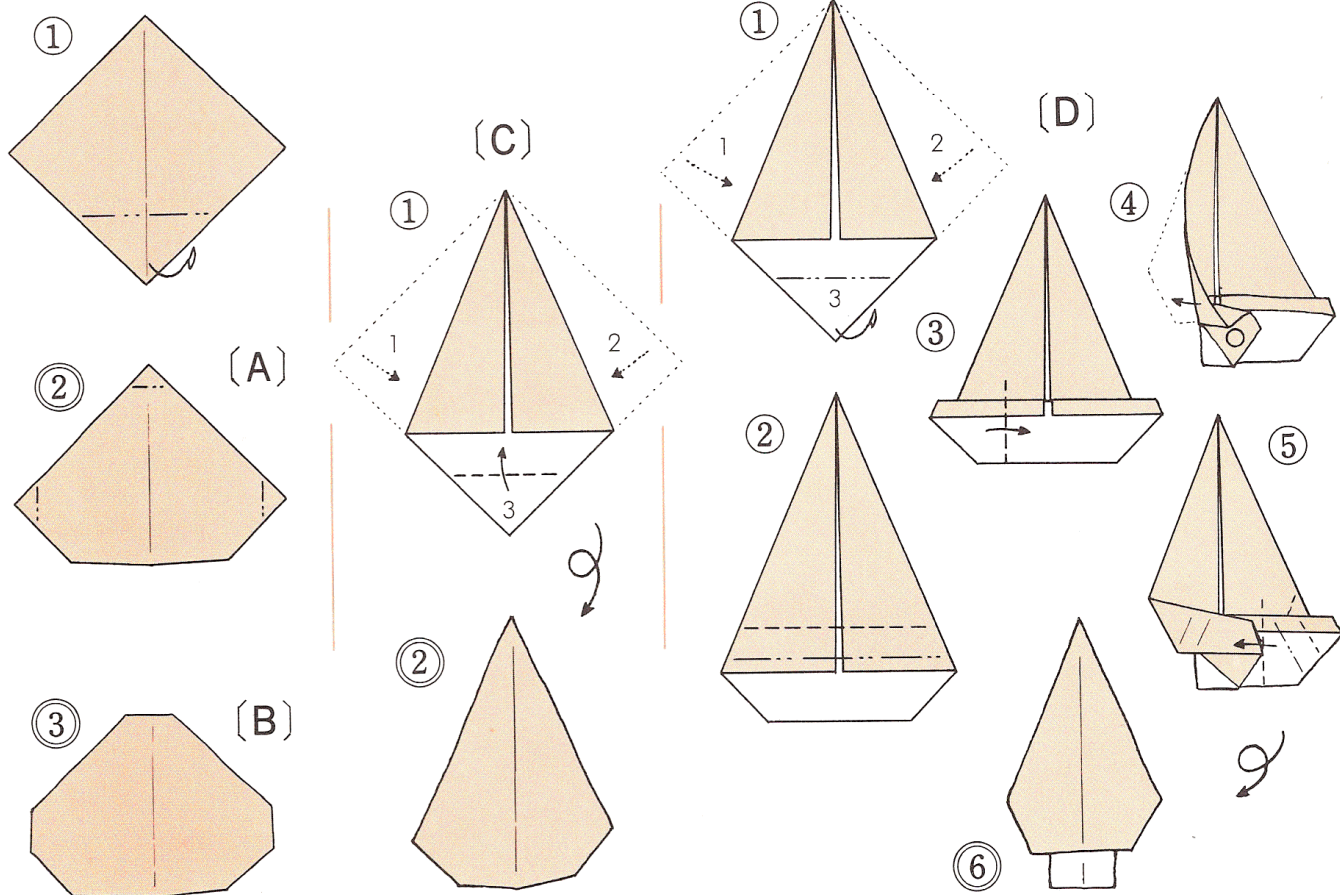
〔イ〕 正方形の紙を横に二つに折って立てる。
〔ロ〕 ①、②のように折り目をつけてつくる。
〔ハ〕 〔ロ〕の屋根のカドを折り込んだものです。
〔ニ〕 正方形の紙を①、②、③と折り、立つように折り目をつけて出coming。
〔ホ〕 〔ニ〕を〔ハ〕のように屋根のカドを折り込んだものです。

色とりどりの紙で、おうちや木をたくさんつくって、街や村をつくってください。並べ方でいろいろと感じがうものです。

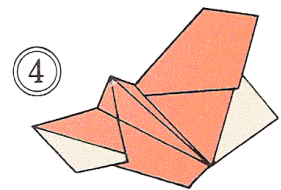
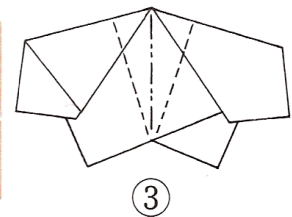
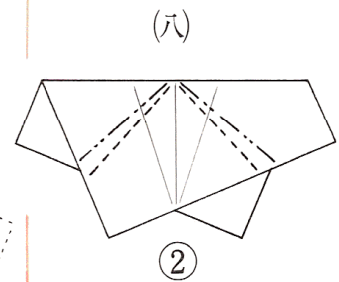
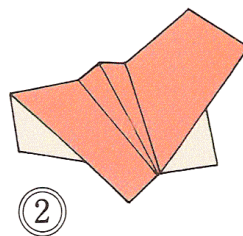
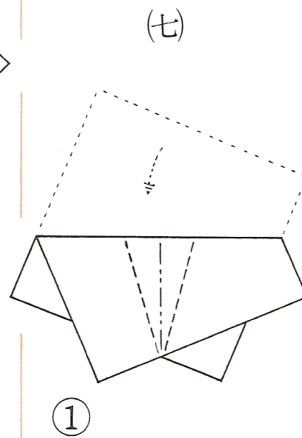
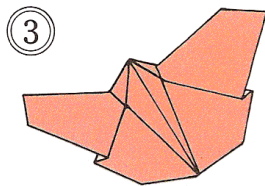
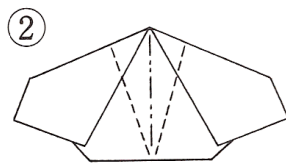
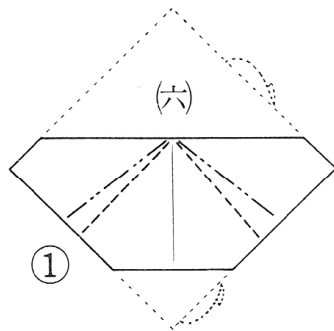
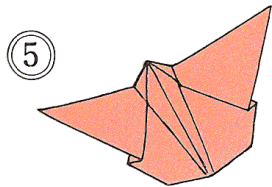
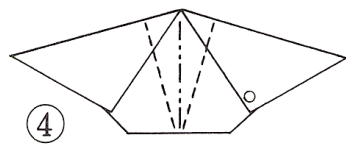
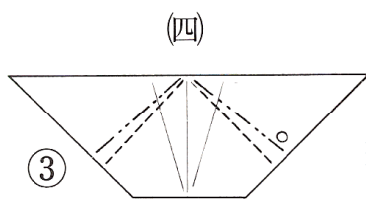
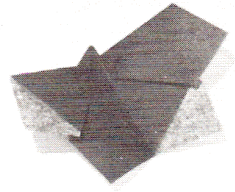
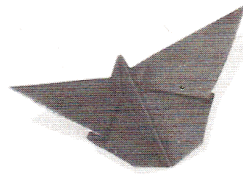
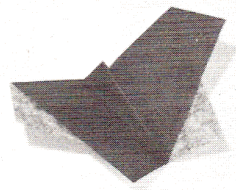
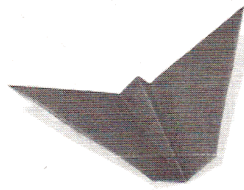
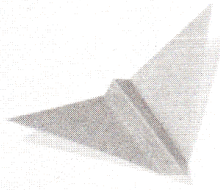
おうちと木



木

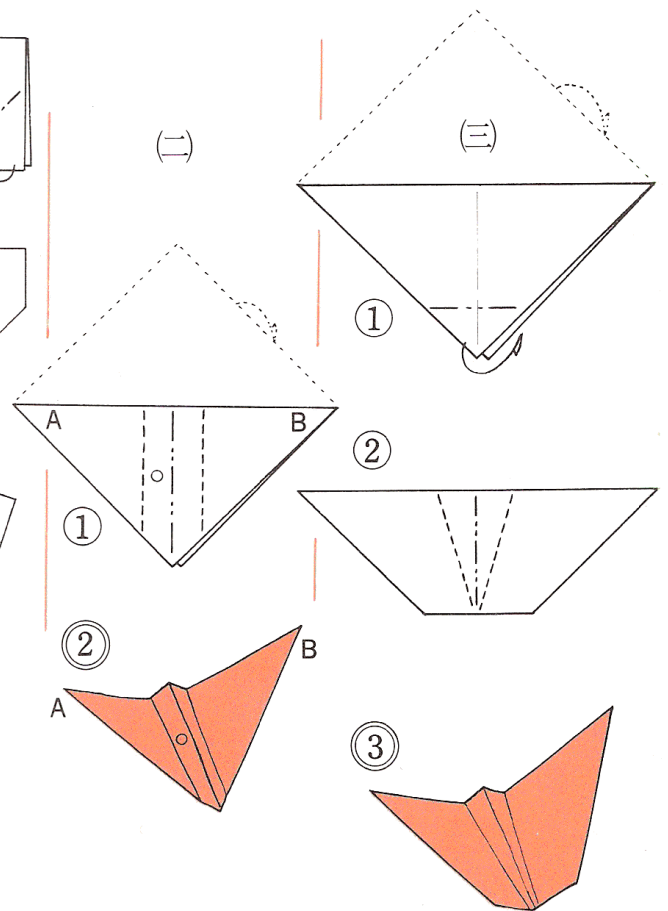
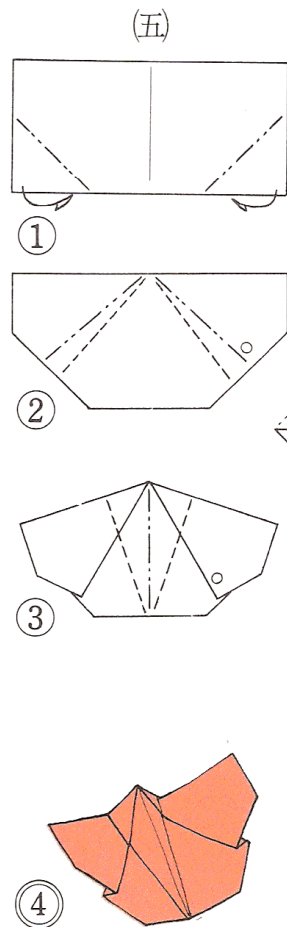
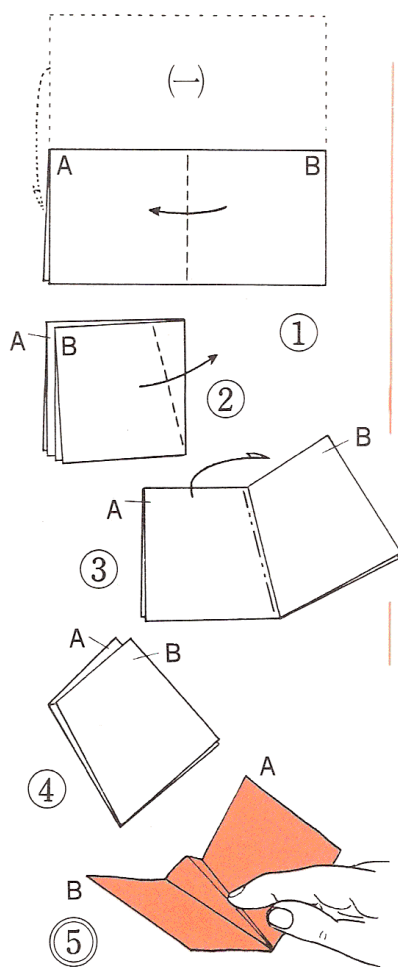
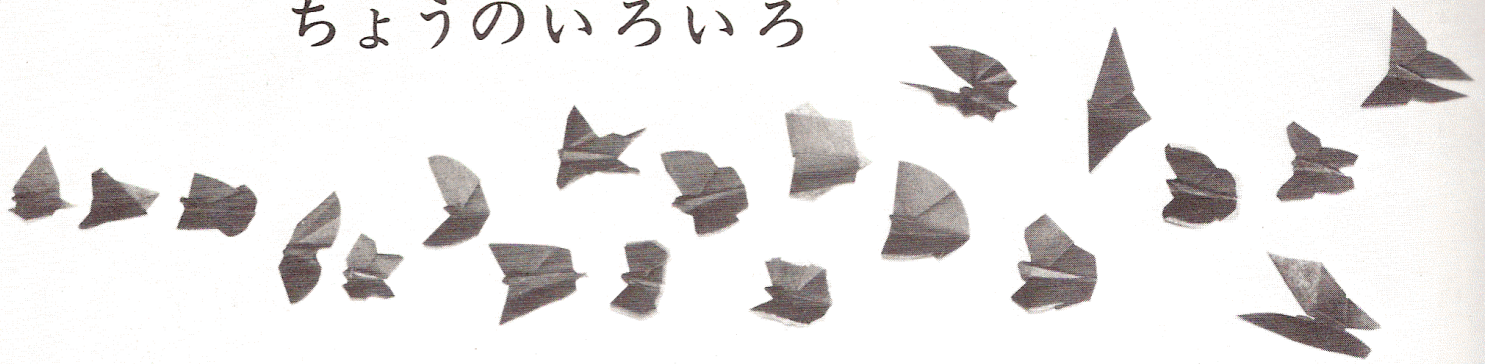


木
〔A〕 正方形の紙に対角線に折り目をつけてから、下のカードを裏に折って出来上り。
〔B〕 Aの出来上りの上と左右のカードを小さく裏に折ったものです。
〔C〕 正方形の紙に対角線の折り目をつけてから、1、2、3の順に折っていく。
〔D〕 正方形の紙を①、②、③まで折り、③の矢印に下のほうだけ④のように軽く折って、○印をおさえ、点線へしずかにひらきだす。
⑤ 右側も同様に折って出来上り。
⑥ 片側染の紙、または幹になる部分に別の紙をはさんで折ります。
〔註〕 もんでからのぼした紙で折れば葉の茂った感じになります。
立木は近くにある木の緑は濃く、遠い木の葉は同じ緑でも薄青に見えることなど、自然の風景を考えて情緒的に配置して下さい。



- (一) ① 正方形の紙を横に二つに折る。② Bを矢印に折る。③、②で折った折り目に合せてAを向う側へ折って④。⑤ 出来上り。動かし方は図のように指で軽くおさえて離せば羽が動く。
- ②③の折り目は中心の折り目に平行にならないようにして、適宜にからだの大きさを加減します。
- (二) ① 正方形の紙を対角線に折る。あとは(一)とほとんど同じ折り方である。この場合、からだと羽のつけ根の折り目を中心の山線に平行に折って② 出来上り。
- (三) ① 正方形の紙を対角線に折って、二枚重ねたまま裏へ折る。② 山線と谷線に折り目をつけて、③ 出来上り。
- 幼児には鋭角のつよい形はあぶないし、感覚的にもきつすぎるから、からだになる折り線を幅広く折って仕上げます。なお、羽の先も小さく折り込んで下さい。
- (四) (三)の出来上りをひとまずのばし③、山線と谷線に段をつけて前羽と後羽をつくる。④ 山線と谷線(もとの折り目)に折りまとめて、⑤ 出来上り。
- (五) ① 正方形の紙を横に折って、左右同じに下のカドを折り込む。

ちょうのいろいろ



あとは(四)の折り方と同じように折りまとめる。④出来上り。

(六) はじめに縦の対角線に折り目をつけてから、その折り目に上下のカドを合せ、横の対角線より少し上のほうから裏へ折り、下も裏へ折る。あとは(四)と同じに折り、③出来上り。これでちょうの羽の軽やかさが出たわけです。

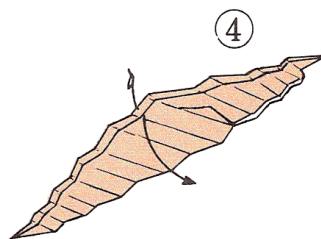
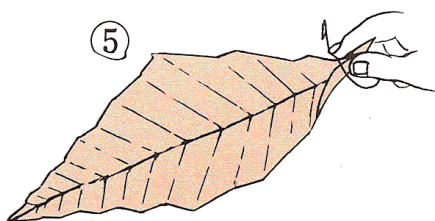
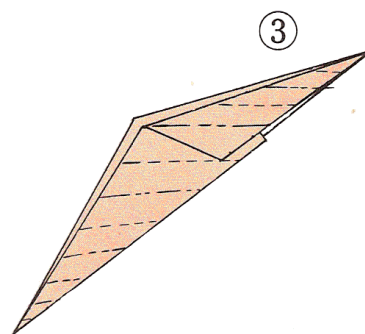
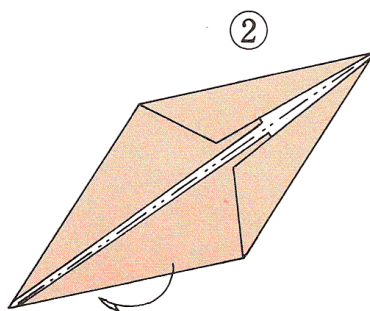
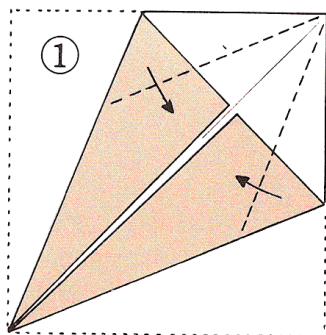
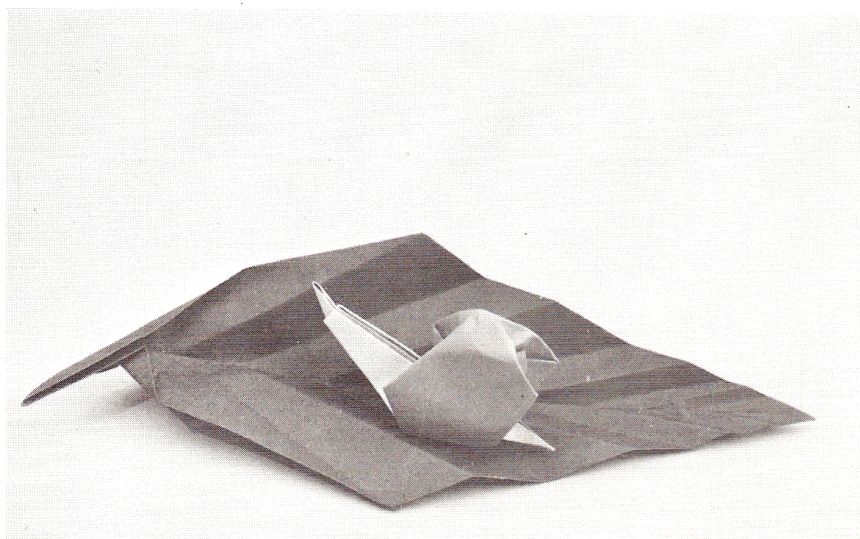
(七) 正方形の紙を①のように斜めに折り、山線と谷線に折り目をつけて、②出来上り。

(八) (七)の出来上りをひとまずのばし、②③(四)と同じに折って、④出来上り。

○ 対角線と横に二つに折った平行線の折り目の交点を紙の中心にすれば、左右の羽が正しく重なりますが、幼児には左右の羽が同じにならなくてもよいので、自由に折らせて下さい。

〔註〕(一)から(八)まで折り方を適当に組み合せて、形のちがった紙で工夫すれば、かぎらない変化が得られます。左頁の写真は正三角形、菱形、正方形、長方形、五角形、八角形、円、楕円などで、平行線や放射線状のうね折りをとり入れて、同じ折り線の応用で折ったものです。

かたつむり



木の葉

木の葉

かたつむりのカラの色に合わせてなるべく濃い緑などを選んで折ります。

① 正方形の紙を①のように折り、さらに矢印に折る。

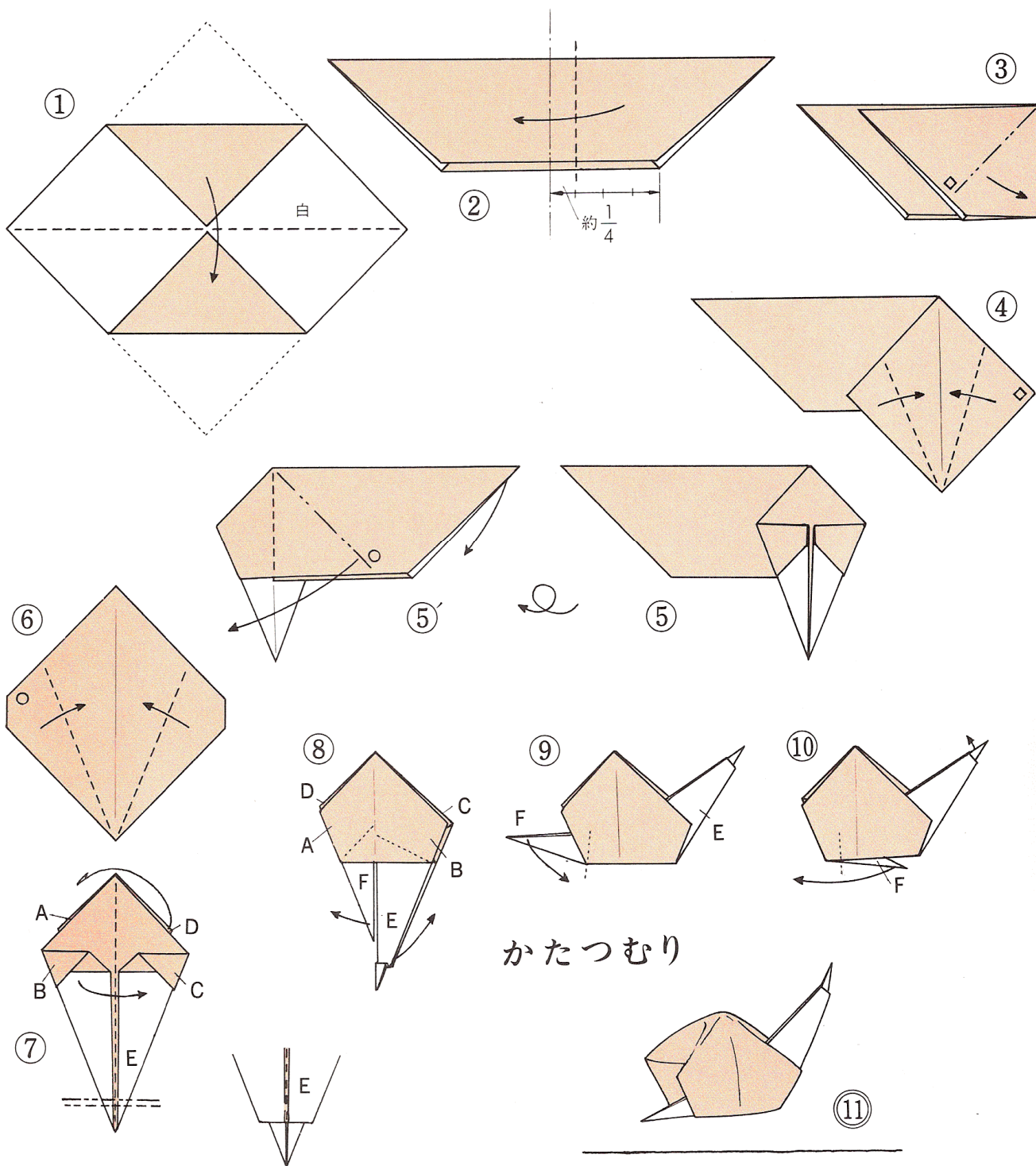
② 二つに折る。

③ 上の方から谷線、山線、谷線、山線と交互に折って斜めの畝折りの折り目をつける。この場合、葉の元と先の畝折りの幅はだんだんせまくする。

④ 小じわをつくらないように、そっとひろげる。

⑤ 折り紙らしさを失わないように注意して、カドをつまんで一方にねじって折り目をつけ、生き生きしている葉の姿に形をととのえる。出来上り写真。

木の葉は、②の菱形のままでもよいでしょう。



かたつむり

かたつむり

裏の白い紙で折ります。

正方形の紙の対角線に折り目をつけてからひろげ、反対側の対角線をかたく折って紙の中心にしるしをつけ、①のように折り、さらに二つに折る。

②約々中心からずらして折る。

③上の袋をひろげる。

④矢印に折る。

⑤裏返す。

⑤上の袋を折りひろげる。

⑥矢印に折る。

⑦Eのカドに段をつけてから、Bを表にDを裏へ折り返す。

⑧FをADの間へ、EをBCの間へ、それぞれ点線の内側で折り上げる。

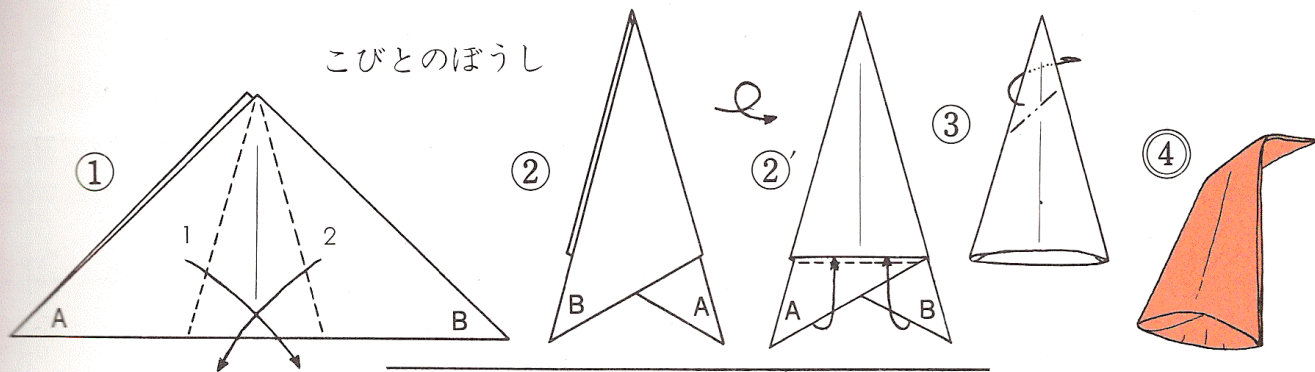
⑨Fを点線の位置から折り返す。

⑩Fを短かく折り返し、カラをふくらませる。

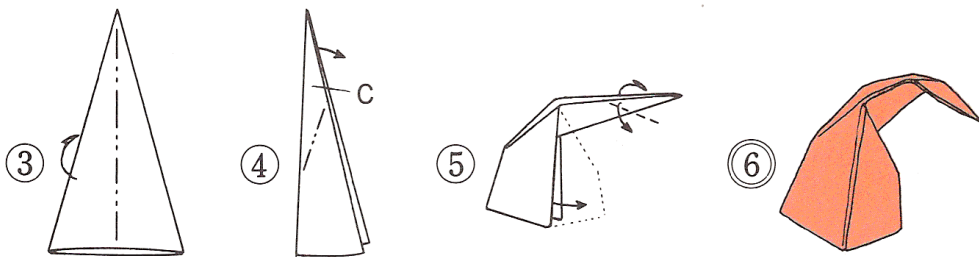
⑪出来上り。

●クビの部分を細く折りかえ、横に長くのばして形をととのえればおうちをやッコサと引っぱってゆくかたつむり。細いクビを上にあげれば、ちよっと一ぷくしているかたつむりになります。

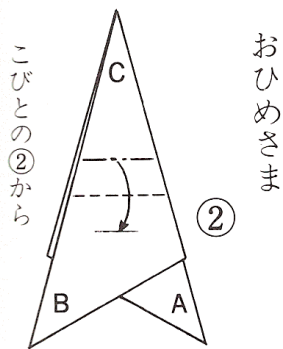
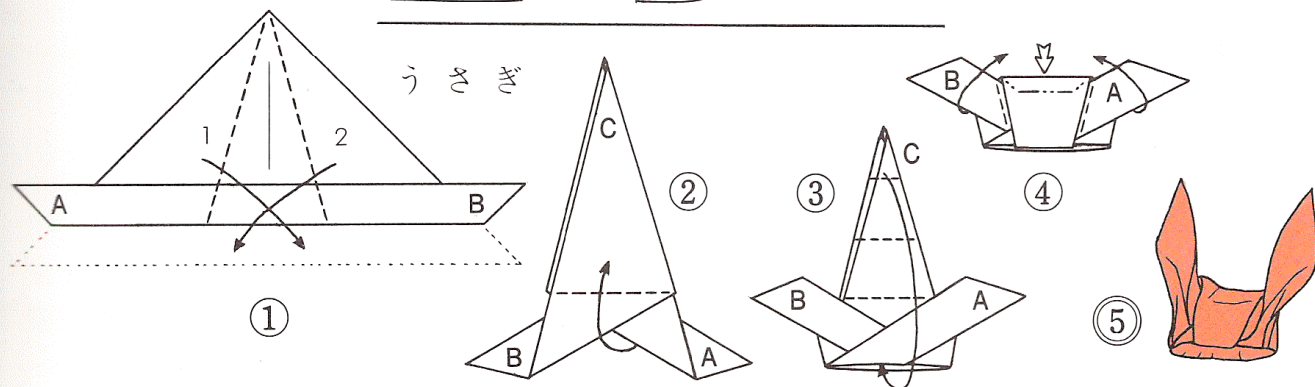
こびとのぼうし



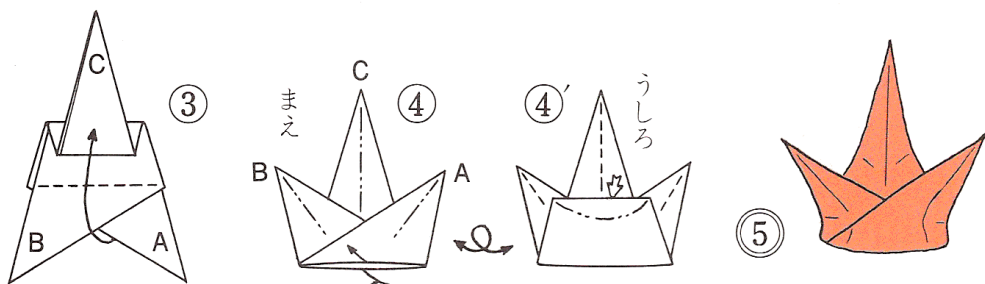
まほうつかい
こびとの③から



うさぎ

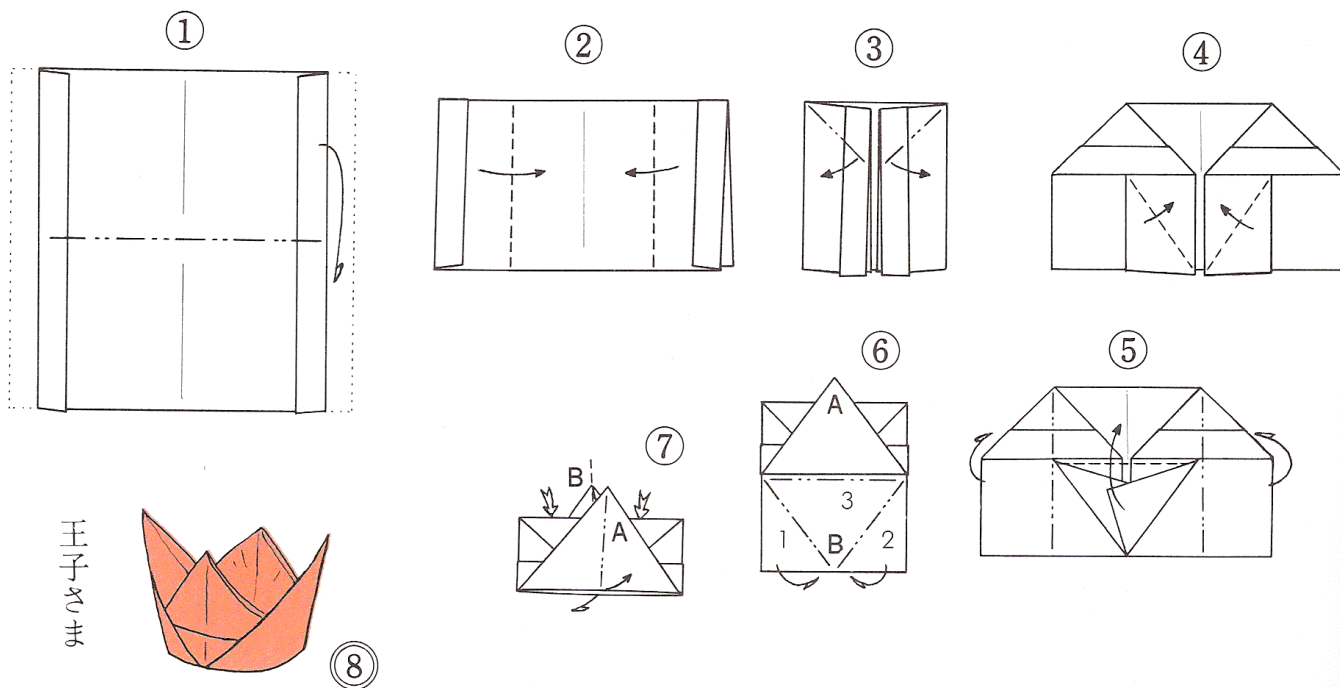


おひめさま

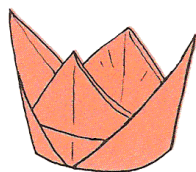


- こびと
- ① 正方形の紙を対角線に折ってから、1、2の順に折る。②裏返す。
 - ③ ABCを袋の中に折り込み、先を軽くまげて、④出来上り。
 - まほうつかい
 - ③ こびとの③を二つに折る。④ Cを矢印に折る。⑤ 点線に引き出し先を折り返して、⑥ 出来上り。
 - うさぎ
 - ① 図のようにABを折り返してから、1、2の順に折る。② 折り上げる。③ Cを折って内側へ入れる。④ ABを引き起こして中をひろげ上からおしつぶし、形をととのえて、⑤ 出来上り。
 - りす
 - うさぎの耳を(イ)、(ロ)のようにして折り、耳の元のところをつまんで形をととのえる。⑥ 出来上り。
 - おひめさまのかんむり
 - ② こびとの②を、山線と谷線で段をつける。③ ABを折り上げる。
 - ④ ABCを山線につまんでから矢印に開き、④のように矢印におし込み、形をととのえ⑤ 出来上り。
- 童話のぼうしを折りましょう。
大きく折れば写真のようにかぶれます。また、8 cm位の紙で折って、かわいい指芝居もできます。

かんむりとぼうし



王子さま



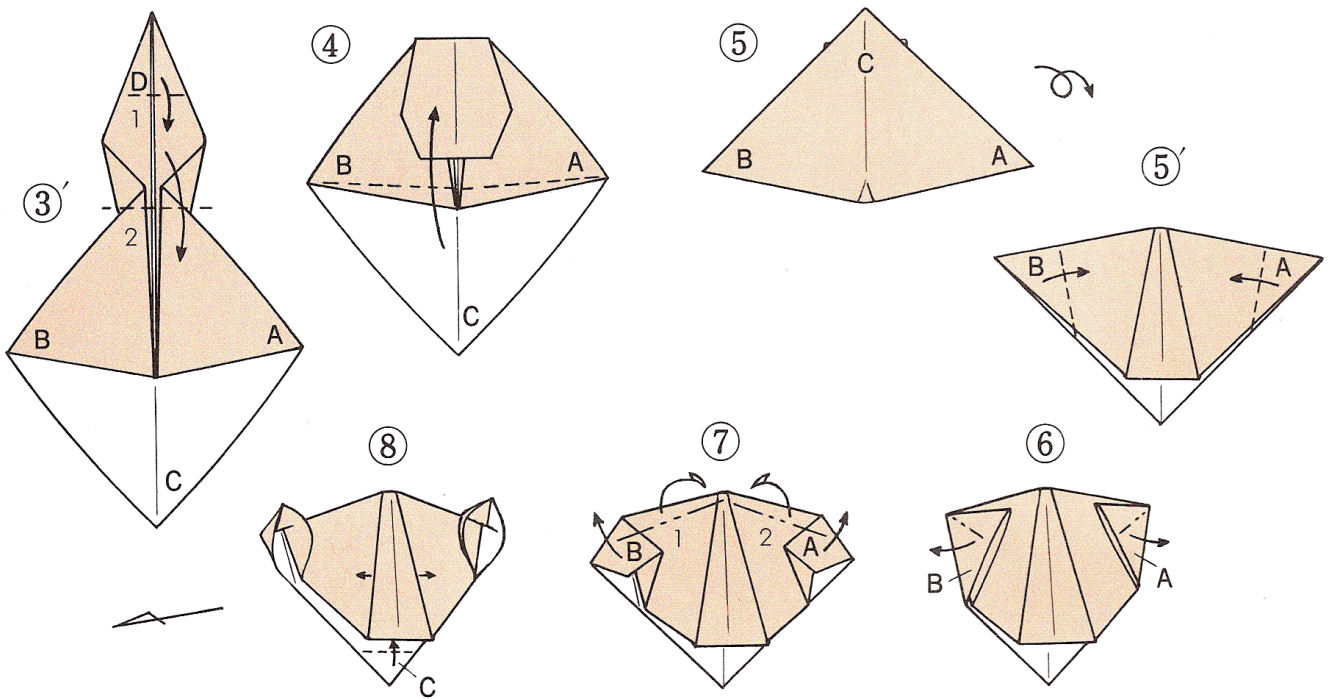
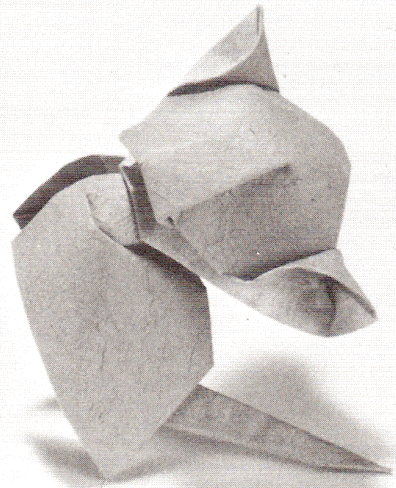
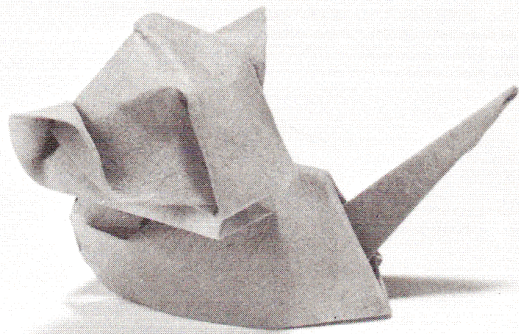
⑧

王子さまのかんむり
 正方形の紙を番号の順に⑥まで折り、⑥のBを1、2、3の順に裏へ折る。⑦下の矢印に開き、上の矢印に押し込んで形をととのえて⑧出来上り。

○紙の大きさは五、六歳の子供の場合、おひめさまとこびととまほうつかいは75 cmくらい、うさぎとりすは80 cmくらい、王子さまのかんむりは60 cmくらいで折ります。王子さまのかんむりは②図で左右から折る分量を加減することによって、頭の大きさに合わせられます。その他のぼうしも、ABを重ねる分量を加減すれば、少しくらは紙の大きさのようずうがききます。

〔註〕薄い包み紙で折る場合は、いちど折り上げてからいったん開き、ぼうしのふちになる部分の内側に、別の紙を芯にすればしつかりします。うさぎとりすは、ぼうしの内側が浅いので、なるべく深く仕上げるようにしてください。また小さい子供たちは、かぶったぼうしが落ちそうだと、たのしく遊べませんから、リボンなどをホッチキスで止めてあごひもをつけるのもよいでしょう。

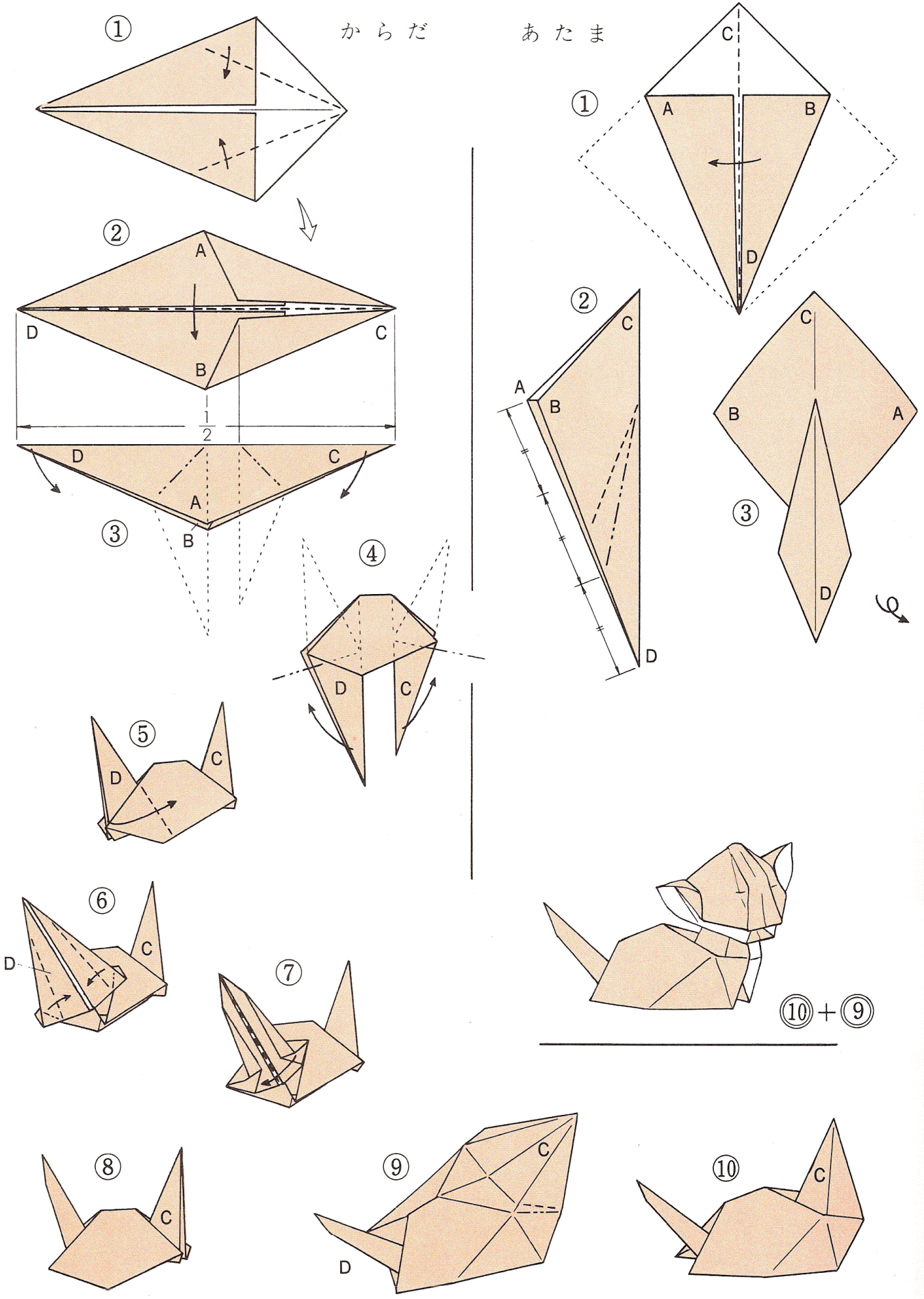
とらの子



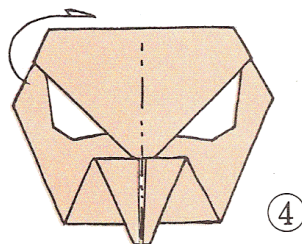
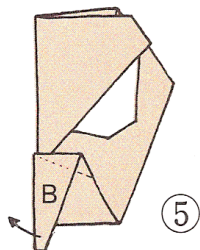
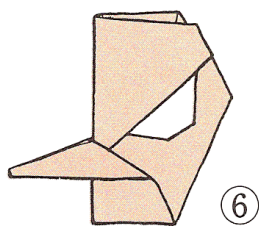
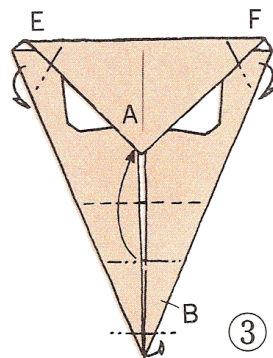
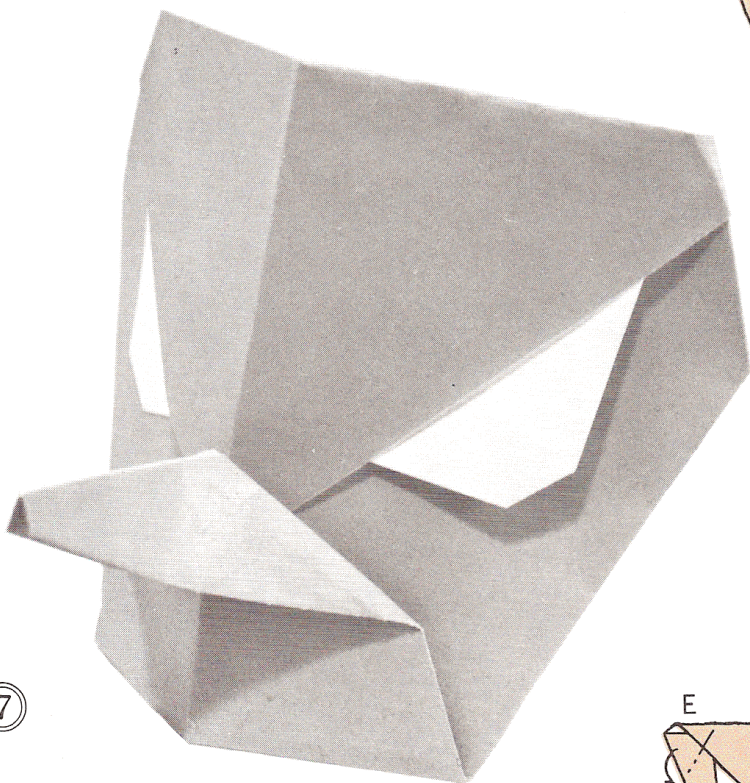
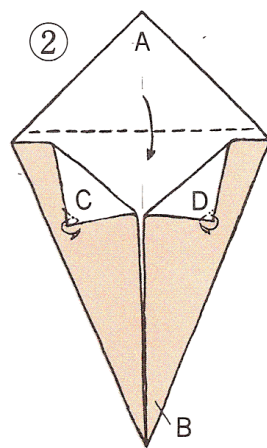
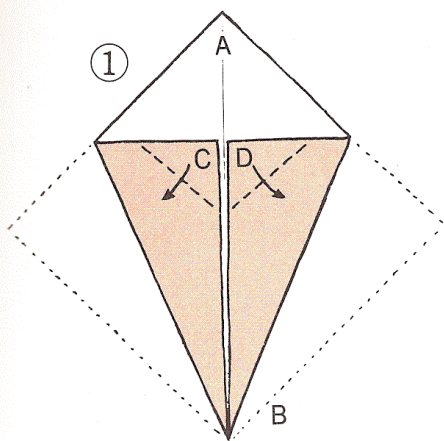
頭の向きをかえていろいろに表情がつけられるとらの子を折りましょう。正方形の紙二枚で頭とからだを作って組み合せます。頭は耳を持って動かせば口が動きます。

あたま 正方形の紙を①のように折ってから二つに折る。②山線と谷線を二、三回逆に折りかえて、折り目をやわらかくして③のように折る。③裏返す。③Dを1、2の順に折り下げる。④Cを折り上げる。⑤裏返す。⑤A、Bを折る。⑥A、Bを折りひろげる。⑦山線で1、2の順に裏に折り返し、AとBを耳の形にひろげる。⑧Cを折りこみ、鼻の内側へ指を入れて矢印におし出し、ふくらみをつけて「あたま」の出来上り。

からだ 正方形の紙を①のように折ってから、矢印に折る。②Aを折り下げる。③CとDをABの間へ点線のように折る。④CとDを点線へ折り返す。⑤Dの一枚を折り開く。⑥⑦を折って⑧のように尾を細くする。⑧を⑨のようにひろげる。⑨谷線と山線の個所を折りかえて⑩のようにふくらませて形をととのえる。「あたま」の⑦で折り返した部分を「からだ」の⑨Cの先にかけて、出来上り⑨+⑩。



てんぐ



民話などにでてくるてんぐとかからすてんぐの面を折りましょう。

てんぐ

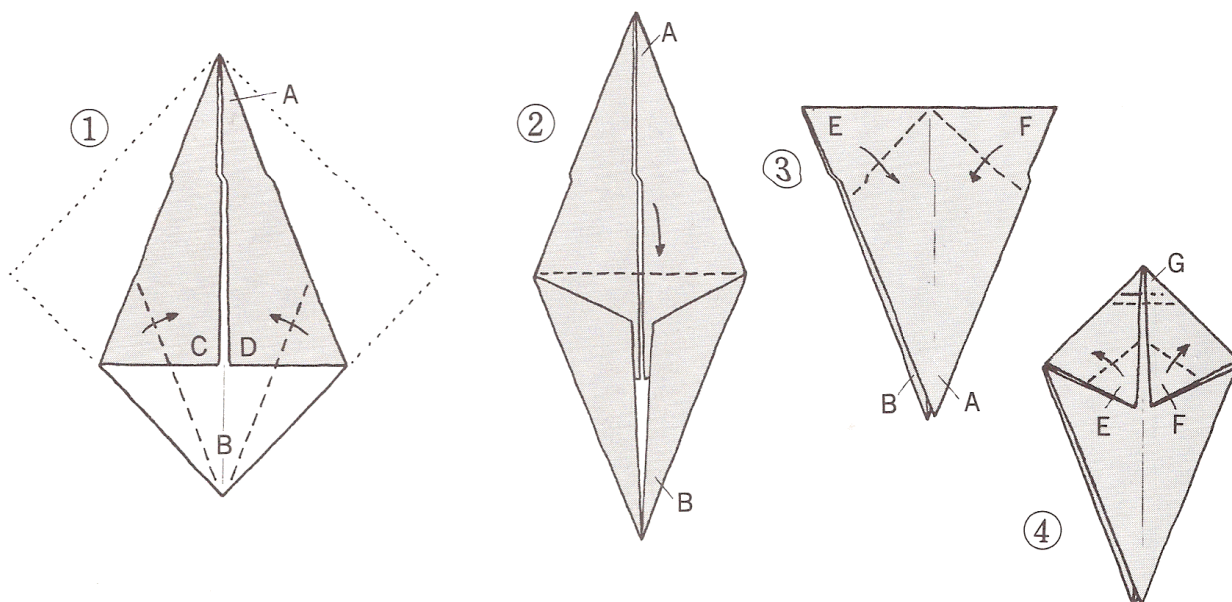
正方形の紙を対角線に折り目をつけてから、①のように折り、C Dを折る。②C Dのカドを小さく折り込んでからAをかぶせる。③E Fを裏に折り、Bに山線と谷線で段をつける。④縦に二つに折る。⑤Bを矢印に引き起こして⑥。⑦出来上り。

からすてんぐ

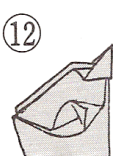
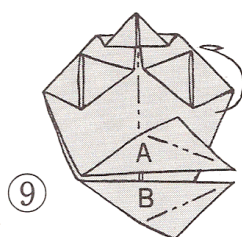
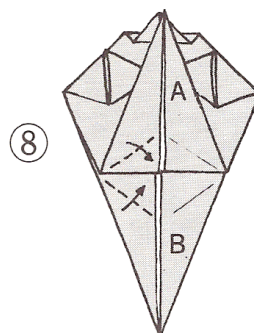
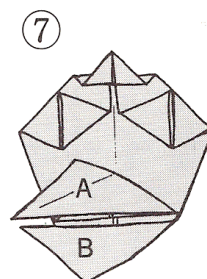
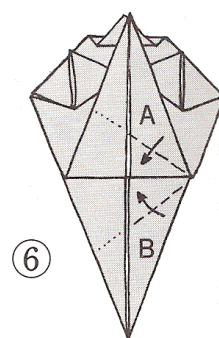
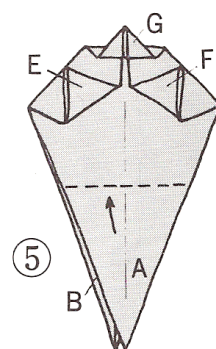
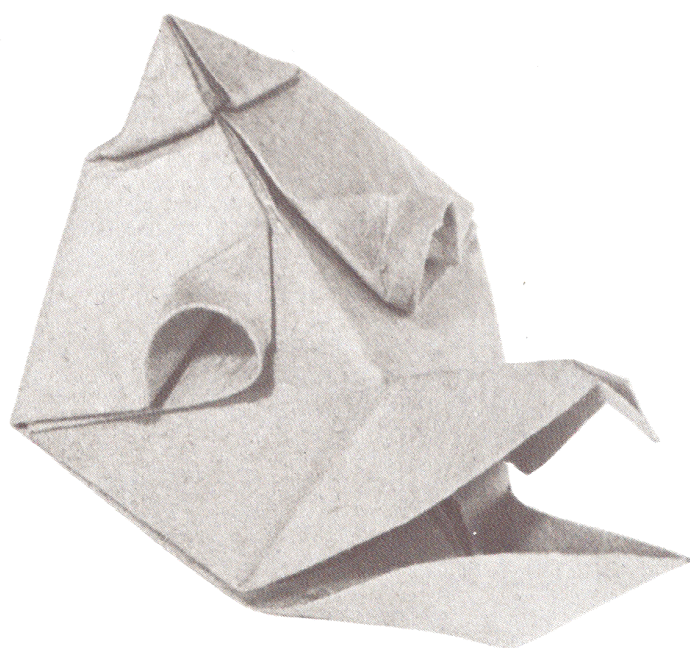
正方形の紙を①、②の順に折る。③E Fを折り下げる。④Gに段をつけ、E Fを折る。⑤Aを折り上げる。⑥A Bを⑦のようにして谷線の部分だけ折り目をつける。⑧A Bを谷線で⑥⑦の反対の向きに折る。⑨A Bを細く折りながら矢印に裏側へ二つに折る。⑩、⑪、⑫の順に口と目を折って、⑬出来上り。ほおをもつて動かせば口が動きます。

○てんぐの面は裏の白い、赤い紙で折ると良いが、目の部分に金紙を重ねて折れば強い感じになります。目や鼻の大きさも自由に形づけて下さい。

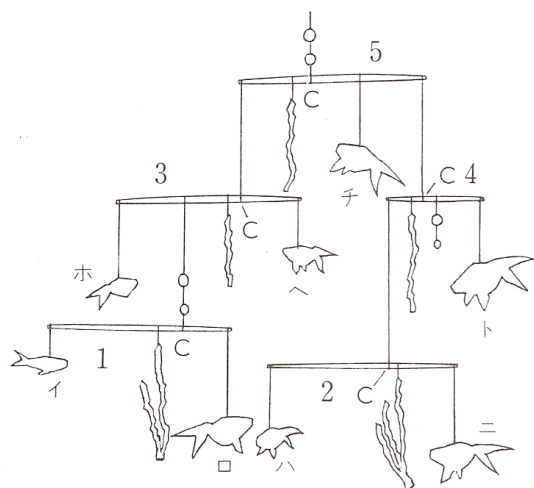
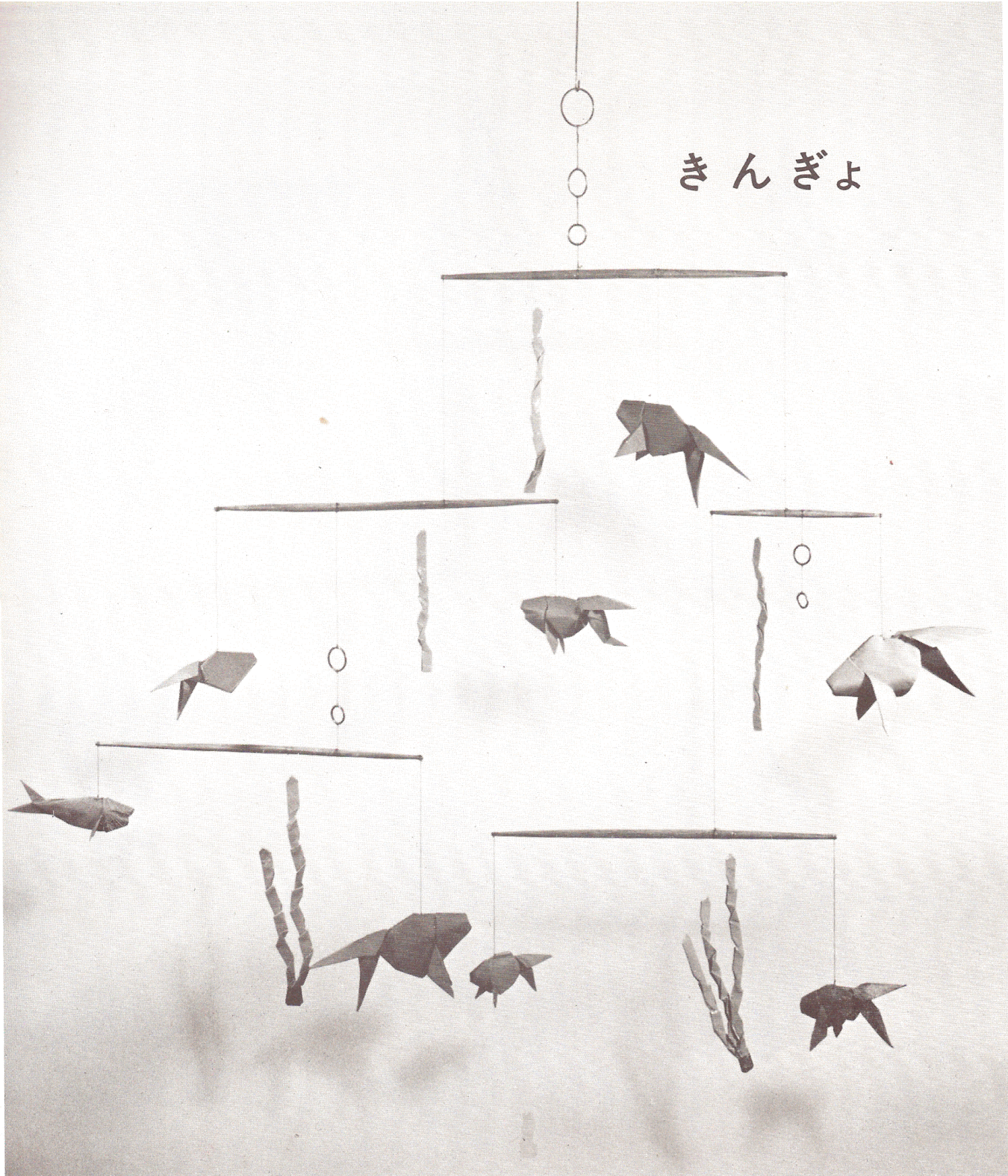
からすてんぐは、かっぱや鳥の頭に折りかえることができます。



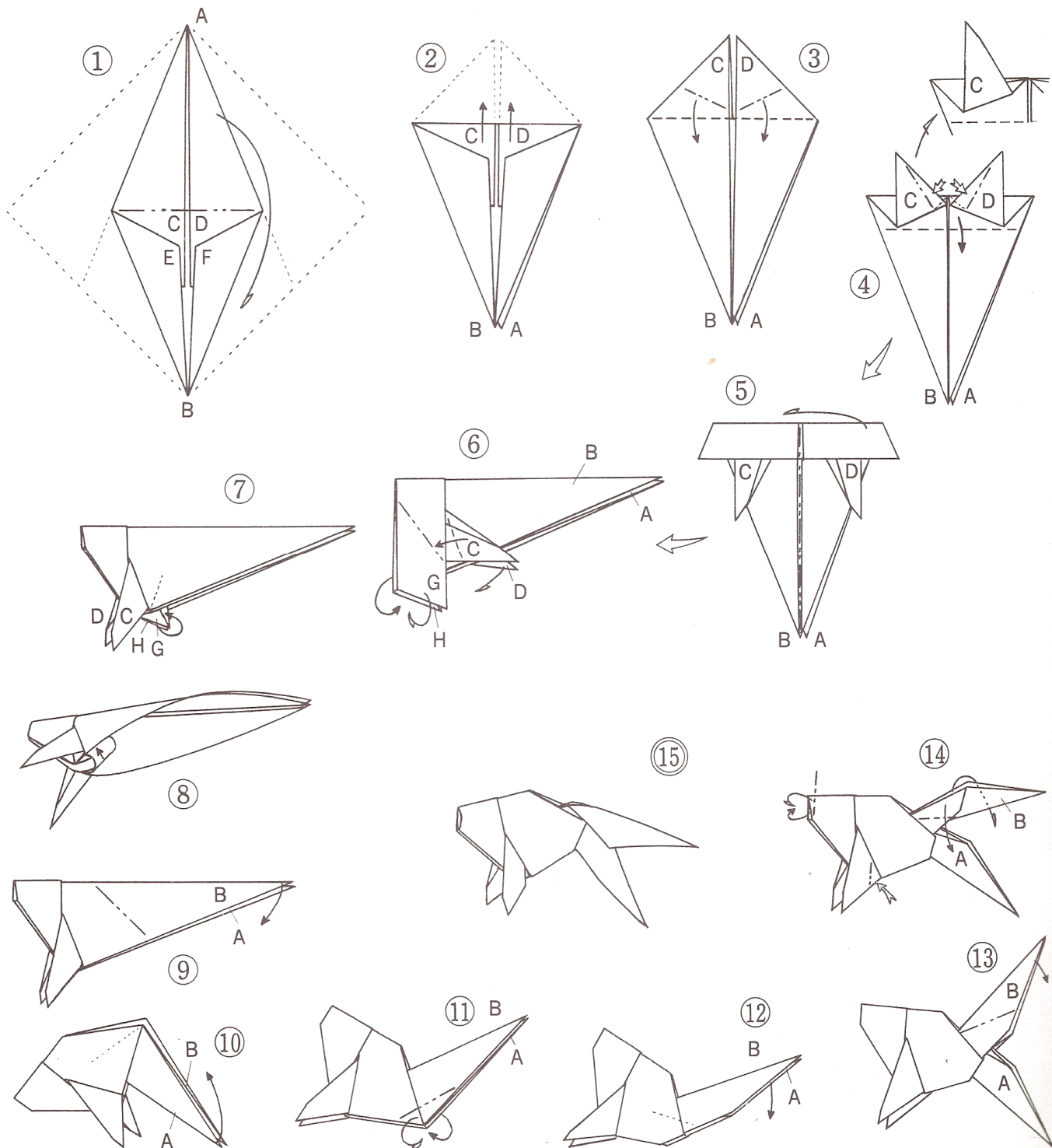
からすてんぐ



きんぎょ



きんぎょ（折り紙のモビール）
モビールの美しさは形と運動による空間の分割の調和から生まれます。上の写真は割箸の先を細くけずって、水色に染め、絹糸でつるしました。きんぎょをかわいいたくに見るように工夫をして、五本の棒をそれぞれ水平に使い、親と子の感じや、友達がたわむれているような動きにしました。参考のため数を多くしましたが、二、三尾のきんぎょでも、気のきいたモビールになります。

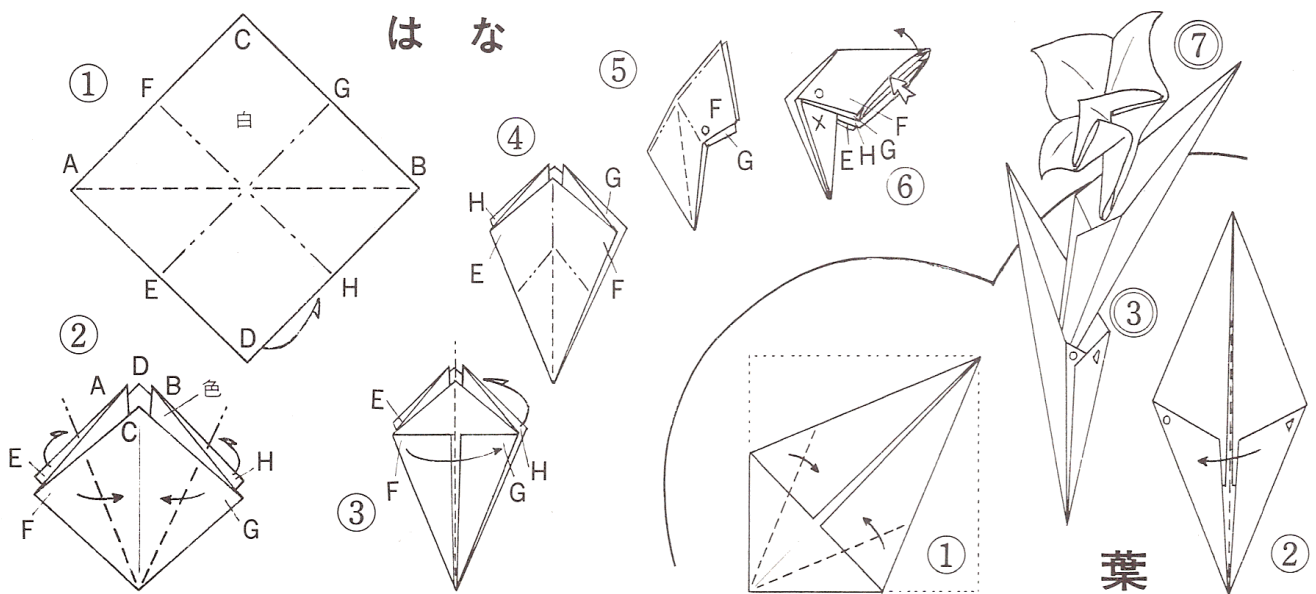


作り方 1のイ、ロのきんぎよと水草をつるしてから、重さのバランスで棒が水平になる個所(C点)を見つけてつるし、下から2、3、4、5の順にバランスをとりながら作ります。イとへのきんぎよは31頁の「こい」の折り方から折るかえたものです。ホは胸びれを作らないで簡単に折ったものです。

●この作品は、へのきんぎよの内側におもりを少し入れて、バランスをとってあります。水草は細い紙を縦に折ってから、不規則に段をつけて作ったものです。

折り方 ①正方形の紙の対角線A BにC Dを合せて折り、更にE Fを折ってからAを裏へ折る。②C Dを点線へ引き出す。③C Dに段をつける。④C Dを矢印に折り込んでから谷線を折る。⑤二つに折る。⑥G Hを山線の位置から折り込み、C Dを折る。⑦G Hをつまんで、⑧のようにして片側へ折り込む。⑨A Bを重ねたまま、折り込む。⑩A Bを点線から折り返す。⑪矢印に折り込む。⑫Aの一枚を点線の位置から折り返す。⑬Bを折る。⑭口と胸びれを矢印に折り込み、Bを谷線の位置からひらいてAに折りかぶせ、形をととのえて、⑮出来上り。

花 か ご



花と花かご

花 片側染めの正方形のいろ紙の白を表にして、①のように山線と谷線に折り目をつけ、②のように（色を中にして）折りまとめる。

② FGを前に、EHを裏へ折る。

③ FとHを矢印に返してひらきかえる。

④ 山線と谷線を折り、谷線を⑤のようにして折り込む⑥。⑥

×印を持ち矢印から指を入れて、外側の一枚を思いきって引き出せば、ぜんぶの花びらがひらく。⑦

出来上り。

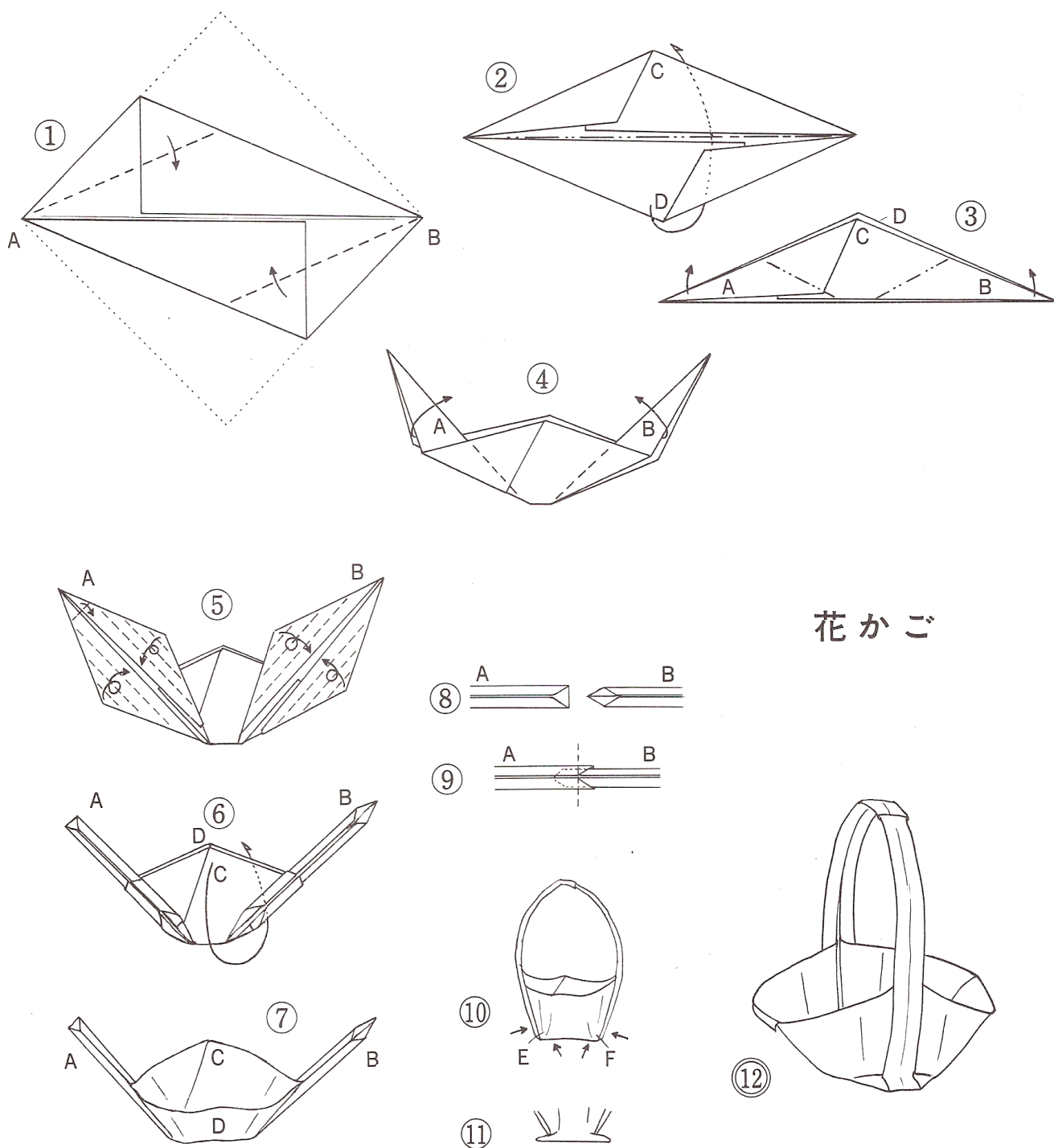
○色ちがいの小さい紙を②まで同様に折って、花の②の中へ適当に入れて同じに仕上げれば、めしべのある花になります。

葉 草花の葉の色の紙を選んで折る。正方形の紙を①②のように折って作り、幾つか組み合わせる。

○紙の大きさの割合は、一辺が、この紙の $\frac{1}{4}$ よりも小さめの紙で花と葉を作ります。

〔註〕この花の折り線構造は五角形や六角形の紙にも共通します。

本質的には紙の面の一部をしぼって他の部分をひろげることですから、折り紙の総ての花の基本になります。（表紙の花かご参照）



花かご

花かご 正方形の紙を①のように折り、更に矢印に折る。②Dを裏へ折る。③ABをCDの間へ折り上げる。④ABを矢印に開く。⑤Aのカドを折ってから、それぞれ巻き折りにする。⑥CDをしずかにひっくり返し、内側を外に出す。⑦ABを⑧⑨のようにしてさし込んでから、折り目をつけて抜く。⑩EFのカドを⑪のようにして底のすまみをよくする。⑫出来上り。

○かごの折り方⑥で、ひっくり返すのがむずかしい人はそのまゝひらげて、ABをつないで仕上げて下さい。写真は柄の上の方を細くして、形をととのえたものです。

〔註〕花は②の形に折る手順を基礎折り(A)の④までの折り方にすれば幼児向きになります。幼児の折り紙は表現量が多く、折る向きと回数さえまちがわなければ、心しづかに折られても、個性の出るものがよいのです。幼児は大人のようにはきちっと折れないが、いくつかわずかに折っているうちに、ひとりでの練習と修正をくり返して上手になるものです。紙の大きさは12cm四方くらいまでがよく、幼児は手や厚さがよいので、ふつうの便箋や厚さがよいでしょう。

折り紙の限界

折り紙の美しさは紙の面と線の屈折から生まれるので、一枚の紙で制作することを原則として、切り込みを入れたり、描きこんだり、貼り合せたりせず、色彩も紙自体の色調で造形します。

用紙の形は正三角形、直角三角形、不等辺三角形、正方形、長方形、菱形、不等辺四角形、台形、テープ状（特に長い長方形、台形、三角形）、即ち正三角形から正十六角形くらいまでの不等辺も含む凸形の多角形、円、楕円、半円などにその限界をつけています。

用紙の大きさは普通手だけで扱い易い大きさを限度とし、特殊なものには数ミリメートル四方から五メートル四方の紙で制作する場合もあります。厚さは大きさに比例したものを uses します。

複合形の折り紙について

一つの作品に二枚以上の紙を用いる場合、個性のある形にまで折ったものを組み合せて構成したもの、「複合形」といいます。貼り合せたり、組み合せたりしてからはじめて個性のするものは、モザイク的であって、複合形の折り紙とはいえませんが。

創作について

美術造形として、折り紙による創作は立体的な構成にあります。平らな紙を折りたたむことによって一つの構造をつくり、力関係や光と影による構成から、抒情的な形体美を引き出してゆくところに創造の喜びがあります。従って、はじめから制作の主題をもち、紙の質や色を選び、表現形式を写實的にするか、図案的または抽象的な作品にするかなど、時間をかけて構図をねり、作品に仕上げてゆきます。

主題が自然物や精神的なものにせよ、躍動する生活の中の決定的な美しさを、映画のフィルムの一コマのようにとらえ、紙の造形によって定着することが大切です。それには普段から形と質と運動などの仕組み、生物の場合は骨格や姿態の変化などの観察と、あわせて表現する高度の技術がなければなりません。

この本によって、創作折り紙の生きた美しさと、単なる折った形との見分けがはっきり判るようになってきますから、折り方の一つ一つに親しみをもちようにするのが大切です。

基礎折りについて

用紙の限られた原形から、限らない自然美を描写したり、精神的な内容を表現しようとするれば、紙の面を折り目でいくつにも分割したり、基礎折りによって、必要な数だけの鋭角をつくって作品を作ります。従って、原形や基礎折りの選び方が作品に大きく関係します。

24、25頁の基礎折りを参照して下さい。基礎折り(A)(B)は正方形と菱形の四つのカドを折りまとめて、とがったカドをつくり、こりの頭と尾と足にしたり、エンゼルフィッシュやさかなのように、ひれや尾を作ったり、そのほかいろいろなものを折るのにひろく活用できます。

基礎折り(C)と(D)は三角形から、(A)(B)と同様の構造で折ったもので、それぞれのカドの応用で、こおろぎやとんぼ、えびの作例のように、原形と基礎折りの選び方のよい例になっています。

このほか、72頁の正三角形からひこうきを折る場合のような基礎折りや、32頁の正六角形から菖蒲の花を折る基礎折りがあります。正五角形や長方形、その他の基礎折りは省略しました。

やくそく

山線 ———— 外にして折る

谷線 - - - - - 内にして折る

→ 表へ折る

↪ 裏へ折る

3 - - - - - 数字の順に折る

🌀 巻き折り

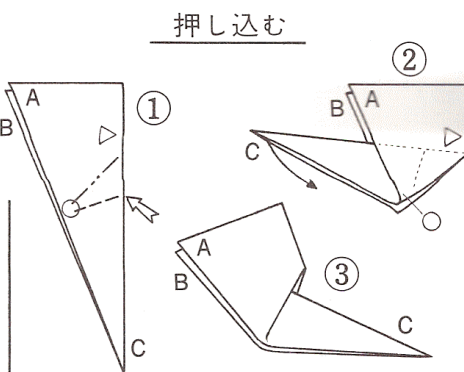
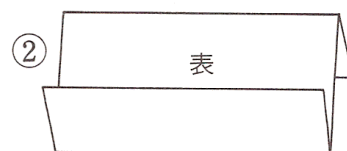
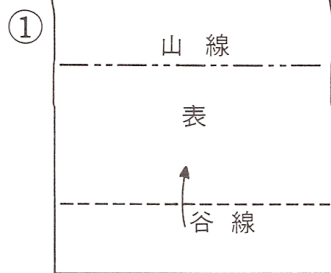
🔄 裏に返す

➡ 引き出す・押し込む

➡ 途中から製図拡大

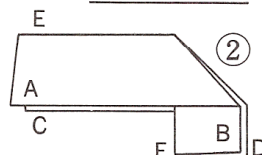
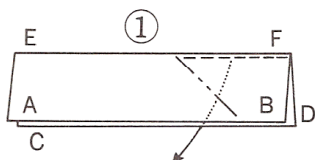
中心線

切り線



△印をもち、○印のところに折り目をつけないように注意して親指で押し込み、斜めに段をつけ、Cを引き出す。
鳥の胸や動物の関節などの折り方に使う。

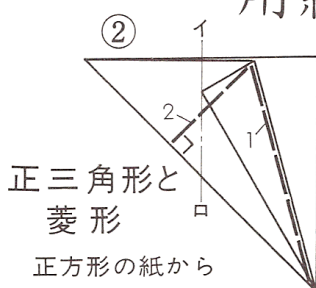
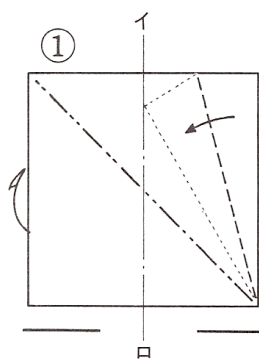
折り込む



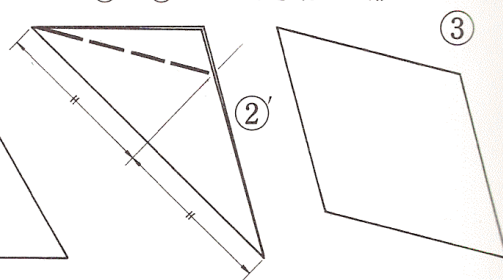
Fの谷線はすでに折ってある折り目を折り返すので普通省略する。

- 数字の順に折り、◎は出来上りである。
- 製図に紙の表や裏の記号はつけないが、普通一回折って紙の表が外になるように折る。
- 重なっているところは表にだけ記号をつけてある。
- 途中まで同じ折り方は同じ部分を省略。
- 製図だけで判るものは説明文を省略した。
- 角や面にABCや○□△をつけたり、そのほか適当な記号をつけてある。
- 角度を合せながら折れるように、小さい部分は折り線を長くしてある。

用紙の作り方

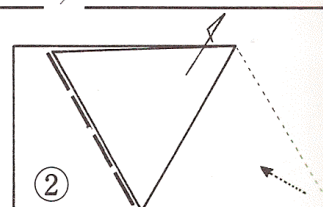
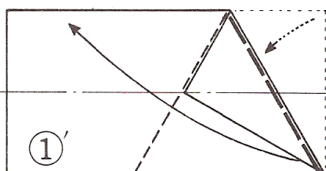
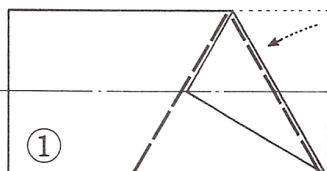


②は②の1だけを切った形



正三角形と菱形

長方形の紙から

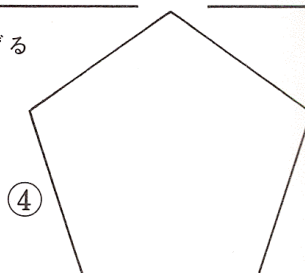
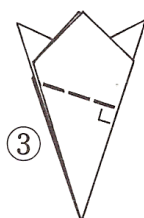
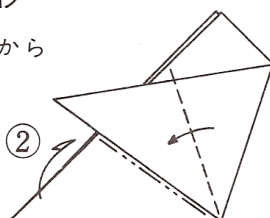
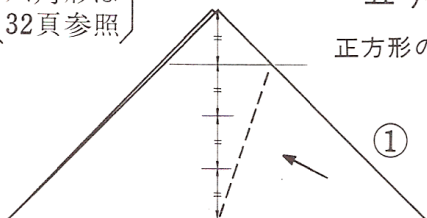


六角形は32頁参照

五角形

正方形の紙から

直角に切ってひろげる



基礎折り

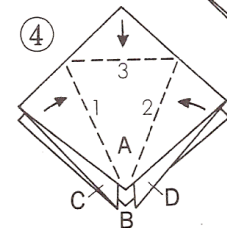
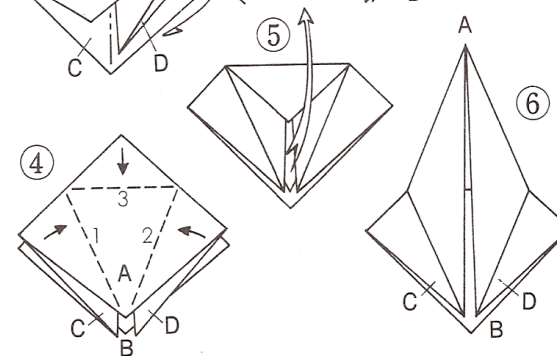
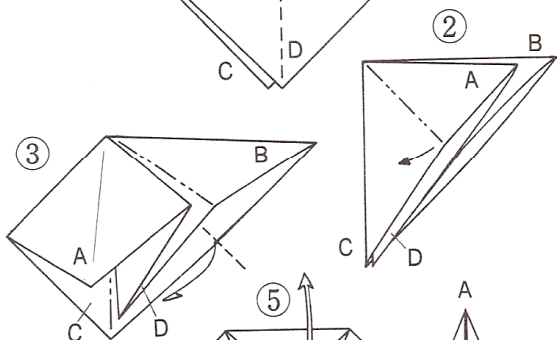
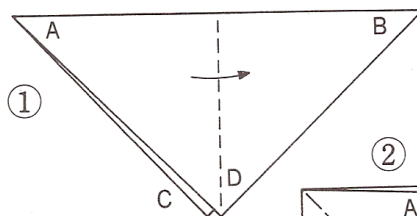
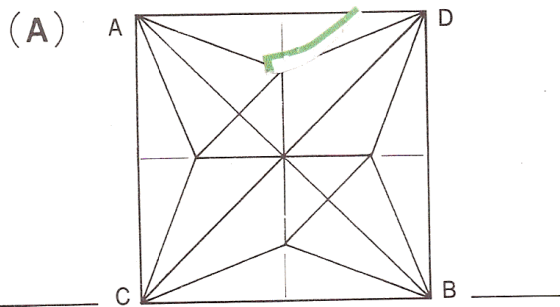
原形

折り方

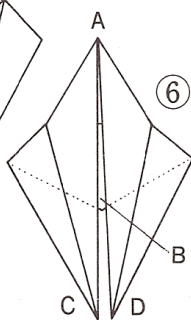
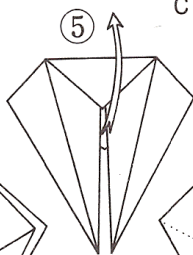
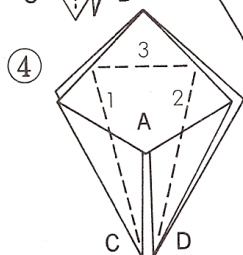
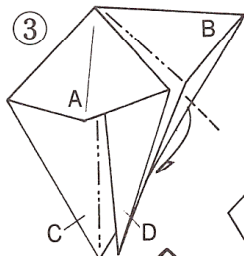
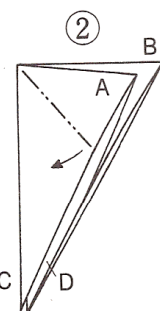
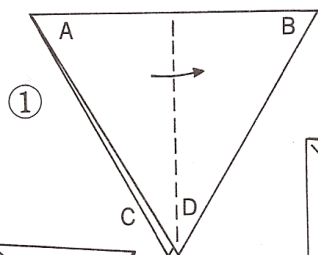
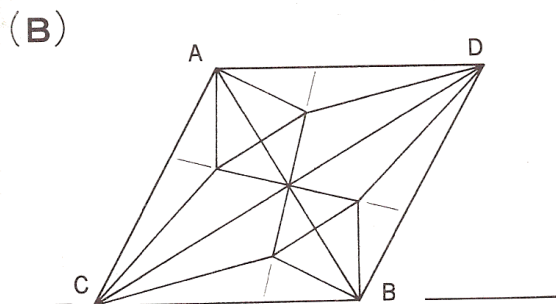
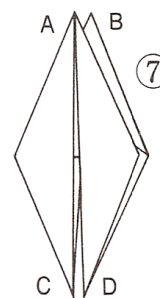
基礎形

出来上り

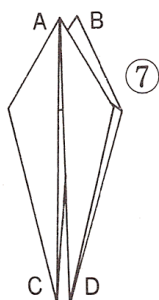
例



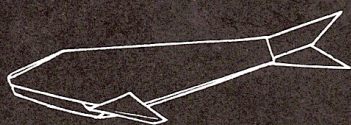
- ①正方形の紙を対角線に折り、AとBのカドを合せて折る。
- ②AをひらいてACDのカドを合せて折る。
- ③Bを裏へAと同様に折る。
- ④1 2 3の順に折る。
- ⑤Aを矢印にひらき出して折る。
- ⑥裏側のBもAと同様に折る。
- ⑦基礎折り(A)。



- ①菱形の紙のABの対角線を折り、AとBのカドを合せて折る。
- ②Aをひらいてカドを中心の折り目に合せて折る。
- ③Bを裏へAと同様に折る。
- ④1 2 3の順に折る。
- ⑤Aをひらき出して折る。
- ⑥裏側のBもAと同様に折る。
- ⑦基礎折り(B)。

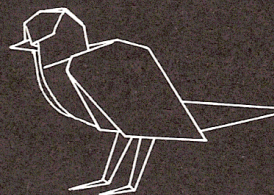


さかな



50頁

ことり



折り方 40頁

虫、さかな、仮面、くじら、他

さかな、とり、うみがめ、けもの類、仮面、他

基礎折り

原形

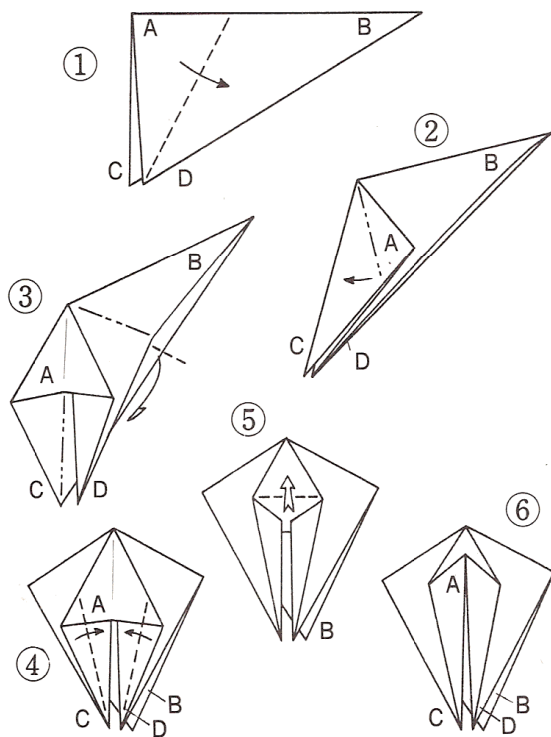
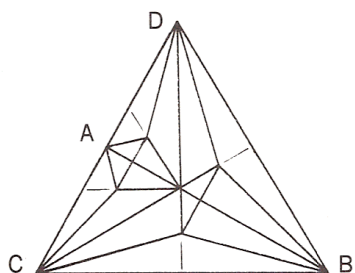
折り方

折り方の説明

出来上り

例

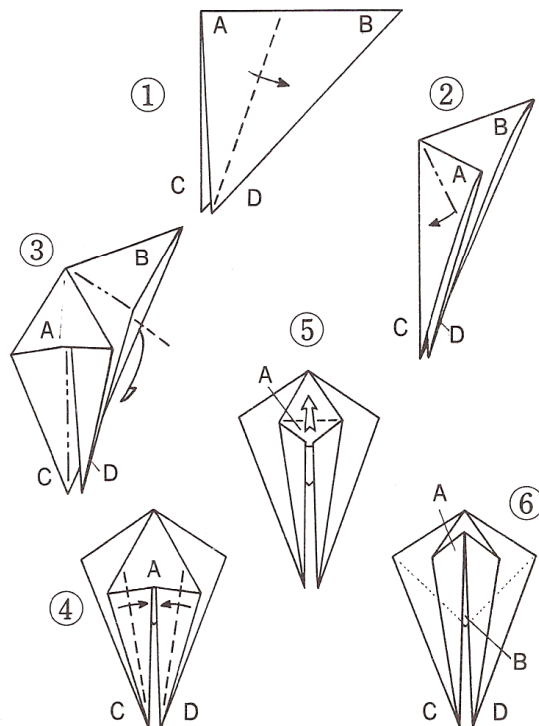
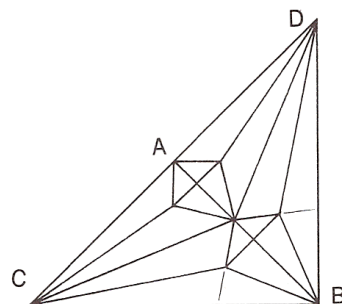
(D)



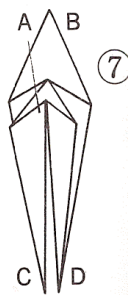
正三角形の紙を①のように折り、谷線を折って切り口を合わせる。②Aをひらいて中心の折り目に合わせる。③Bを裏へAと同様に折り、BCDのカドを合わせる。④⑤と折り、⑥裏側のBをAと同様の折り方で折る。⑦基礎折り(D)。



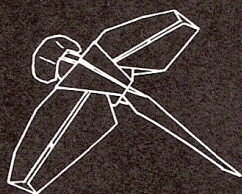
(C)



直角二等辺三角形の紙を①のように折り、谷線で切り口を合わせて折る。②Aをひらいて中心の折り目に合わせる。③Bを裏へAと同様に折る。④を折る。⑤Aをひらき出して折る。⑥裏側のBをAと同様の折り方で折る。⑦基礎折り(C)。



とんぼ



折り方

42頁

こおろぎ

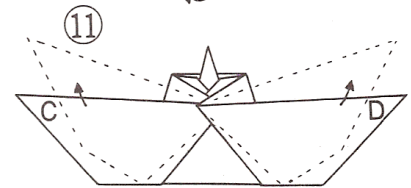
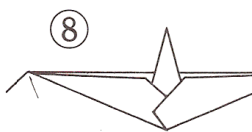
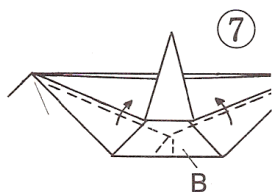
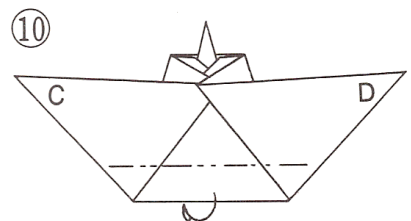
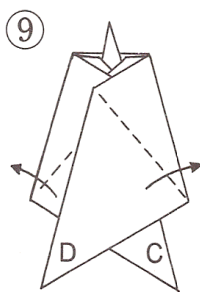
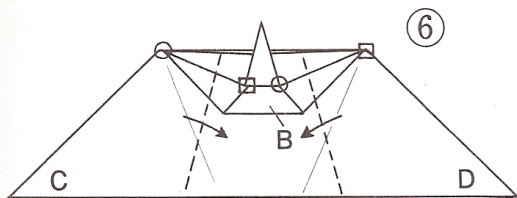
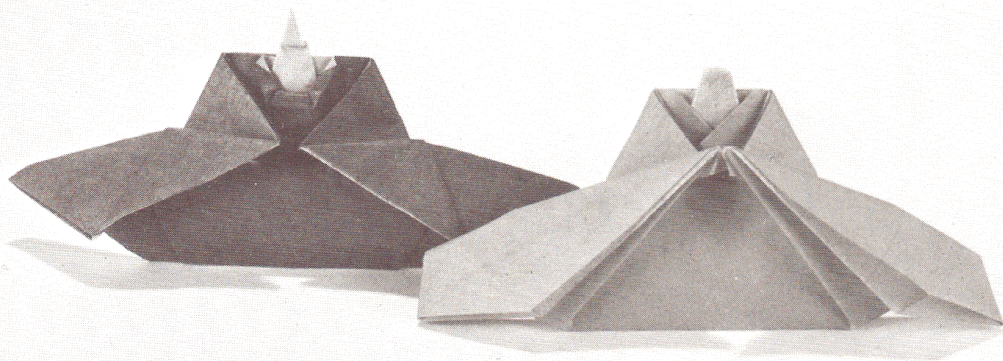


45頁

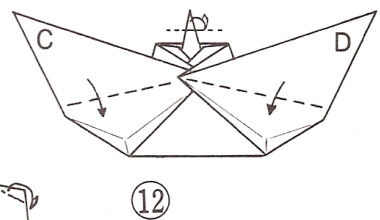
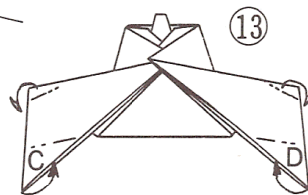
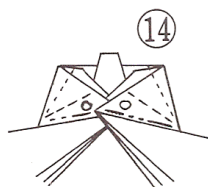
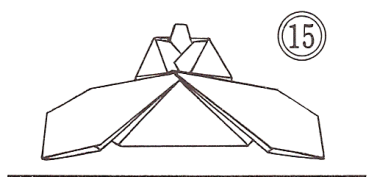
とり、虫、グライダー、ヘリコプター、他

とり、虫、グライダー、花、他

内裏雛



めびな

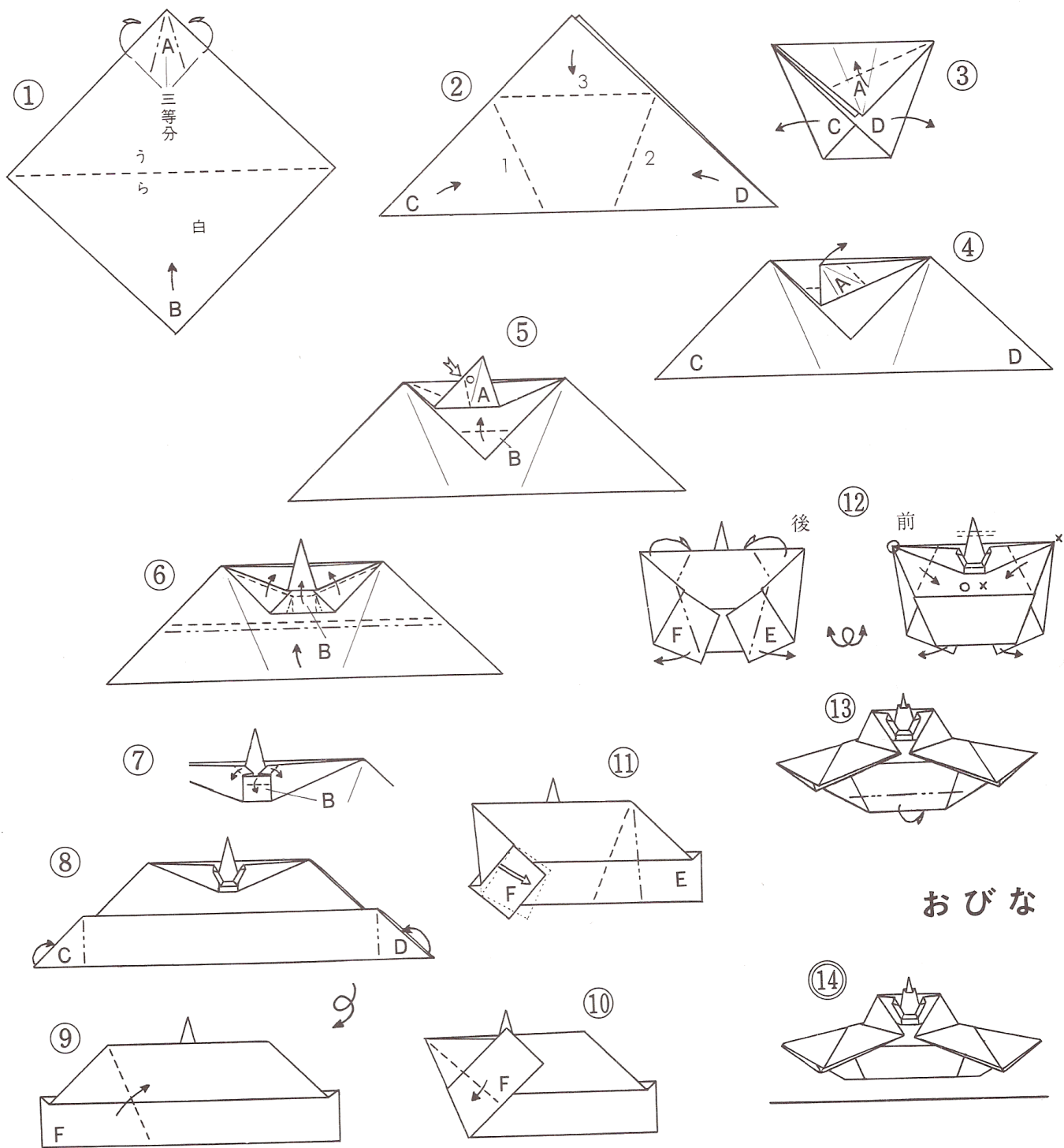


裏の白い正方形のいろ紙で、お雛様にあう色を選んで折る。
 ①Aのカドを三等分に折り目をつけてからBを折り上げる。②123の順に折る。③CDをひとまずひらき、Aの一枚だけ斜めに折り上げる。④Aを真直ぐに立てて折る。⑤Bを折り上げ、○印の部分Aの裏へ右側と同様に折る。⑥中ほどに段をつけ、Bを山線と谷線で折りまとめ、⑦のように矢印

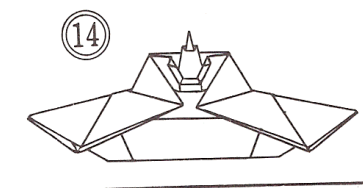
男雛

この内裏雛の用紙はなるべく和紙のいろ紙を用い、原色をさけた配色で、高貴な気品のであるようにして折ります。
 折り紙としての個性と品格のある紙雛を作るために、私は最も難問であつた頭の作り方を、紙を切らずに創作しました。これは紙雛らしく、片側染めの紙で、白を顔にします。折り線構成が合理的なので、応用範囲が広く、いろいろな雛人形を折ることができます。
 折り紙としての個性と品格のある紙雛を作るために、私は最も難問であつた頭の作り方を、紙を切らずに創作しました。これは紙雛らしく、片側染めの紙で、白を顔にします。折り線構成が合理的なので、応用範囲が広く、いろいろな雛人形を折ることができます。

折り紙としての個性と品格のある紙雛を作るために、私は最も難問であつた頭の作り方を、紙を切らずに創作しました。これは紙雛らしく、片側染めの紙で、白を顔にします。折り線構成が合理的なので、応用範囲が広く、いろいろな雛人形を折ることができます。



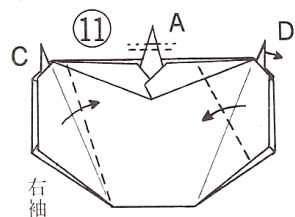
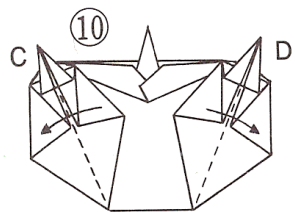
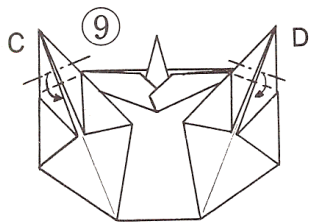
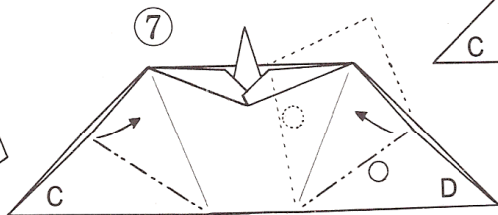
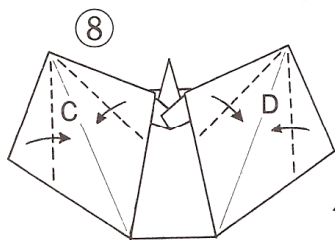
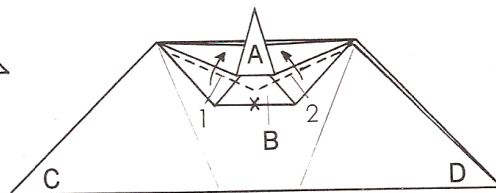
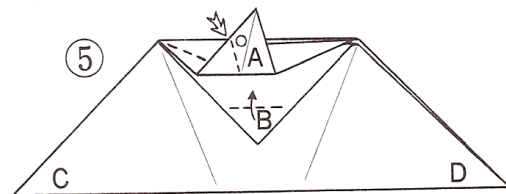
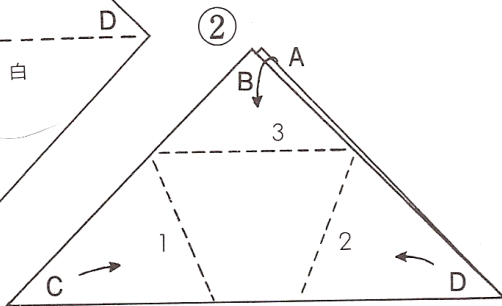
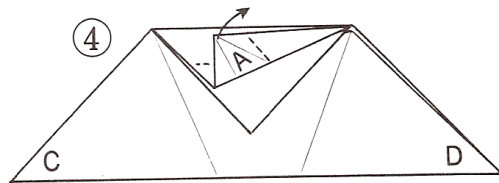
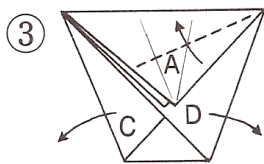
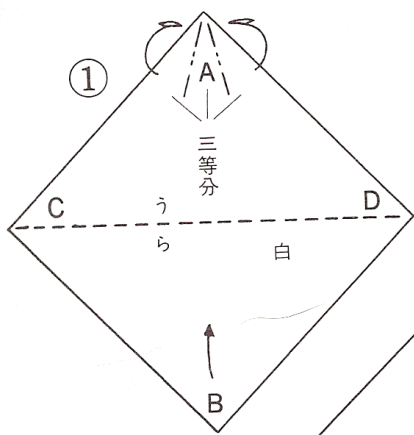
おびな



にひらいて衿をつくる。⑧CDを山線の位置から折り込んでから裏返す（折り込むとき、いったんその部分をひろげて中に入れてから元の形にする）。Fを⑨⑩と折って⑪の点線へしずかに引き出し、右側のEもFと同様の折り方で形をととのえる。⑫前と後の図をくらべながら、前の図の○×の合印を合せて折り、下のカドを左右にひろげて袖に折りととのえる。⑬山線から下を裏へ折って全体の形をととのえる。⑭出来上り。

女雛
男雛の⑥まで同じに折る。⑥上の左右のカドを合印のカドに合わせて谷線の位置に折り目をつけてから、Bを⑦⑧のようにして衿の形にととのえてから、CDを重ねる。⑨谷線からCDを斜めに折り上げる。⑩山線から下を裏へ折る。⑪CDのカドを点線へしずかに引き出す。⑫それぞれ矢印に折る。⑬CDを折り込み、上のカドを裏へ折って袖をつくる。⑭肩をせまくして○印の部分を袖の裏側にずらして折り、形をととのえる。⑮出来上り。

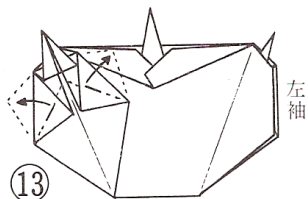
○どちらの雛も下を平らにととのえればそのままでも立ちますが、厚紙などを細く切ってはりつけて支えにします。



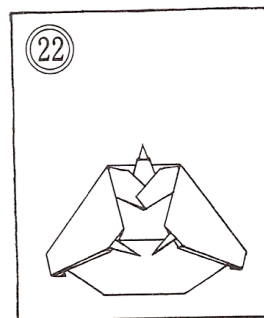
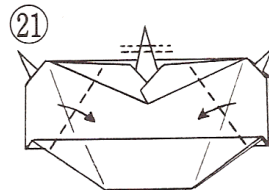
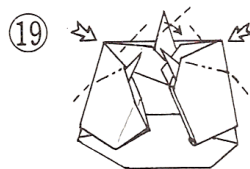
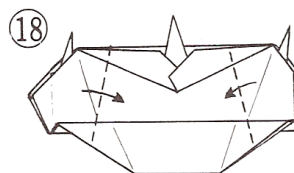
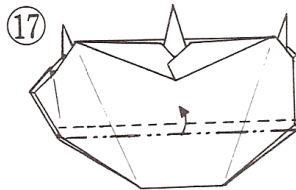
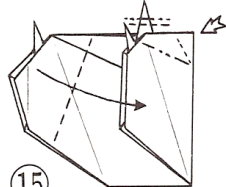
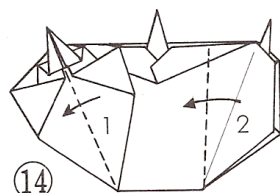
小鼓 (つみ)

笛 (ふえ)

地謡 (うたい)

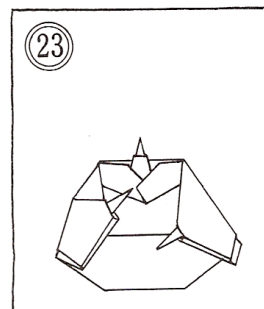
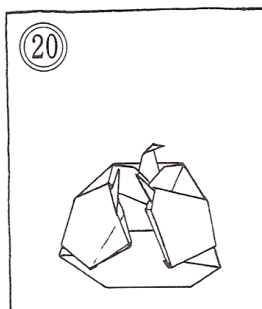
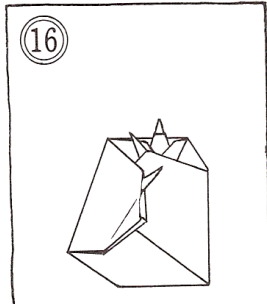
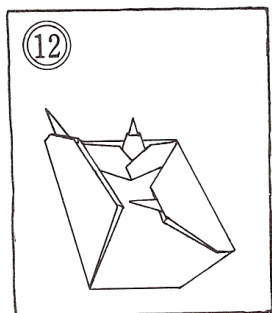


左袖



大鼓 (おほづみ)

太鼓 (たいこ)



五人ばやし



ひな段の中でいちばん動きがあつて楽しい五人ばやしです。途中でどれも同じ折り方で、手の向きや動きをかえて、それぞれ楽人の優雅な動作を表現しました。

大鼓 ① 正方形の紙を①から⑤まで折る。⑥Bを12の順に折り、×

印を外側からつまんで左にたおして衿をつくる。⑦CとDの袋をひらく。⑧⑨⑩と番号の順に折る。

⑪Aに段をつけて頭を作り、CDの折り線を角度に注意して、大きな動きが出るように形をととのえる。⑫出来上り。

小鼓 ⑬⑭の右袖をひらいた形。⑭を折り、⑮左肩を押し込み、右袖を折る。⑯出来上り。

笛 ⑭の1を折った形から折る。⑰細く段をつける。⑱を折り、⑲両肩を折り込み、頭を斜めに折る。

⑳出来上り。

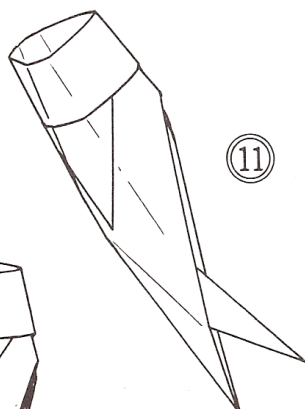
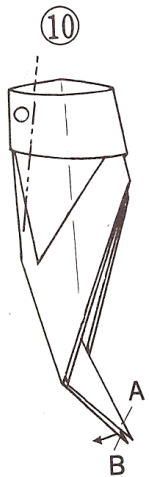
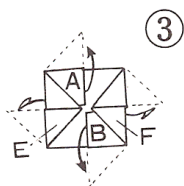
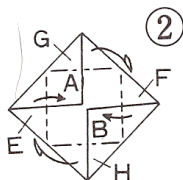
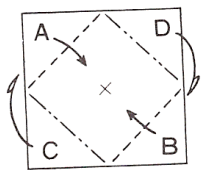
地謡 ㉑、㉒まで折ったものを⑳のようにして段をつけた形から、手を前に折って、おおらかに仕上げる。㉓出来上り。

太鼓 地謡と同じ形にしてから、右手を少しあげてととのえる。㉔出来上り。

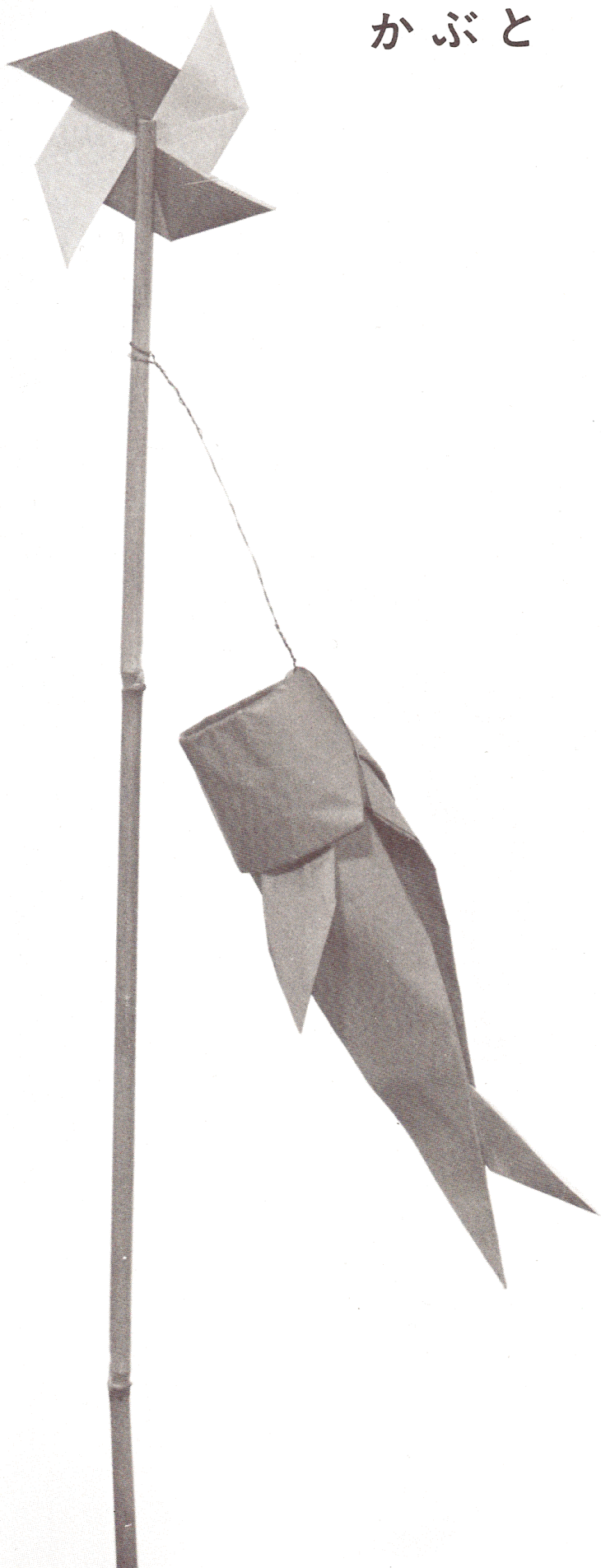
○五人おそろいの色で作るのもよく、また、音に合った色を考えてみるのも楽しいと思います。

かざぐるま ①

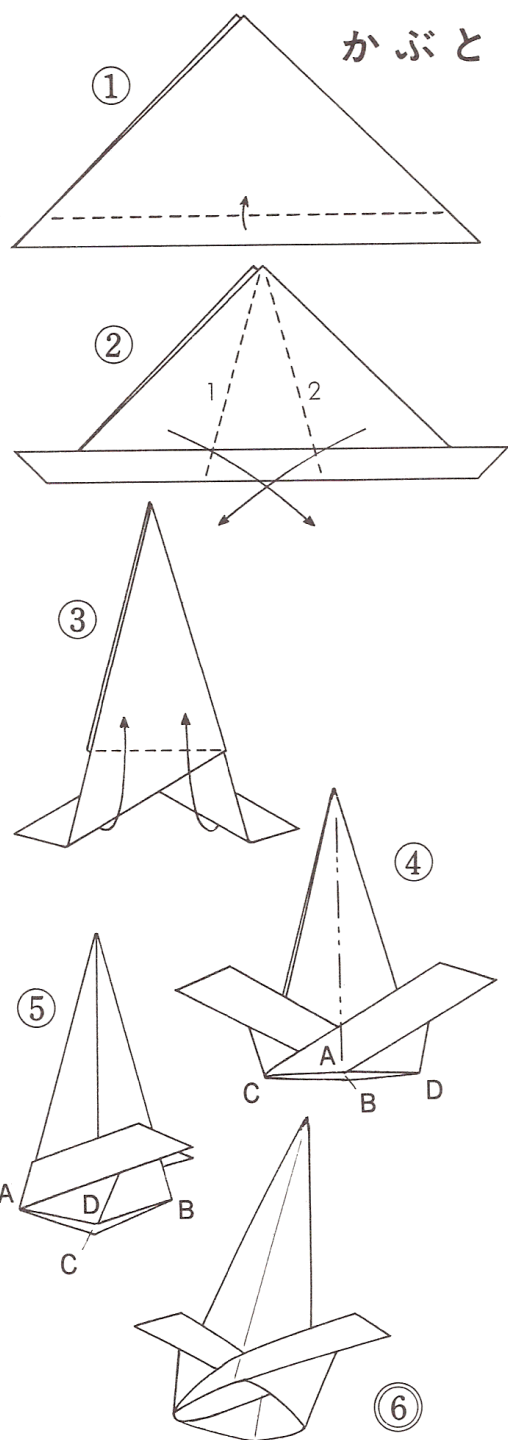
① ABを表にCDを裏に折る。② EFを表にGHを裏に折る。③ ABのカドを点線へ引き出し、裏のCDも引き出して出来上り（右の写真）。



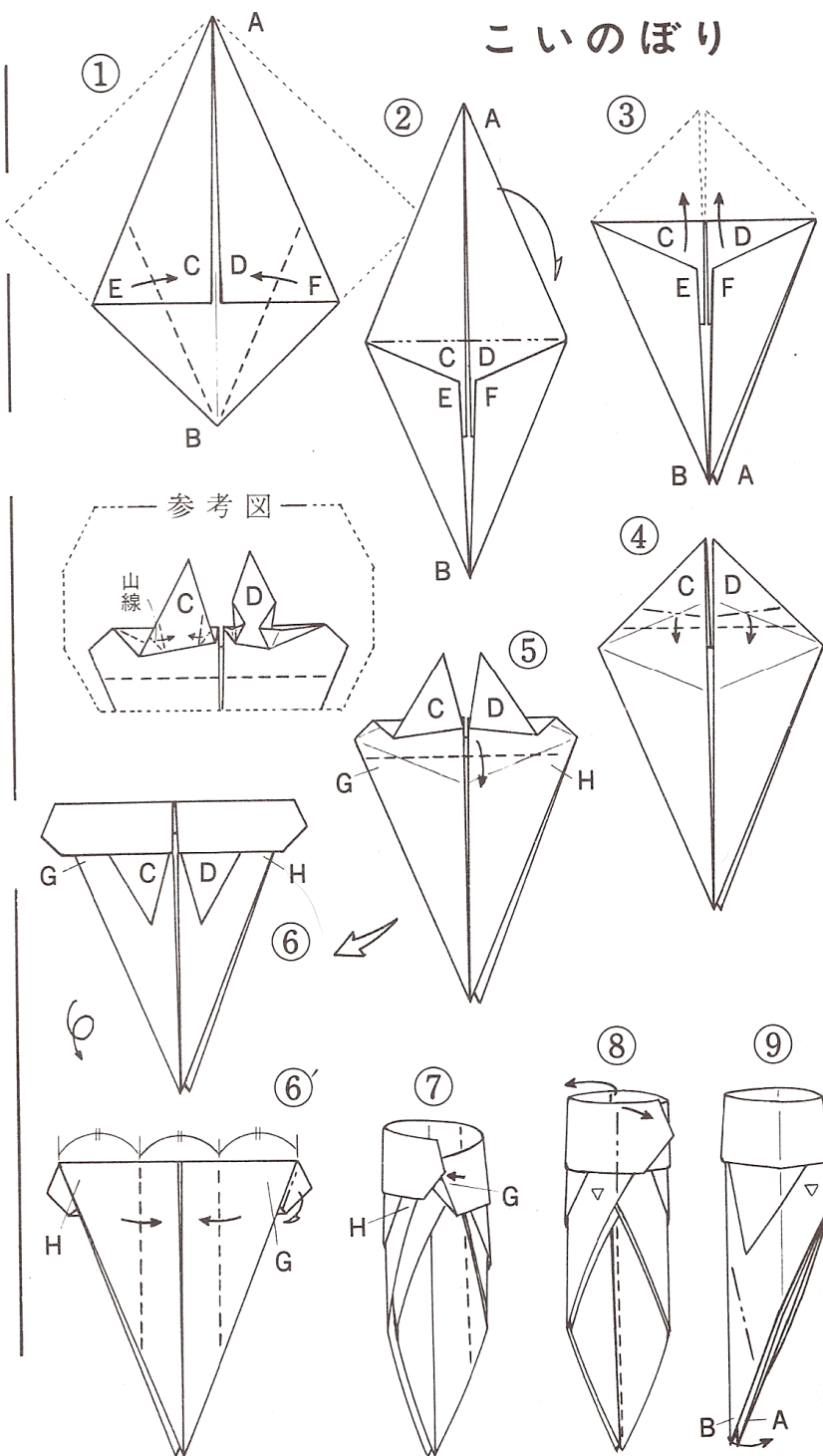
こいのぼりと かぶと



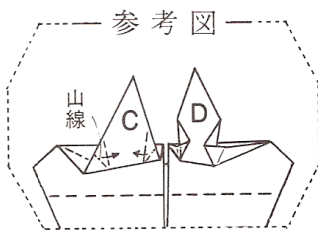
「こどもの日」に、こいのぼりや武者人形を飾ってお祝いをしますが、子供が自分で折り紙のこいやかぶとを作ることができたら、どんなに喜ぶことでしょう。



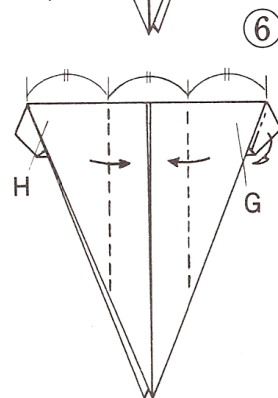
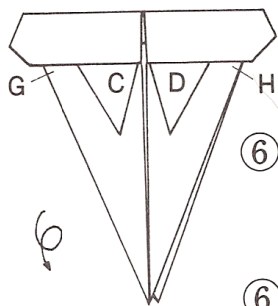
かぶと



こいのぼり



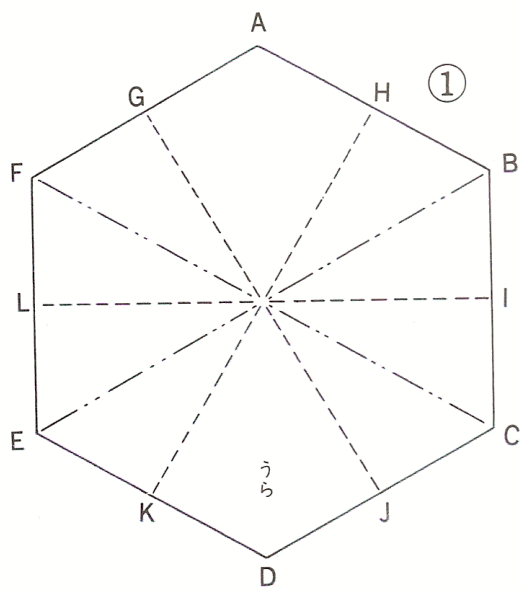
参考図



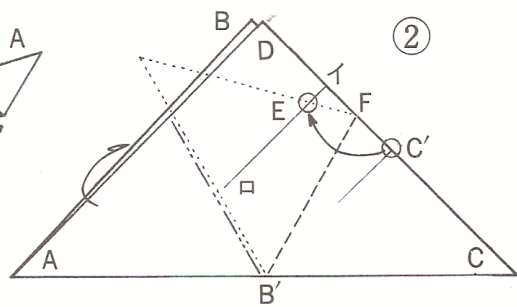
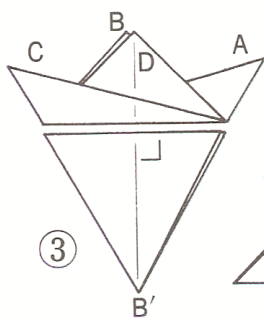
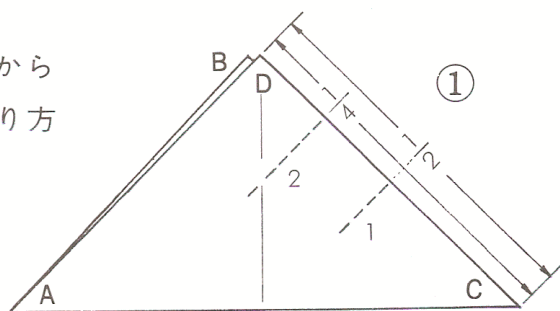
かぶと
① 正方形の紙を対角線に折り、下を細く折り上げる。② 12の順に折る。③ 矢印に折り上げる。④ 下から指を入れてA Bをひろげ、C Dを合せて⑤のように折り目をつけて出来上り。⑥ 前から見た図。
● 80 cm 四方くらいの紙で折ればかぶれます。

こいのぼり
① 正方形の紙を図のようにC Dを折ってからE Fを折る。② Aを裏に折る。③ E Fの内側からC Dを点線へ引き出す。④ C Dに段をつける。⑤ 矢印に折る。⑥ 裏返す。⑦ 縦に三等分に折り目をつけてから⑦のようにHの袋へGを入れる。⑧ 上から指を入れてG Hの重なっている部分をはなさないようにし、⑨のように押しつぶす。⑨ A Bを重ねたまま、できるだけ斜めに細長く折り込む。⑩ Bを引き出し、⑪ 印の部分を押し込んで形をととのえて、⑫ 出来上り。
● 写真のこいのぼりのひれは参考図のように折って細く仕上げたものです。荷札の針金を通して細竹につけ、先を割ってかざぐるまをはさみました。

菖蒲の花



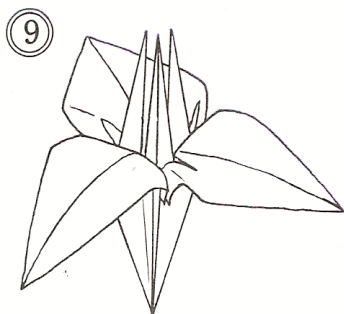
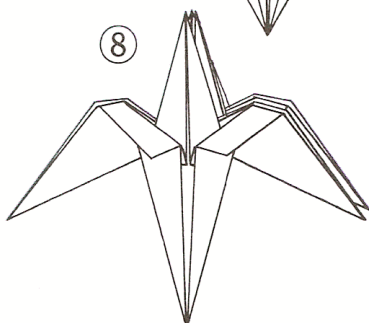
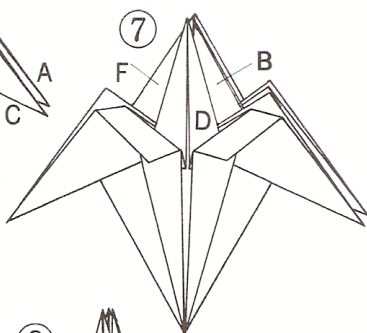
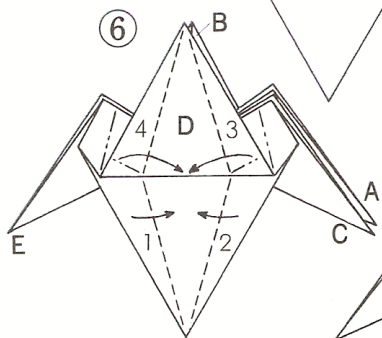
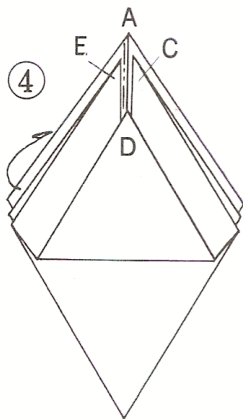
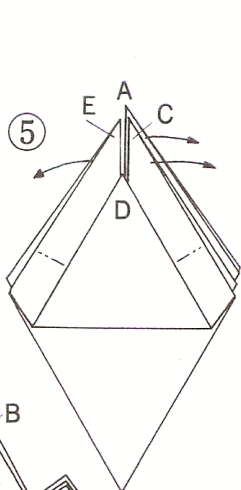
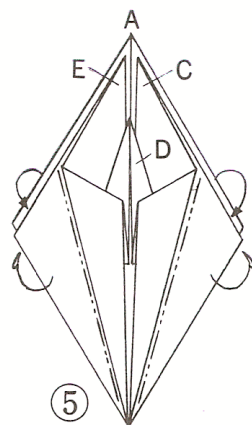
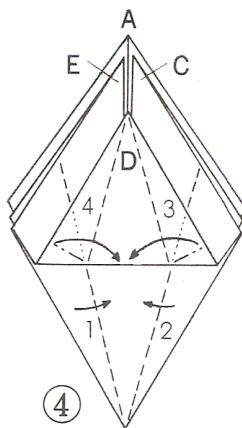
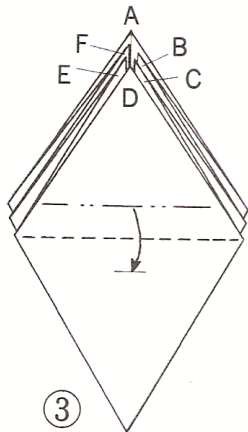
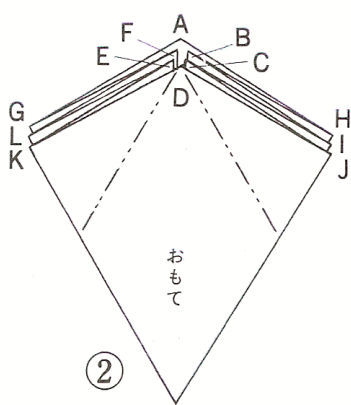
正方形の紙から
六角形の作り方



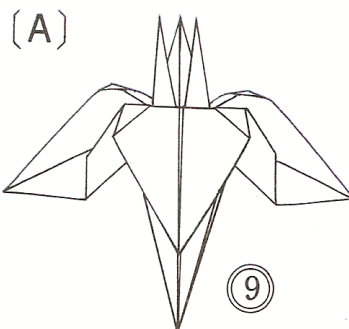
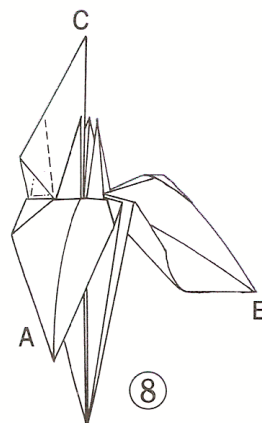
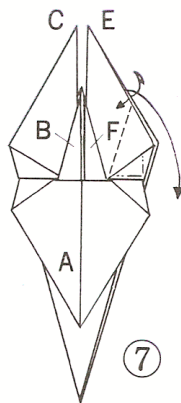
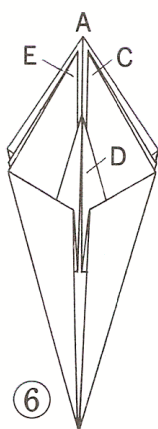
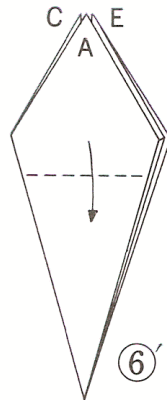
菖蒲の花 [A]
④まで同じに折り、左側の一枚だけ裏に返す。⑤それぞれ矢印に折り下げる。⑥1234の順に折る。⑦BとFもDと同様に⑥の折り方で折る。⑧花びらをひろげ、形をととのえて、⑨出来上り。

①六角形の紙を山線と谷線に折り目をつけてから、②のように折りまとめる。③山線のところから左右のカドをそれぞれ折り込む。④Dに段をつけ、ひらきかえて、BとFをDと同様に折る。⑤1234の順に折る。⑥③でDと同様に折り込んであるBとFを④の折り方で折る。⑦裏返す。⑧Aを折り下げる。⑨Eをねじるようにして折り下げ、CもEと同様に折り、花びらを指先でしごいて形をととのえる。⑩出来上り。

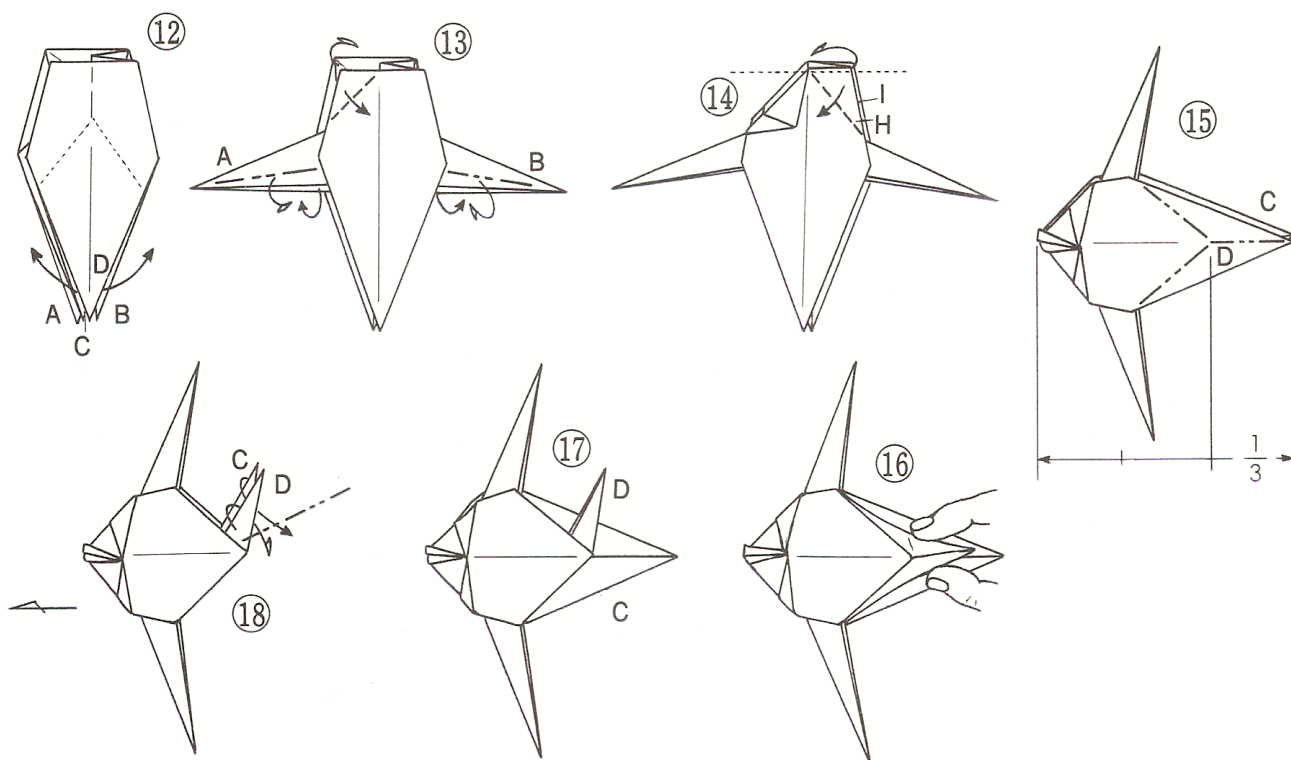
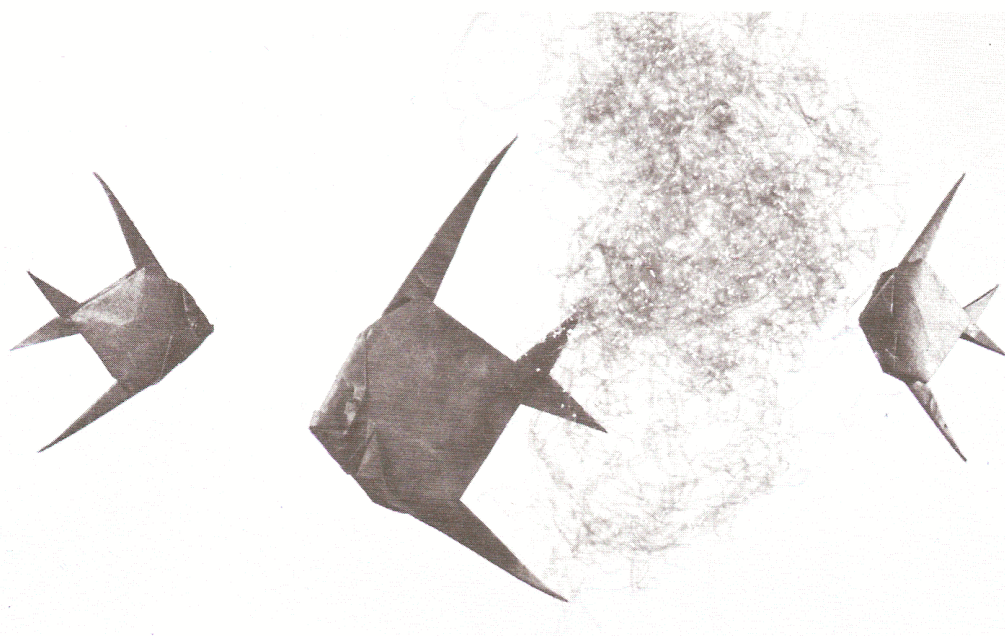
六角形の作り方 ①正方形の紙を対角線に折ってから、12の折り目をつける。②Bを支点としてC'をI、Dの線の上に合せてEを求め、Cを斜めに折り上げて、Aを裏へ折る。③中心の線に直角に切ってひろげる。



(B)



(A)



熱帯魚の中で形のおもしろい、エンゼルフィッシュを折りましよう。

折り上げてから、目の部分を小さく折り返したり、ヒレや尾は指先でしごいて、美しい曲線をつくります。

基礎折り(A)から折る。

⑦ A Bを折り下げる。

⑧ 山線のところを、二、三回折り返し、折り目をやわらかくしてから、Eを中へ押し込む。

⑨ 谷線の位置からそれぞれ矢印に折る。

⑩ Gを左に、Iを裏側から右に返し、Eを⑪のように引き下げる。

⑫ 点線の内側でAとBを横に折り上げる。

⑬ 左上を矢印にひらいて折り、A Bを細く折り込む。

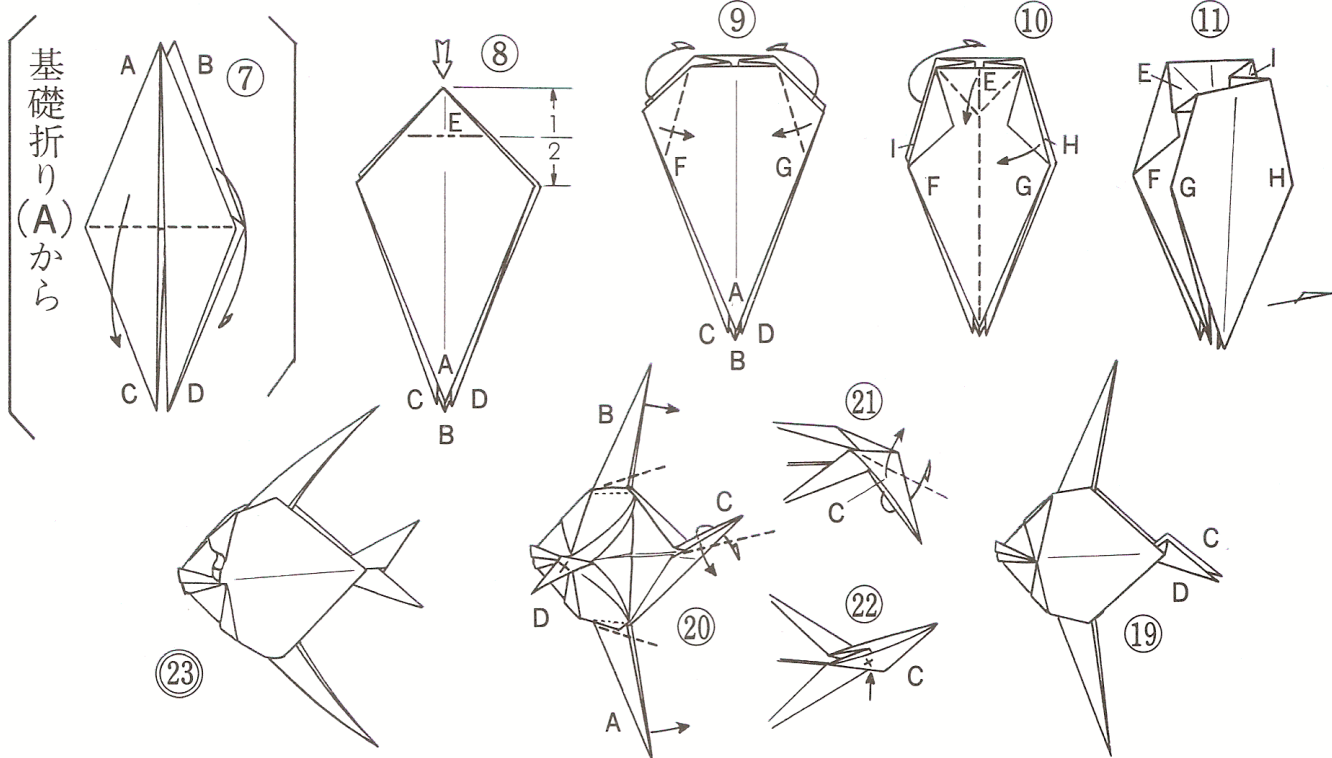
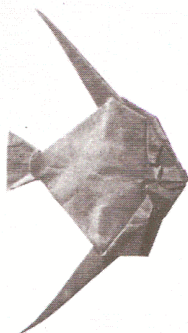
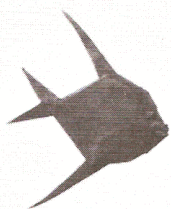
⑭ 点線の位置から上を間へ折り込んでから、H Iを矢印に折り、口の形にととのえる。

⑮ Dの山線を⑯のようにつまみ、間へ折り上げる。

⑰ CもDと同様に内側へ折り上げる。

⑱ CとDを山線の位置からそれぞれ内側へねじるようにして折る。

エンゼルフィッシュ



①⑨ Dを左に引き上げておいて、Cを引きおこす。

②⑩ ABのつけ根のところから矢印に曲げ、Cを谷線の位置から外に折り返し、②⑪のように折って、Cの×印の内側へDの×印をさし込む。

②⑫ 出来上り。

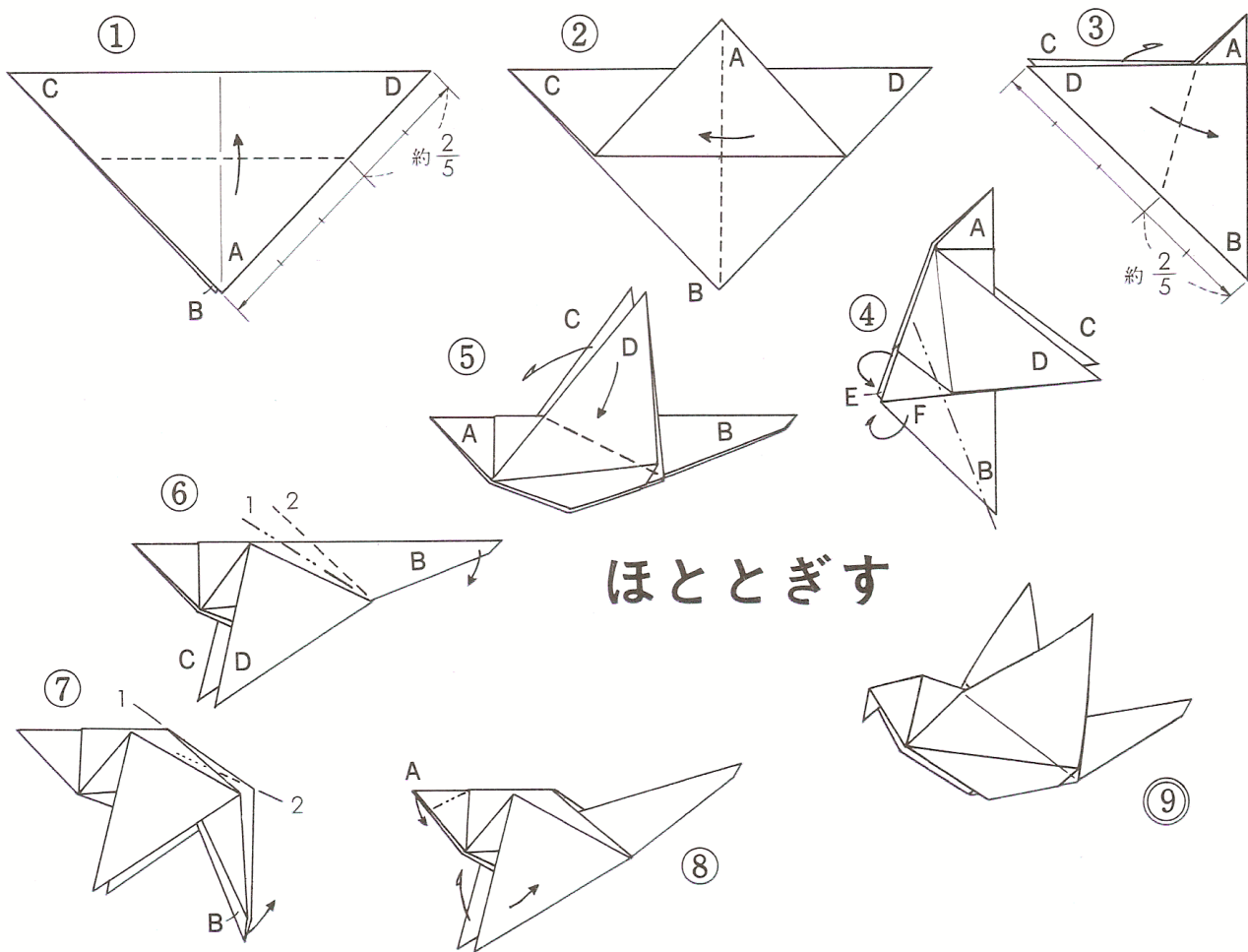
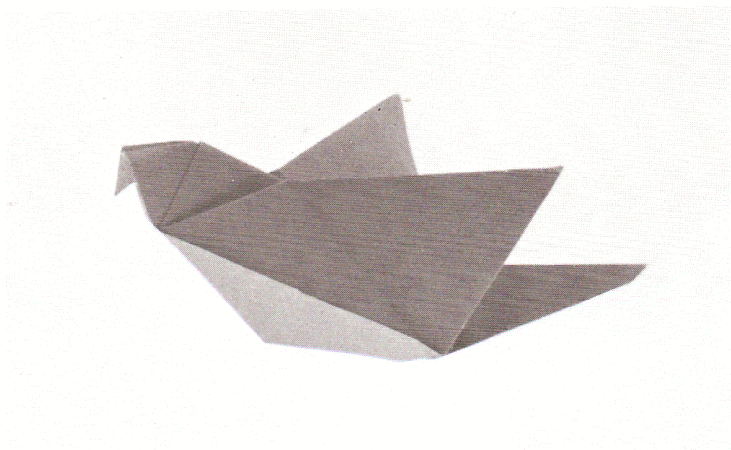
● 折り方をよくおぼえてから、⑨で折ったF、Gを引き出して胸ビレなどを作れば、生き生きとして一層かわいらしくなります。

いくつか折ってモビールを作れば、洒落た室内装飾になります。

〔註〕エンゼルフィッシュの口は実際はこれほど大きくありませんが、折り方をわかりやすくするために誇張してあります。

用紙は和紙の「薄紙」をグレーに染めて陶砂を引いて用いると上品になります。折りながらの注意は⑫の点線のところを外から強く持たないようにして、内側の紙の重なりが表面にわからないようにします。

折り方の応用で、ABのひれを短く折りまとめれば黒鯛やひらめなどにも折りかえられます。



ほととぎす

ほととぎす

① 正方形の紙を対角線に折ってから、Aを折り上げる。

② 矢印に折る。

③ CとDを谷線の位置から外側へ折る。

④ EとFを山線の位置からそれぞれ折り込む。

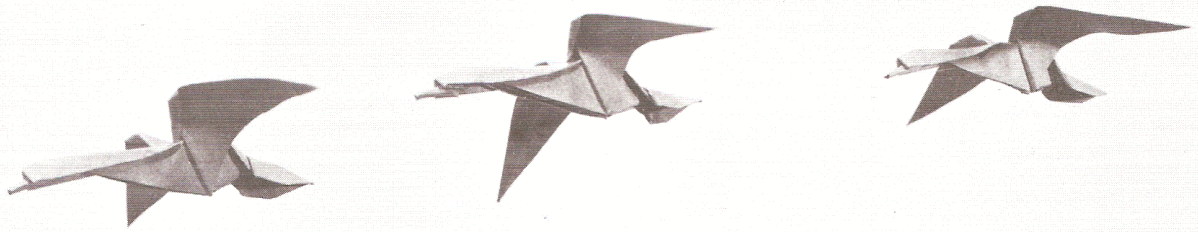
⑤ CDを谷線の位置から左右に折る。

⑥ 1の山線からBをたん⑦のように折り込み、2の谷線で⑧のように折り返す。

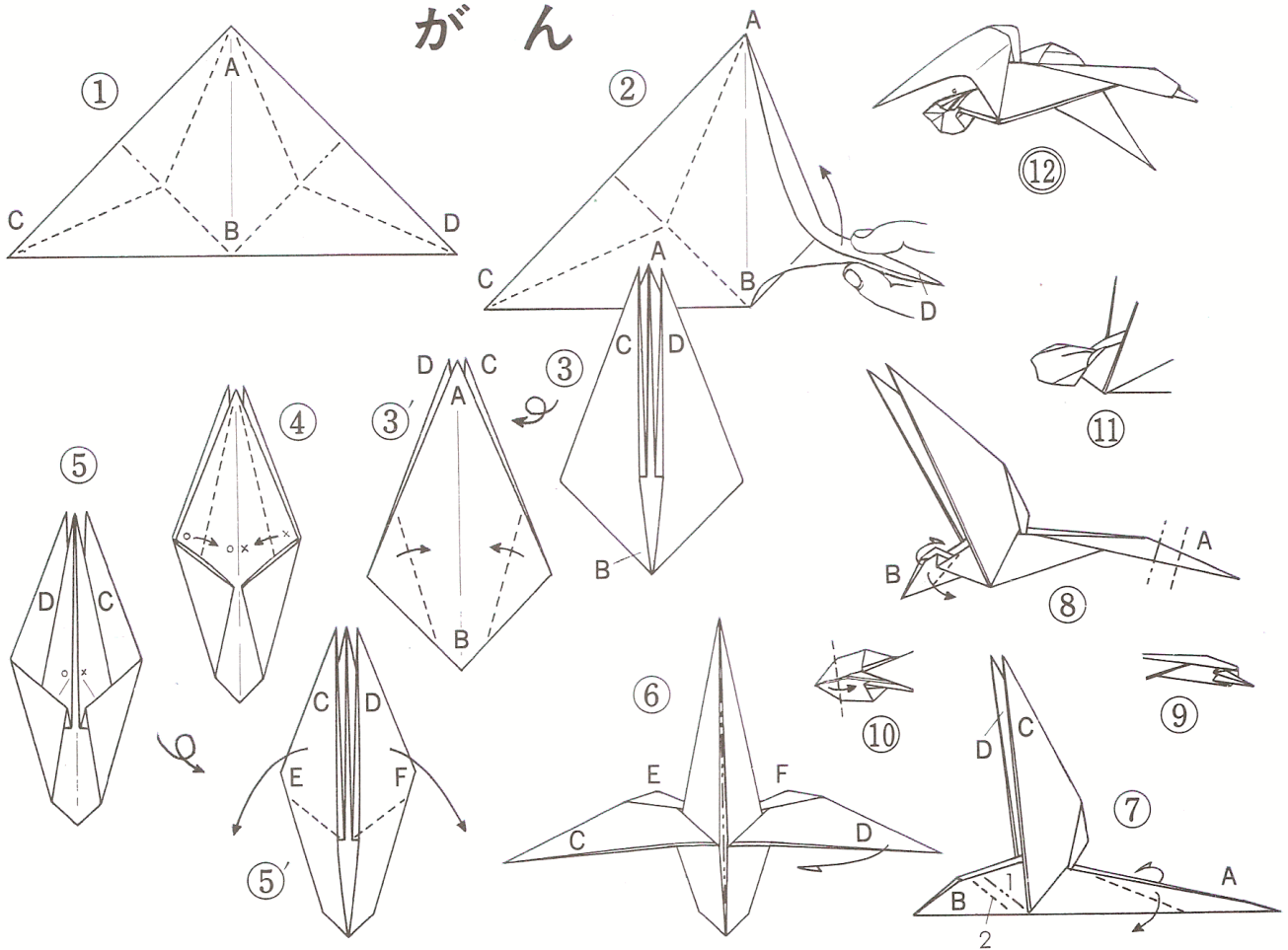
⑧ Aを折って頭をつくり、羽をあげて形をととのえる。

⑨ 出来上り。

● 折り線の構成が直線図案形ですから、折り目と折り目が、直角や平行線にならないようにします。なるべく裏の白い中間色のいろ紙で、やわらかい感じを出すようにしてください。



が ん



晴れた夜空に、列をつくって鳴きわたる「がん」を折ってみましょう。これは、飛んでいる姿ですから、なるべく糸でつるして飾ってください。

直角二等辺三角形の紙を用い、①紙の切り口を合せてそれぞれ山線と谷線に折り目をつけ、②のようにして折りまとめる。

③裏返す。

③矢印に折る。

④内側の一枚をそれぞれ合印に折る。

⑤裏返す。

⑤CとDを谷線から折り下げれば、EFのカドの裏側が自然に小さな三角の袋になる。

⑥中心から二つに折る。

⑦首はAを半びらきにして折りかぶせ、尾は1の山線でBをいったん折り込み、2の谷線で折り返す。

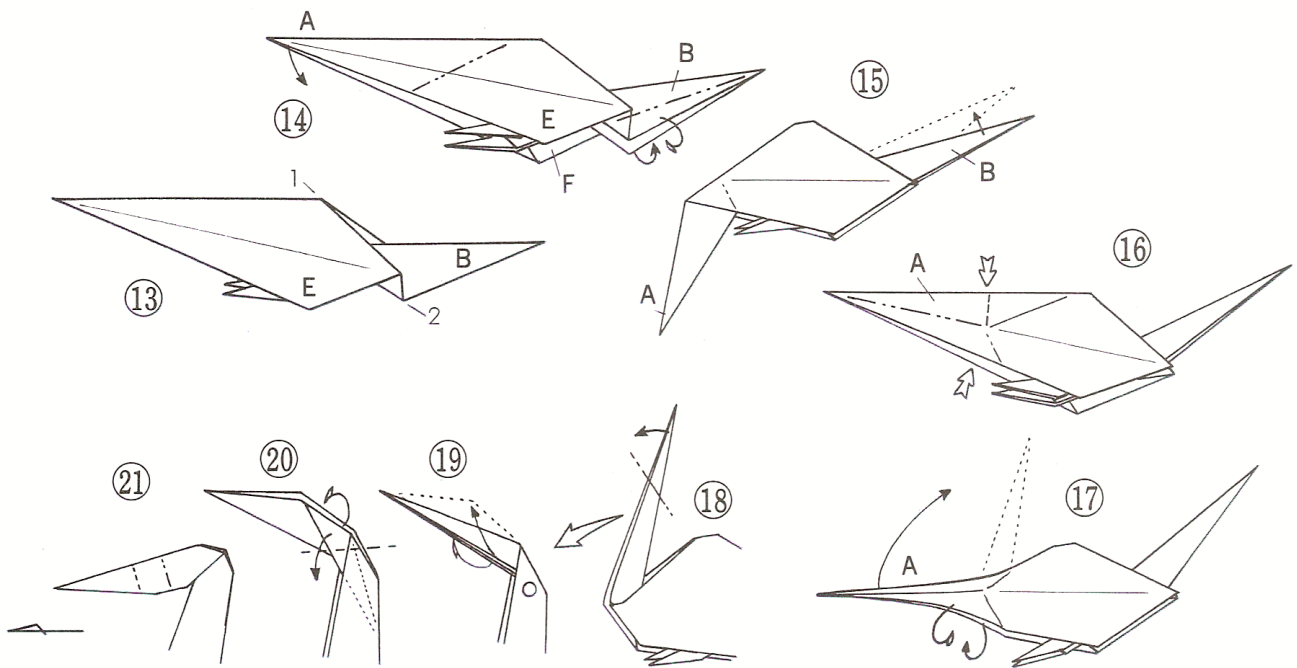
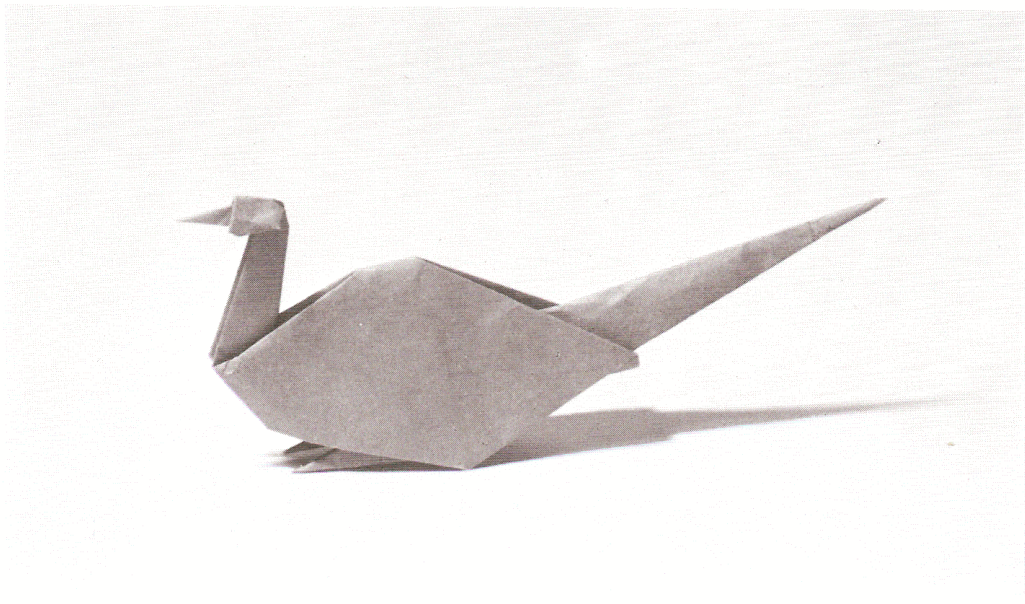
⑧Bを矢印にひらいて折りかぶせ、Aの先を平らにして段をつける。

⑨⑩は下から見た部分図。⑪は尾を上から見た図。羽を指先で正しい形をととのえる。

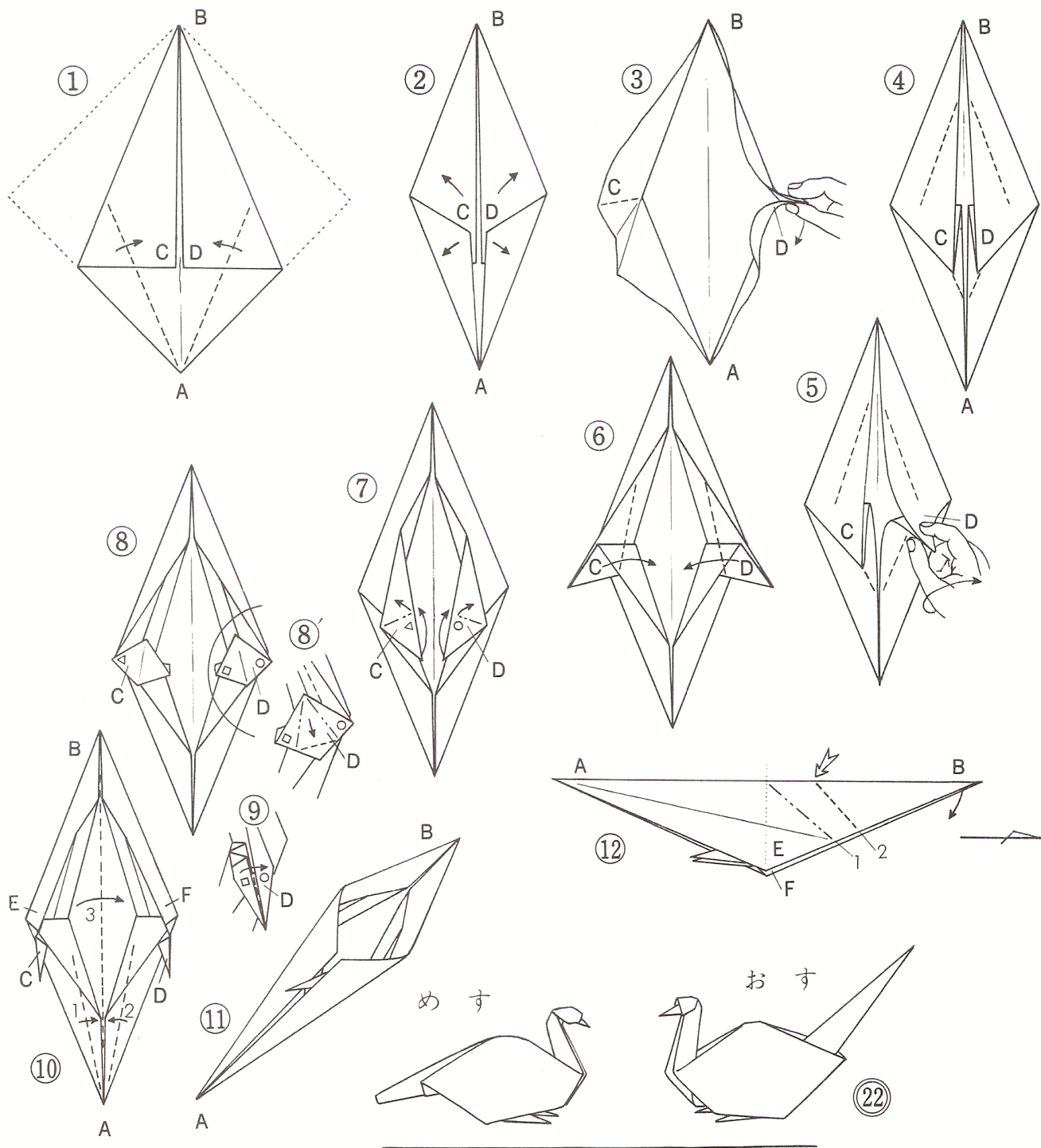
⑫出来上り。

○羽のつけ根のところを角度を変えれば、いろいろな姿に変化がつけられます。

雉 (き じ)

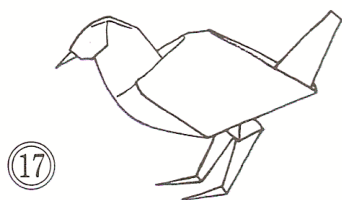
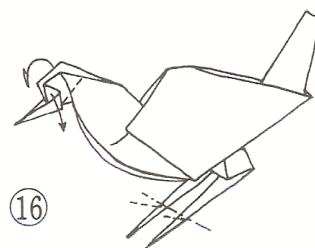
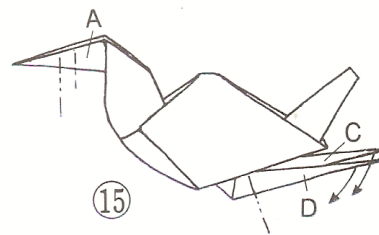
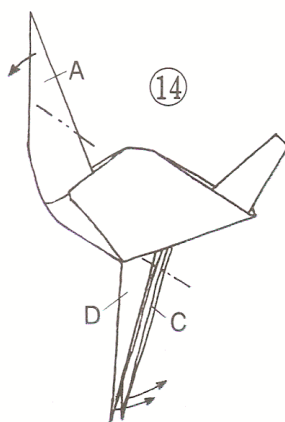
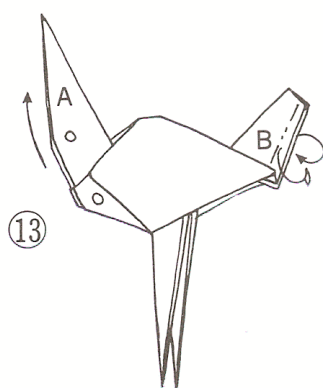
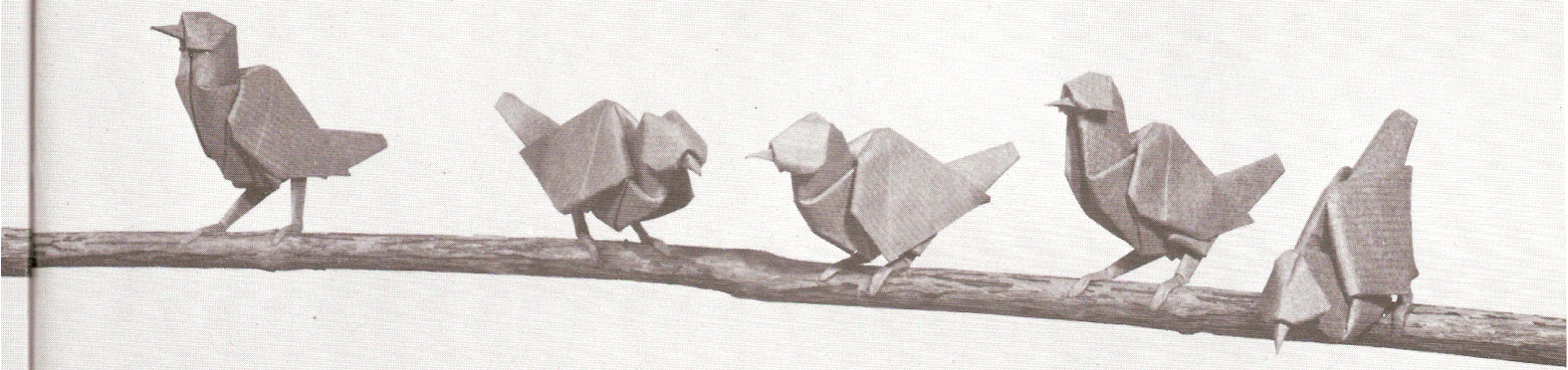


- きじ (雄)
- 正方形の紙を①のように折り、さらに矢印に折る。
- ②をひらき、③のようにしてCDのカドをつまんで折り下げる。
- ④⑤CDをもって外側にねじって谷線を折る。
- ⑥CDを矢印に折る。
- ⑦⑧CDの△印と○印の記号を矢印にずらして、CDの袋をひろげて平らにする。(従ってCDのカドのところにある線は⑥図で折った折り目である。)
- ⑧山線と谷線でDを矢印に引き出す。
- ⑨○印の上に□印を重ねる。CもDと同様に折って⑩。
- ⑩12の谷線を⑪のように折ってからひろげ、3の谷線で縦に二つに折る。
- ⑫12の折り線を二、三回逆に折り返して、折り目をやわらかくしてから、2の谷線の箇所を内側へ押し込んで⑬。
- ⑭Bを矢印に細く折り込み、Aを斜めに間へ折る。
- ⑮Bを点線へ引き出し、Aを⑯のようにひとまずのばす。
- ⑰Aの内側を袋状にして矢印に押しつぶしてから、⑰の点線の位置へ引きおこす。

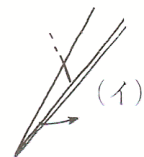
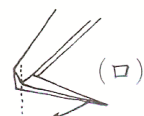


〔註〕折り方は尾をはねあげて雄の個性を出してみました。雄だけ一羽作る場合は、尾をもっと引き下げて形をととのえます。こうした折り方は首やからだを丸やかにふくらませると、いかにも形がととのったかに見えがちですが、功を急がず、「国鳥」としてのきじの品格を出すようにして下さい。それには直線で形づけられたそれぞれの部分が、よく調和がとれるようになるまで折り方を稽古することが大切です。折り方を覚えて、形をととのえることの楽しさときびしさは、折る人の心をおして、そのまま作品に出てきます。

⑮ 山線の位置から折り込む。
⑯ 〇印の内側から、表と裏に引き出す。
⑰ 谷線から矢印に折りかぶせる。
⑱ 折り線の箇所を平らにして段をつけて頭とくちばしの形に折りとのえる。
⑳ 出来上り。
㉑ 雌は尾を出来上り図のように、背の部分まで引き出してから、短く折り込んで形をととのえます。

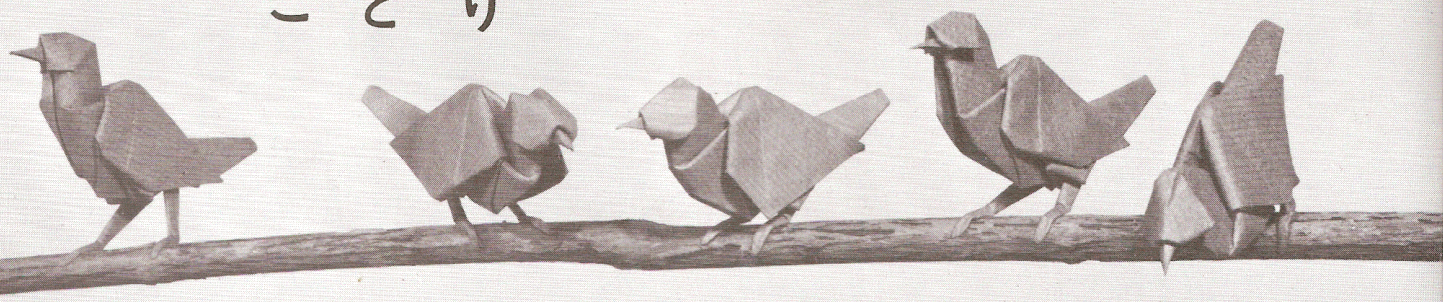


足の作り方

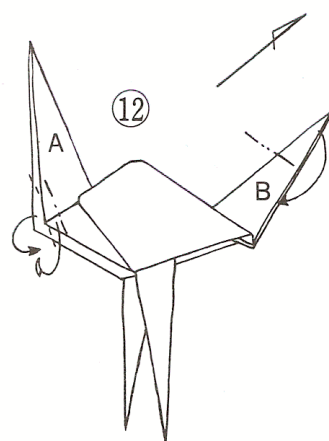
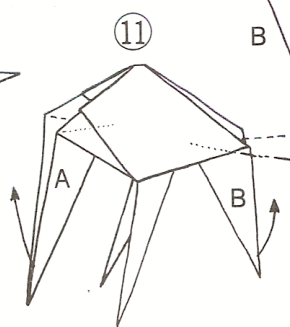
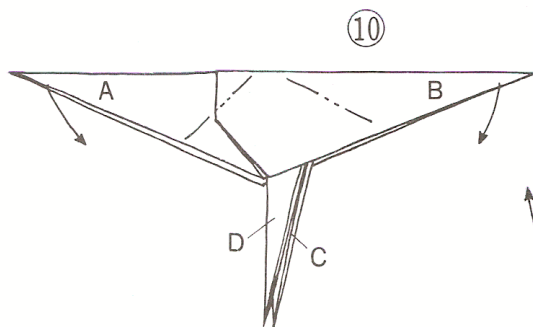
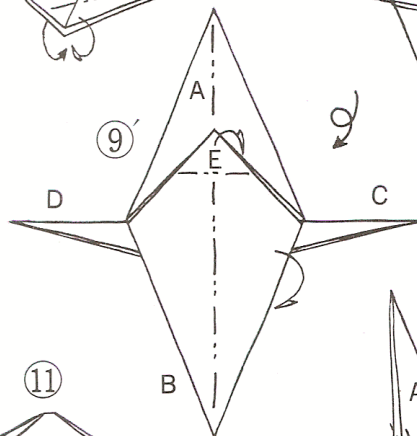
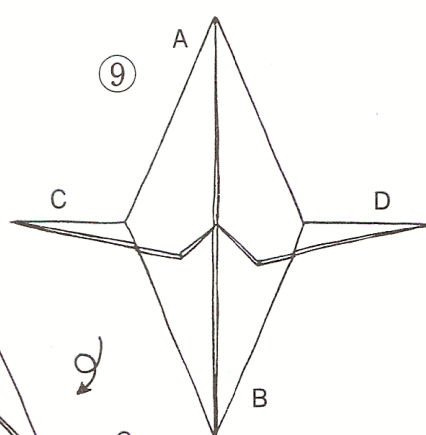
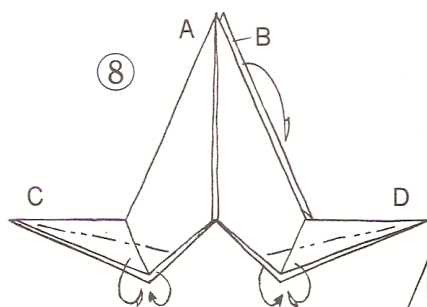
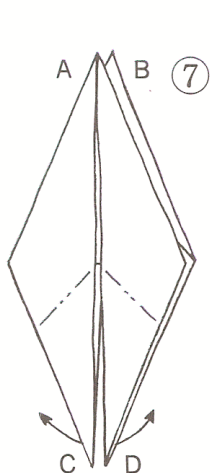


- 基礎折り(A)から折る。
 ⑦ CDを横に折り上げる。
 ⑧ CDを細く折り折り込んでから、Bを折り下げる。
 ⑨ 裏返す。
 ⑨ Eを間へ折り込んでから、二つに折る。
 ⑩ AとBを山線から折り込む。
 ⑪ AとBを点線の内側で折り返す。
 ⑫ 矢印にそれぞれ折り込む。
 ⑬ Bを矢印に細く折り込んでから、Aの○印をもって矢印にわずかに引き出して、⑭のように胸の曲線をつくる。
 ⑭ ACDを矢印にそれぞれ折る。
 ⑮ CDを折り返し、Aを少しひらいて平らにして、段をつけて⑯のようにする。
 ⑯ 頭を矢印にひらいて折りがぶせ、足の先を(イ)(ロ)(ハ)の順に折る。
 ⑰ 出来上り。

こ と り



基礎折り(A)から

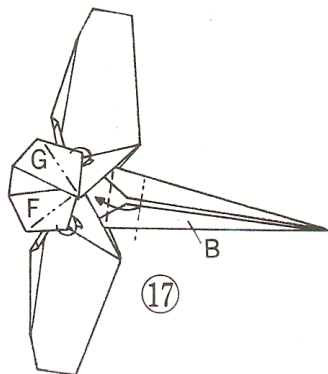
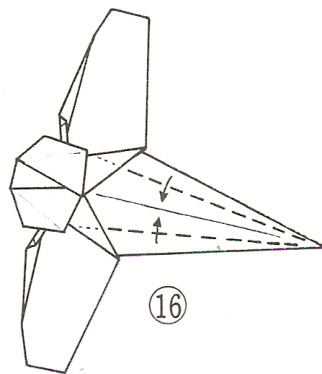
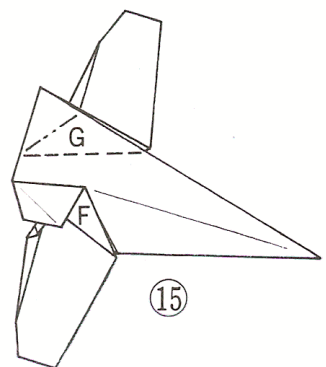
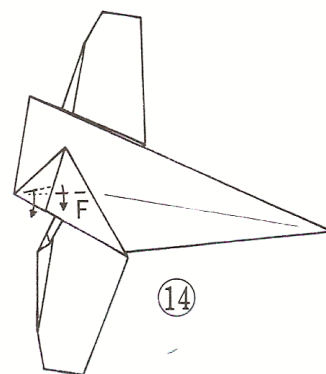
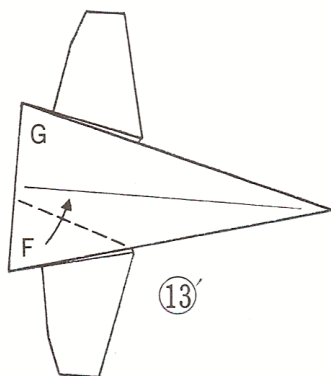
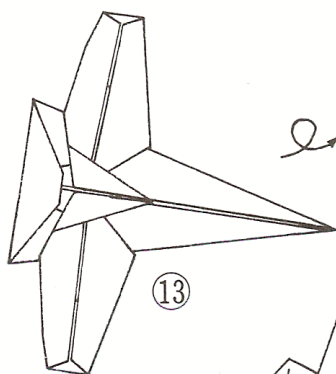
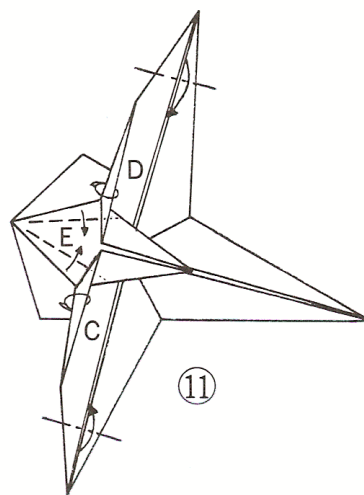
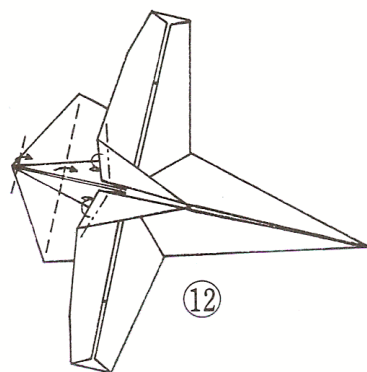
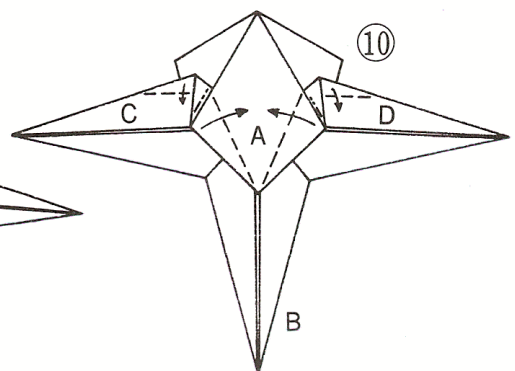
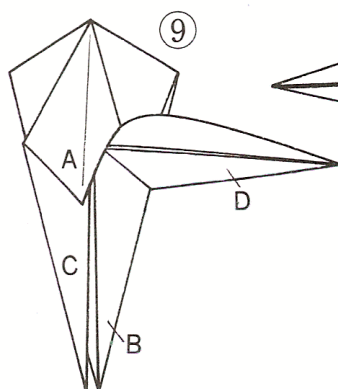
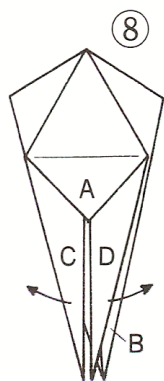
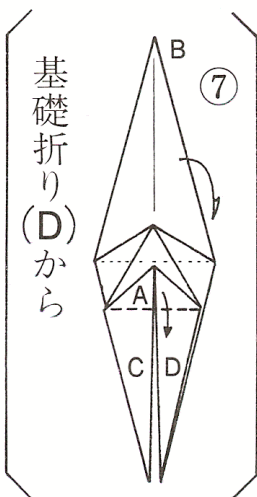


○背と首の線、背と尾の線が直角になると機械的な形になって、やわらかみがなくなりますから、注意して下さい。

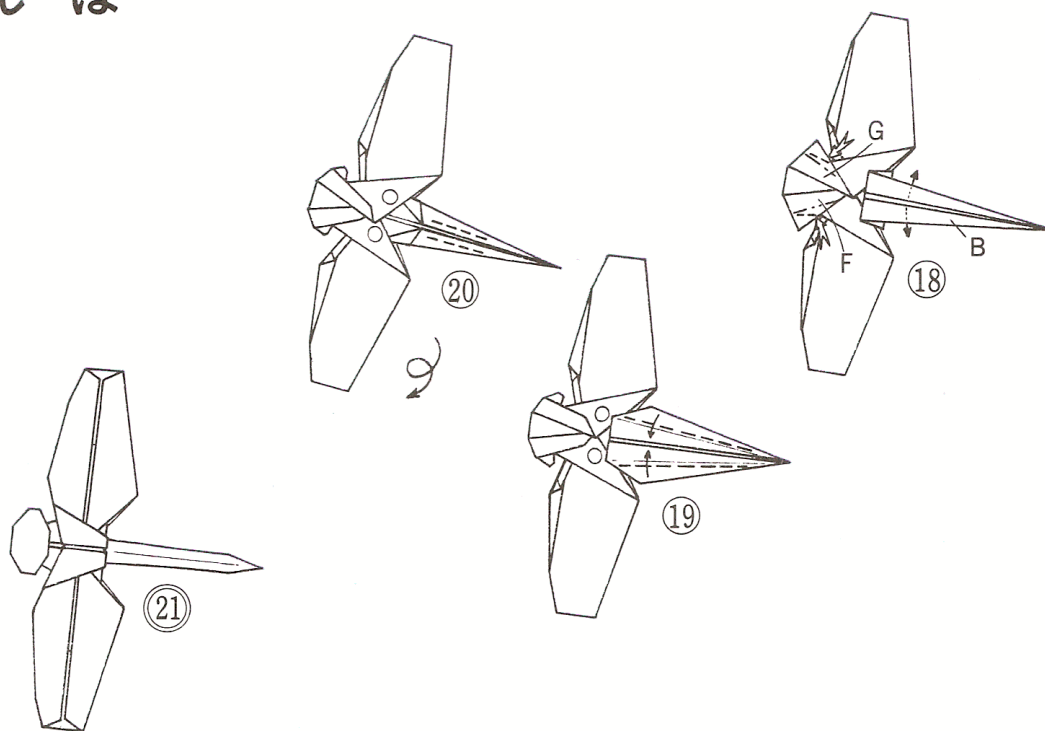
頭の折り方のむずかしい場合は、⑬のままでよいでしょう。

とりの足を作る場合、基礎折りを折るときに、足の先にする部分をきちつと折らず、切り口と切り口の間を少しあけておけば、折り上げたときに、先まで細くきれいに仕上げることができます。

〔註〕上の写真はことりが春の朝仲間と元気に遊ぶようすを作ったものです。こうして作品で雰囲気をつくる時には、姿の変化に對して、同じ種類の鳥であることが大切です。足や首の角度の少しのかげんで、いろいろな表情が出せます。この折り方から、はとやか、す、雀、せきせいなどに折りかえられます。



とんぼ

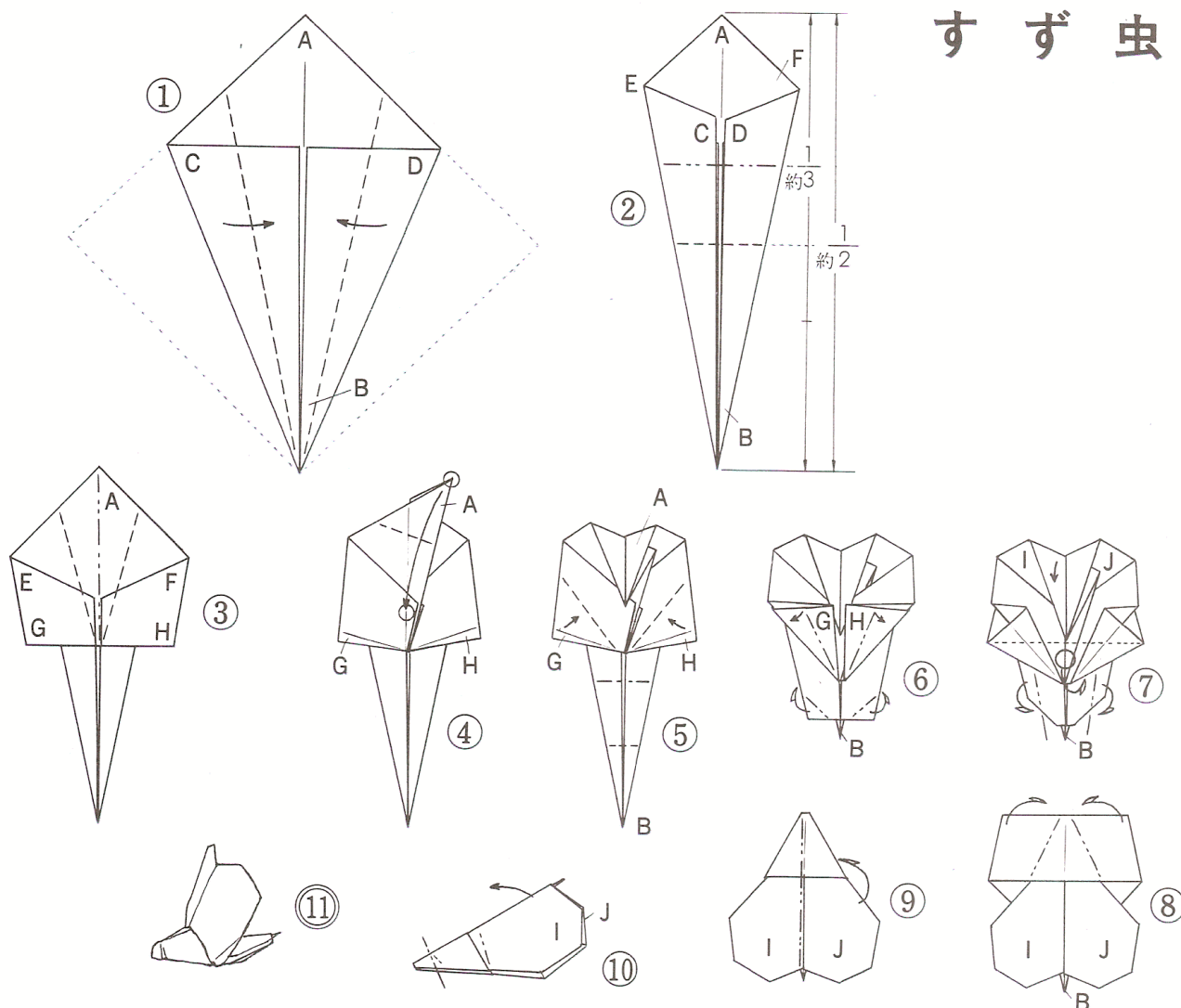


基礎折り(D)から折る。⑦AとBを折り下げる。⑧CとDを⑨のようにして折る。⑩を折り、⑪Eを細く折り、CDの細い三角をひっくり返し、羽の先を折る。⑫を折り、⑬裏返す。⑬Fを折る。⑭Fをずらして折る。⑮GもFと同様に折る。⑯細く折る。⑰FGのカドを間へ折り、Bに段をつける。⑱FGを矢印

に押し込み、Bの裏から開き出す。⑲細く折り、カドを○印の下へ入れる。⑳腹を細く折って形をととのえる。㉑出来上り。

○羽や腹を折りかえればいろいろなとんぼができる。赤とんぼのモビールを作ったり、白いレースのカーテンに何げなく一匹とまらせるのもしやれている。

すず虫



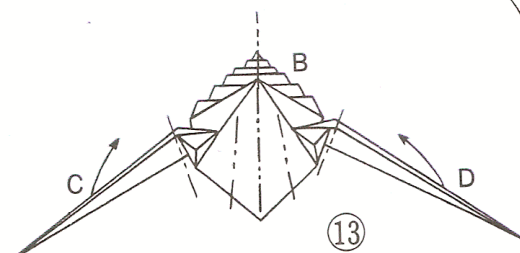
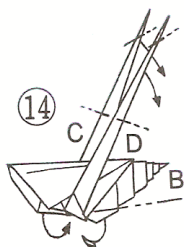
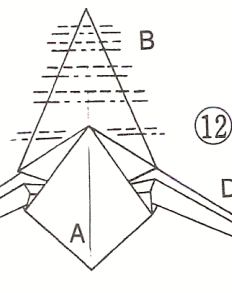
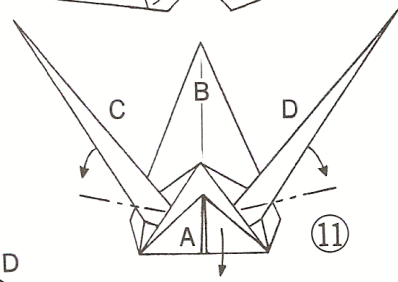
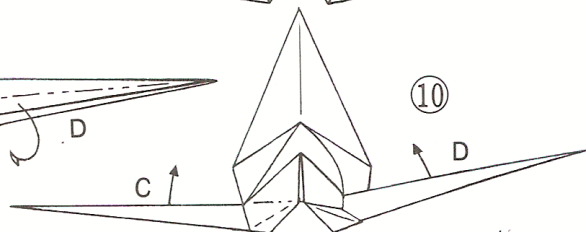
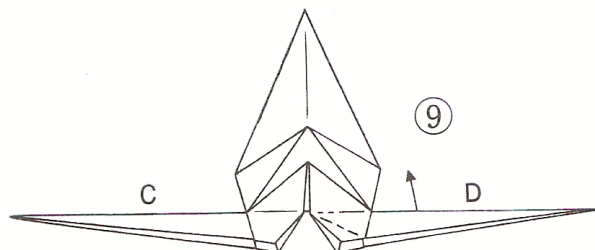
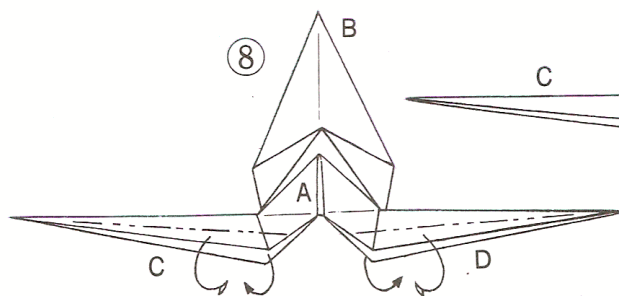
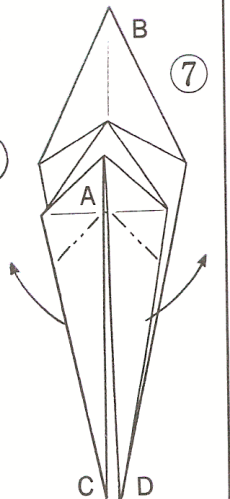
すず虫

秋の虫をいろいろ折りましょう。
すず虫は鳴いている風情をあらわしたものです。写真の右から三番目は羽をたたんでいる姿です。

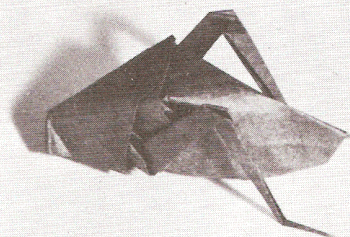
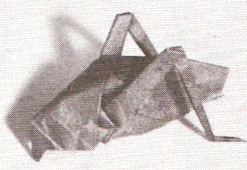
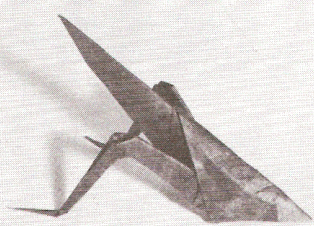
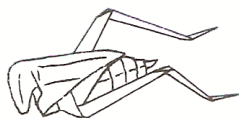
- ① 正方形の紙を図のように折ってから、さらに細く折る。
- ② 山線と谷線を折って段をつける。
- ③ 山線と谷線でAをつまみ上げてGHのカドをずらして平らにする。
- ④ 谷線の位置からAを折り下げて、⑤のようにする。
- ⑤ GHを折り、Bを山線と谷線で短く折り込む。
- ⑥ GHの袋を外へずらしてひろげ、下のカドを裏へ折る。
- ⑦ 〇印を点線から間へ折り込み、IJを折り下げる。
- ⑧ 上のカドを裏へ折る。
- ⑨ 二つに折る。
- ⑩ IJを引きおこして、形をととのえる。
- ⑪ 出来上り。

こおろぎ

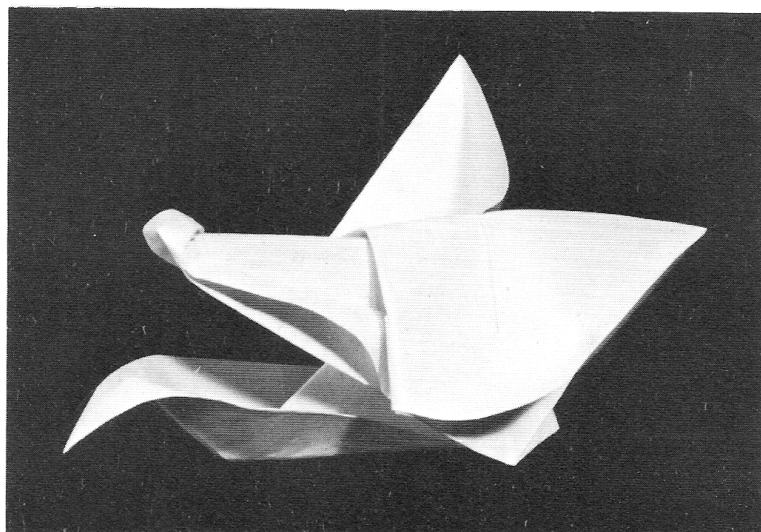
基礎折り(C)から



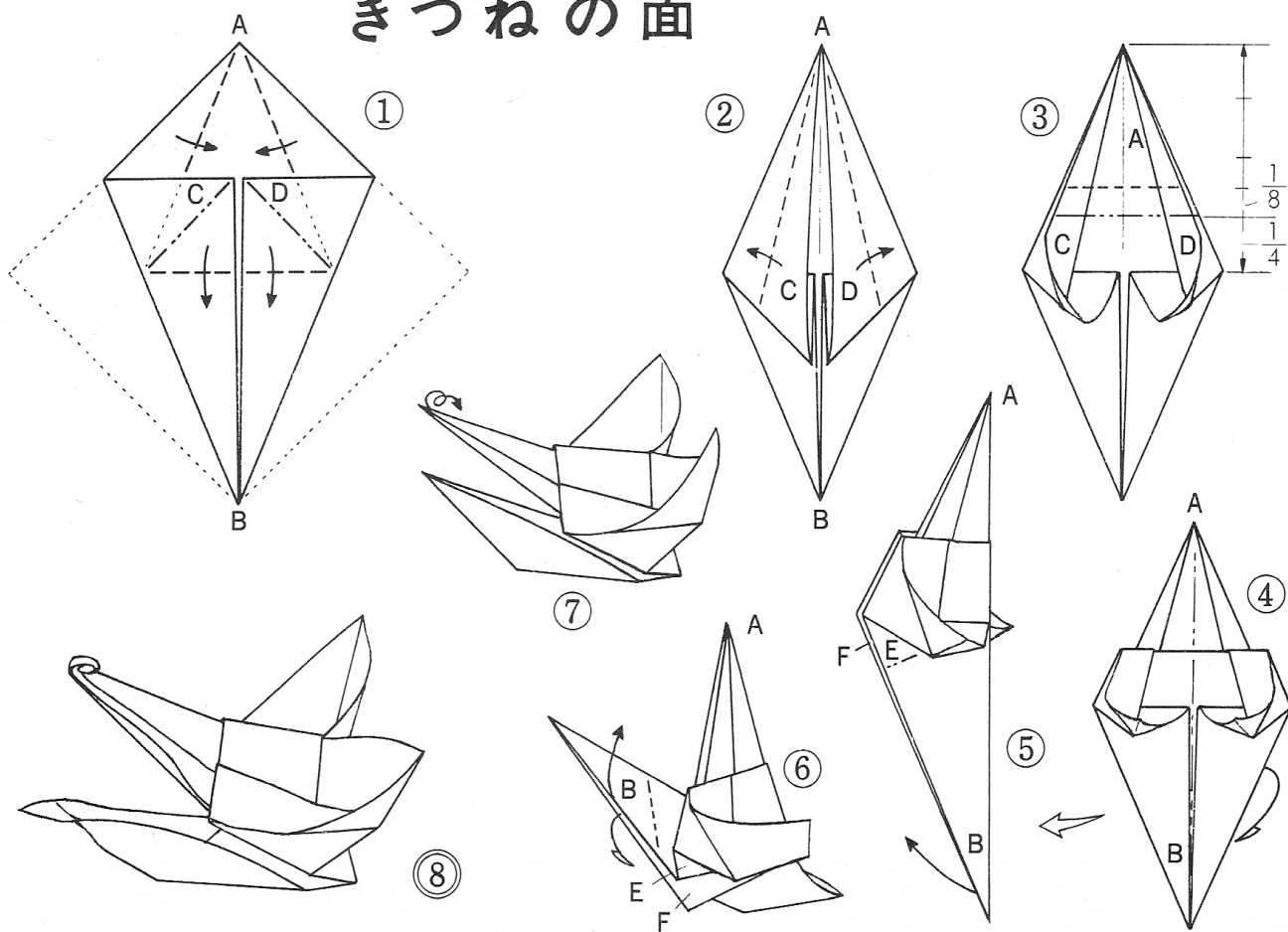
⑮



- こおろぎ
- 基礎折り(C)から折る。
- ⑦ CDを間へ折り上げる。
- ⑧ CDを細く折る。
- ⑨ 山線と谷線で、Dを⑩のようにして折り上げ、Cも同様に折る。
- ⑪ CDを折り返し、Aを折り下げる。
- ⑫ Bに段をつける。
- ⑬ CDを折り返し、山線に折り目をつけて体をつくる。
- ⑭ CDを折り下げて足の形に折り、下のカドを折り込んで形をととのえる。
- ⑮ 出来上り。
- 左頁の写真はこの折り方から、Bの裏側を思いきってひろげたり、細く折り込んだものです。左からくさきり、ひしばった、うまおい、くつわ虫などです。
- 小さな落葉を折り紙でいくつも作って散らし、その中へ何げなくこれらの虫を配置してみるのもよいでしょう。(木の葉の折り方10頁参照)

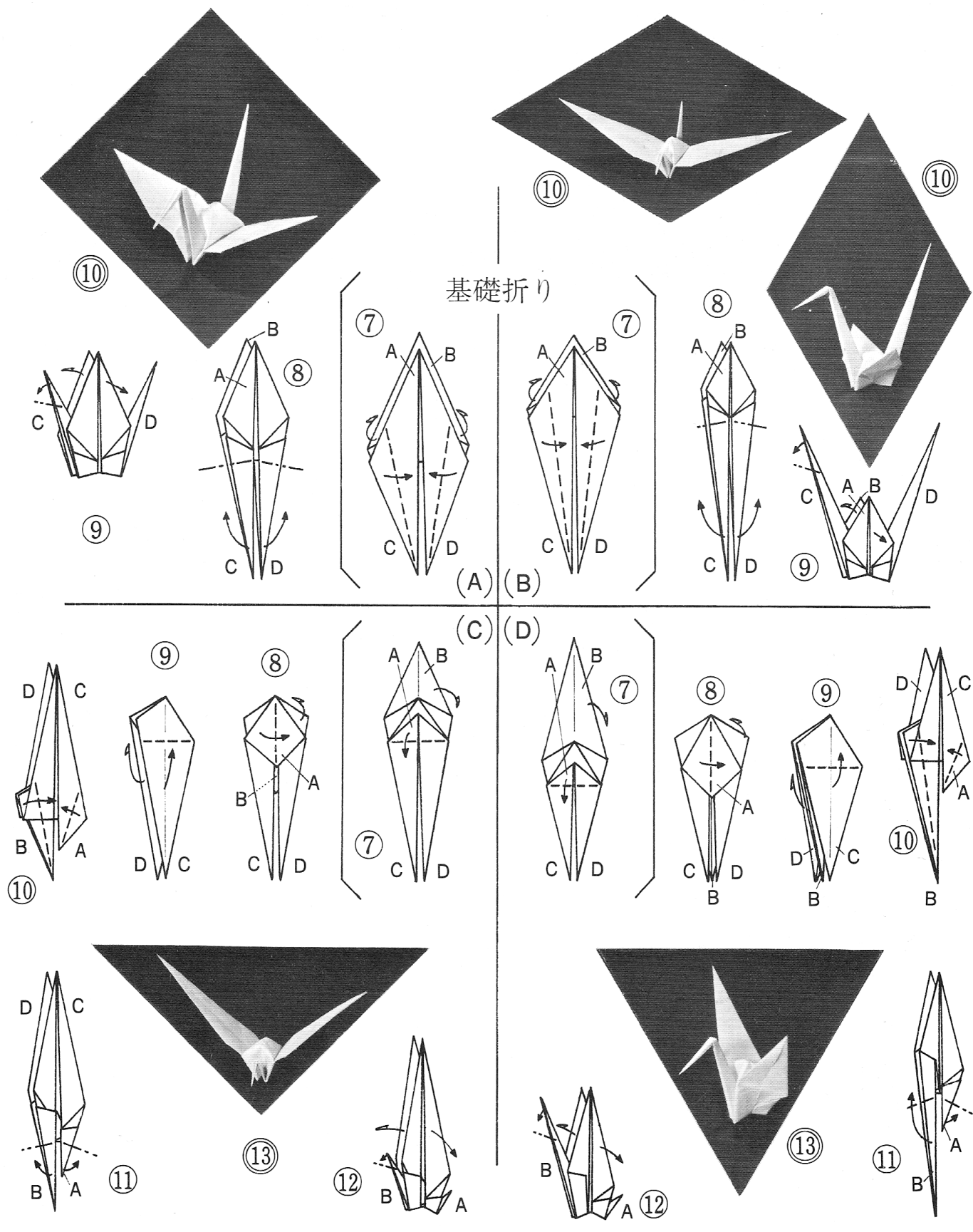


きつねの面



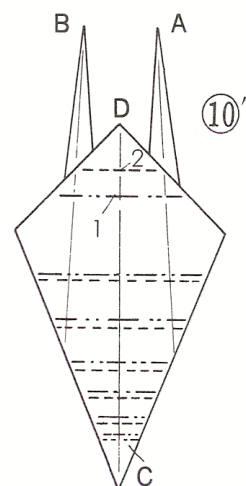
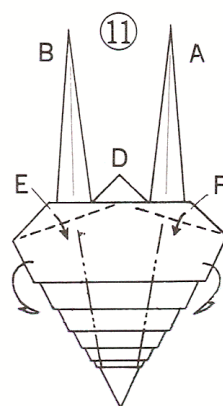
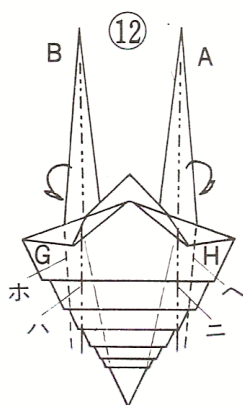
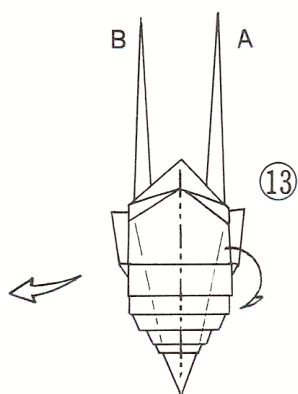
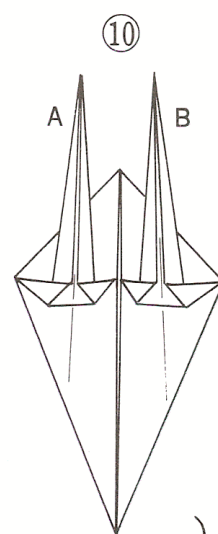
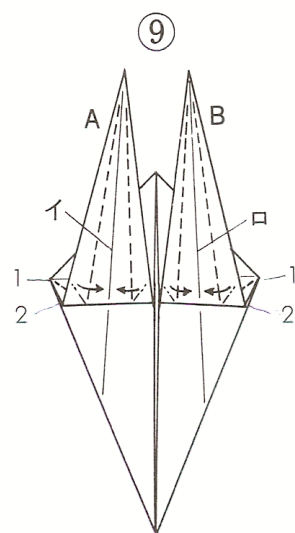
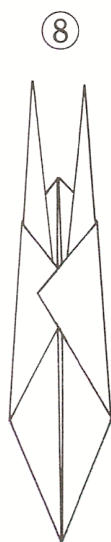
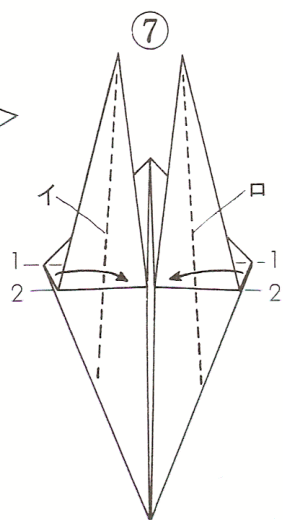
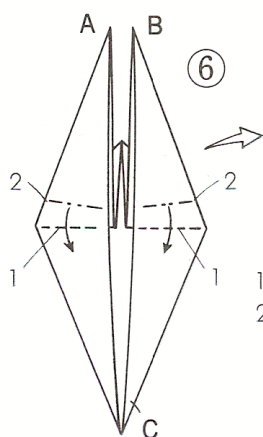
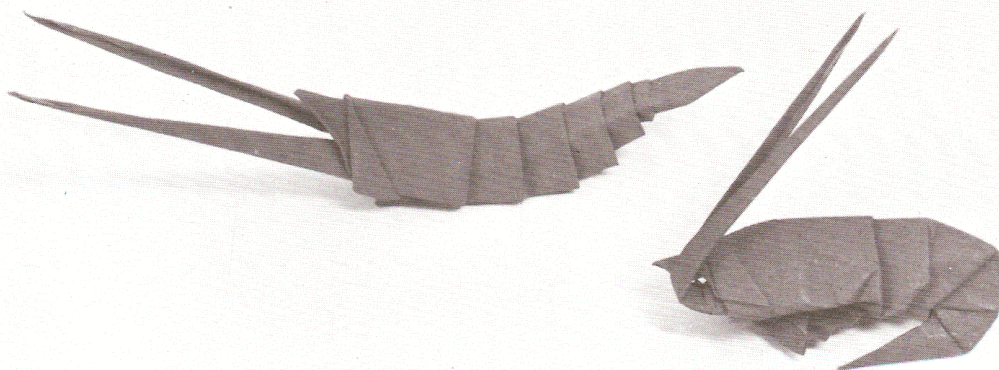
- 正方形の紙の対角線 **A B** に折り目をつけてから、①のように折り、山線と谷線で **C D** を折り下げる。
- ② **C** と **D** を谷線から折ってひらく。
- ③ 図の割合に段をつける。
- ④ 縦に二つに折る。
- ⑤ **B** を **E F** の間へ折る。
- ⑥ **B** を谷線の位置から矢印にひらいて折る。
- ⑦ 鼻の先を小さく巻き折りにして形をととのえ、下あごの先を指で平らにしごいて形をととのえる。
- ⑧ 出来上り。
- ⑥図の **E F** の部分を持って動かせば口や耳が動きます。

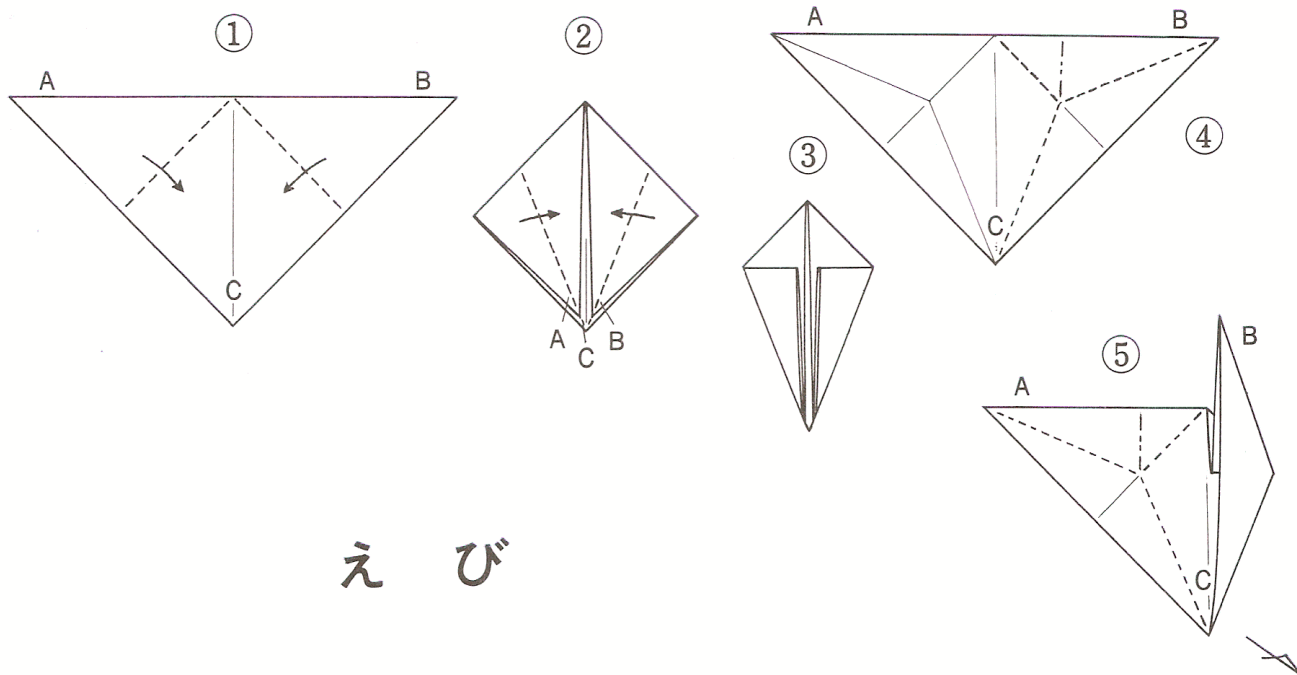
用紙の原型と折づるのバリエーション



24・25頁の基礎折り(A)(B)(C)(D)から折づるを折ると上のようになる。折づるは四つのカドのある紙で頭と尾と二つの羽を作るが、基礎折り(C)(D)の原形は三角形であっても、折づるの折り線を取り入れることができる。

これは単に変わった折づるを作れるということではなく、これらの折り線を応用して、主題に適した用紙の形と折り線を考える上で役立つ。●(B)の羽の長い折づるは⑦のABとCDを折りかえて折ったものである。

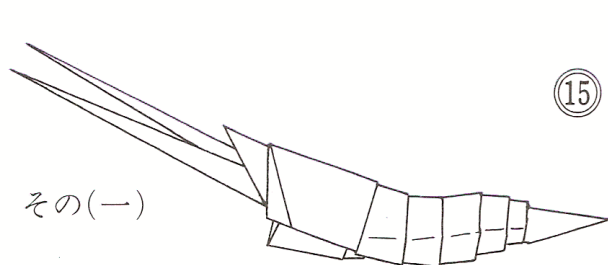




えび

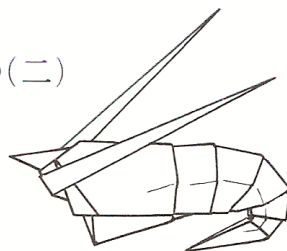
直角二等辺三角形の紙を①②③の順に折る。③をひらく。④折り目をつけなおしてBを折り上げる。⑤AもBと同様に折る。⑥1の谷線でABを折り下げてから、2の山線で折り返す。⑦イロの谷線を⑧のようにして折り目をつける。⑨ABを細く折る。⑩裏返す。⑪ABを折らないようにして1の山線でDを間へ折り、2の谷線で折り返し、下は順に細く段をつける。⑫山線で折り目をつけてから、EFを折る。⑬ハニの山線でGHを裏へ折り、ホへの谷線で折り返す。⑭中心から二つに折る。⑮12の矢印の部分をしずかに押し込み、3456の順に少し引き出して、⑮その(一)出来上り。

その(二)は⑭の7の矢印のところを押し込んで頭をつくり、ABを谷線の位置からそれぞれ外側に折り返す。背の部分の12の矢印に押し込み、3456の順に思いきって引き出して丸みをつけ、山線で○印のところを折り込んで形をととのえて、出来上り。



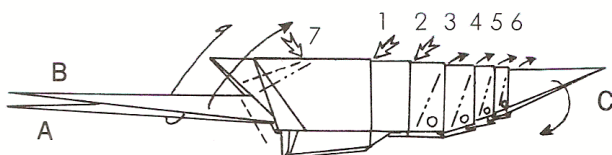
その(一)

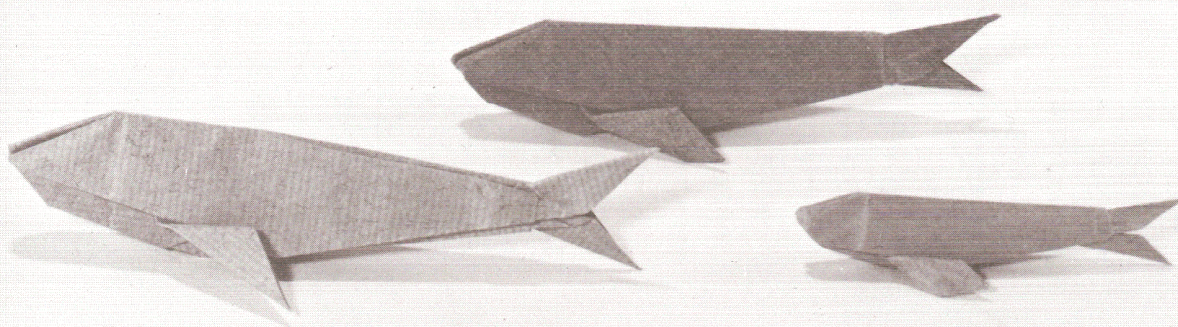
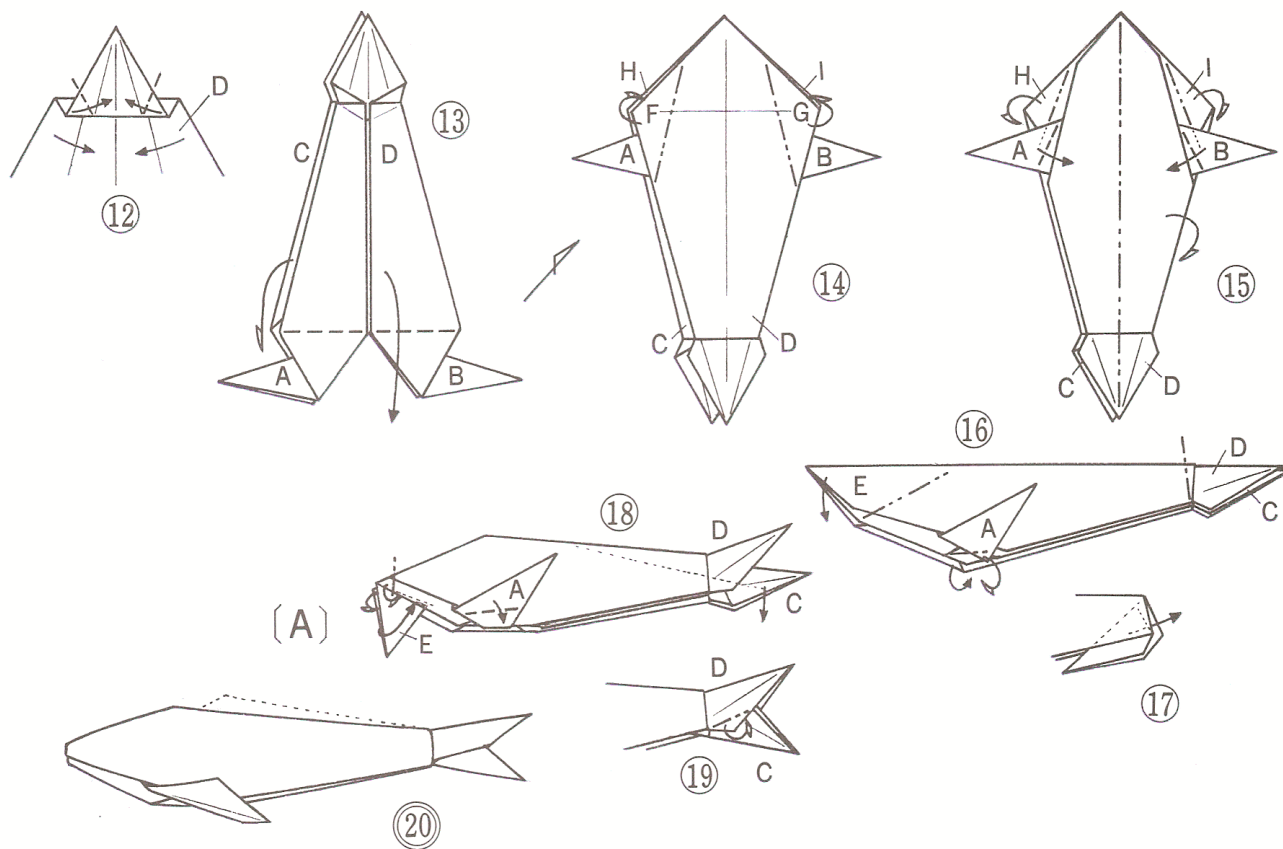
その(二)



⑮

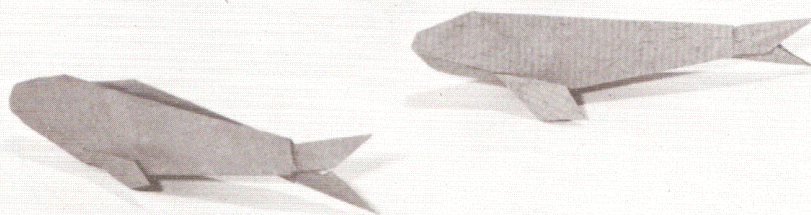
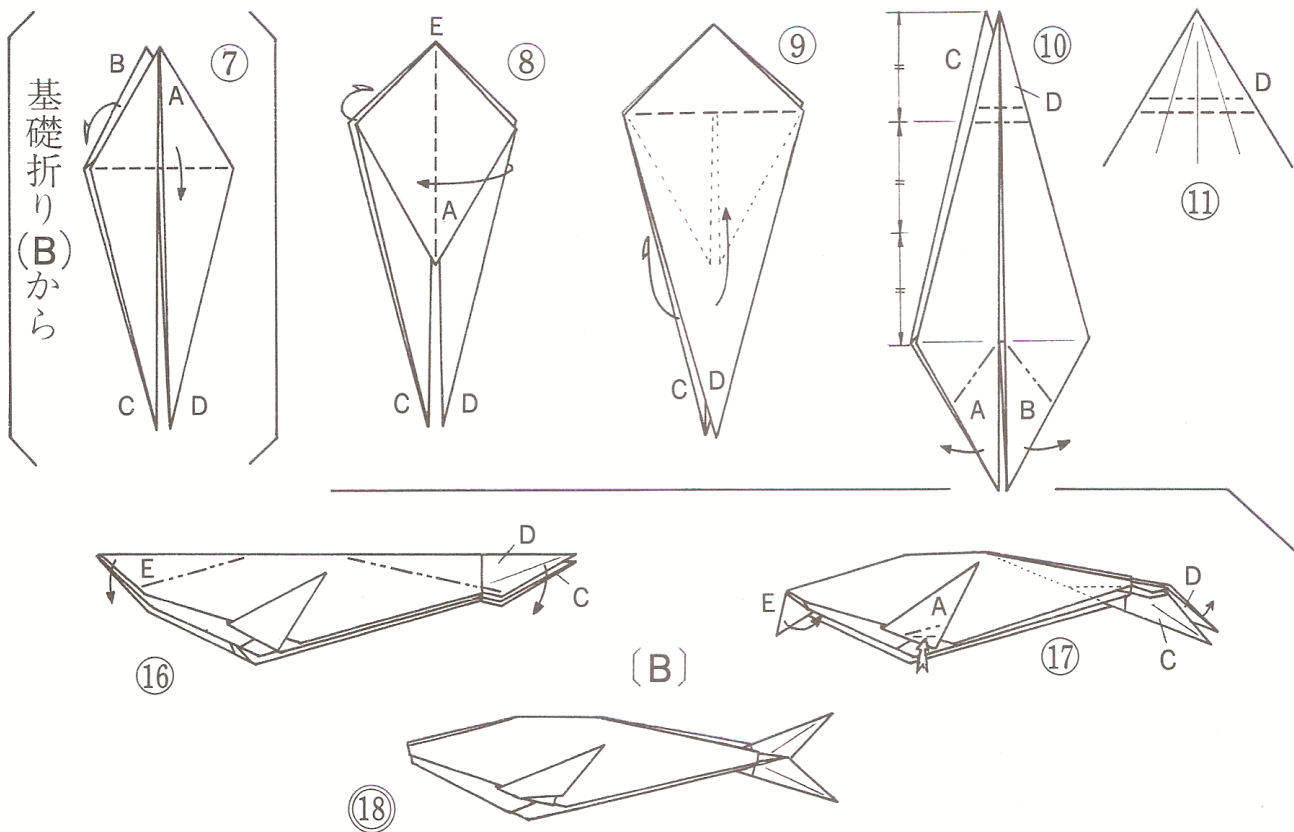
⑭





さかな

- さかな [A]
基礎折り(B)から折る。
- ⑦ ABを折り下げる。
 - ⑧ それぞれ矢印にひらきかえる。
 - ⑨ CDを折り上げる。
 - ⑩ AとBをそれぞれ間へ折ってから、寸法の割合にCとDを重ねて、折り目をつけ、Dの先を⑪のようにひらいて段をつける。
 - ⑫ 先の方を平らにしたまま折りまめ、CもDと同様に折る。
 - ⑬ CDを折り下げる。
 - ⑭ FとGのカドを間へ折る。
 - ⑮ HとIを裏へ折り、ABを折り返してから縦に二つに折る。



- ①⑥ Eのカドを折り込み、胸のカドを小さく間へ折り、CDを重ねたまま背の線に殆ど直角に山線から①⑦のように折り込む。
- ①⑧ Eを矢印に折り込んでから、Aを少しひらいてずらし胸びれを作り、裏側のBも同様に折る。次にCを点線の内側で折り返して①⑨のようにする。
- ①⑨ Cの上に重なっているDのカドを山線から折ってきっちり間へさし込み、裏側も同様に折り込んで尾の形を固定してから、全体をととのえる。
- ②⑩ さかな[A]出来上り。
- 色紙などにはって飾る場合は、裏側の一枚を点線へ引き出して背びれを作ります。
- さかな[B]
- ①⑥ まで[A]と同様に折り、Eを山線から折り込み、CDを重ねたままできるだけ細長く斜めに折り込む。
- ①⑦ Eをつまんで間へ折り込み、Aと裏側のBをひれの形にととのえ、尾はDを点線の内側で折って矢印に引き出す。
- ②⑪ さかな[B]出来上り。

海がめ



基礎折り(A)から折る。

⑦ A Bを折り下げる。

⑧ 左右の四つのカドを間へそれぞれ折り込み、CとDを点線の内側で折り上げる。

⑨ CとDを斜めに細く折り返して⑩のようにする。

⑩ CとDを矢印にひらいて折りかぶせ、Eを山線と谷線で段をつけてから裏返す。

⑪ Eを部分図のように折り、A Bを重ねたまま、裏側(背の方)がふくらむように山線と谷線でつまみ上げて左へたおす。

⑫ Aを引き出す。

⑬ Aを矢印にたおして、皿形になっている中央部をなじませる⑭。

⑭ 裏返す。

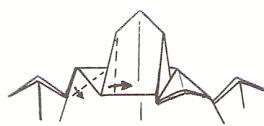
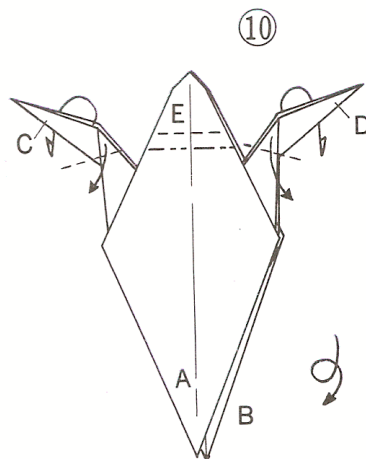
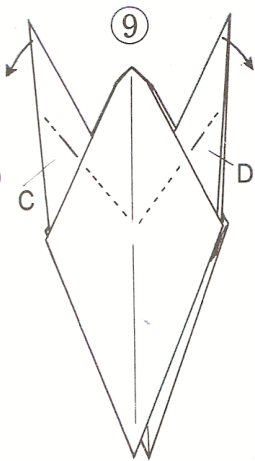
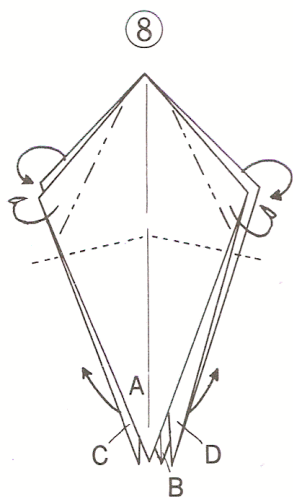
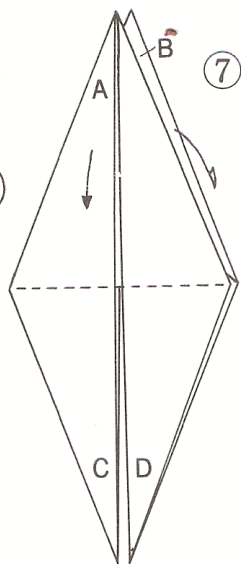
⑮ (背がふくらんでいる形) Aを矢印にひらいて谷線の位置から折りかぶせ、Bを谷線でいちど折ってから、山線で先をひろげて⑯のBの形にする。

⑯ Aを矢印に折り、Bを山線で折ってから、谷線で甲らの間へさし込む。

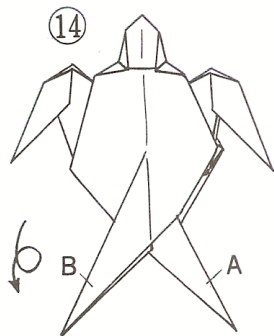
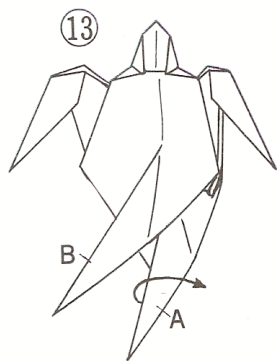
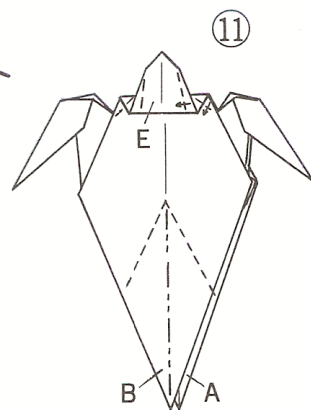
⑯ ⑰ Aを谷線と山線で先を平らにひろげてから甲らの中へ入れて、全体の形をととのえる。

⑰ 出来上り。

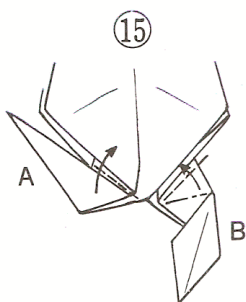
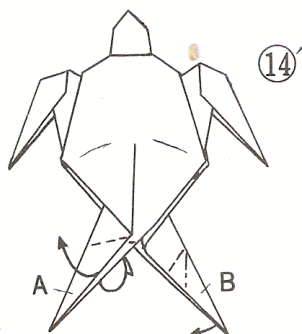
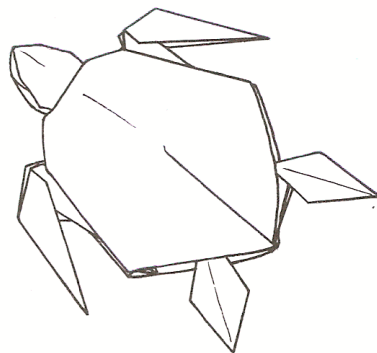
基礎折り(A)から



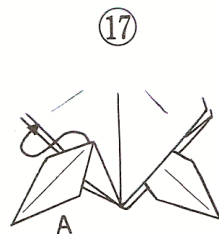
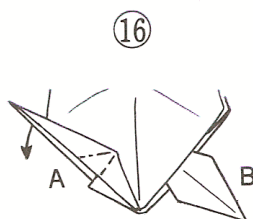
首の折り方



18



後足の折り方



子ぐま



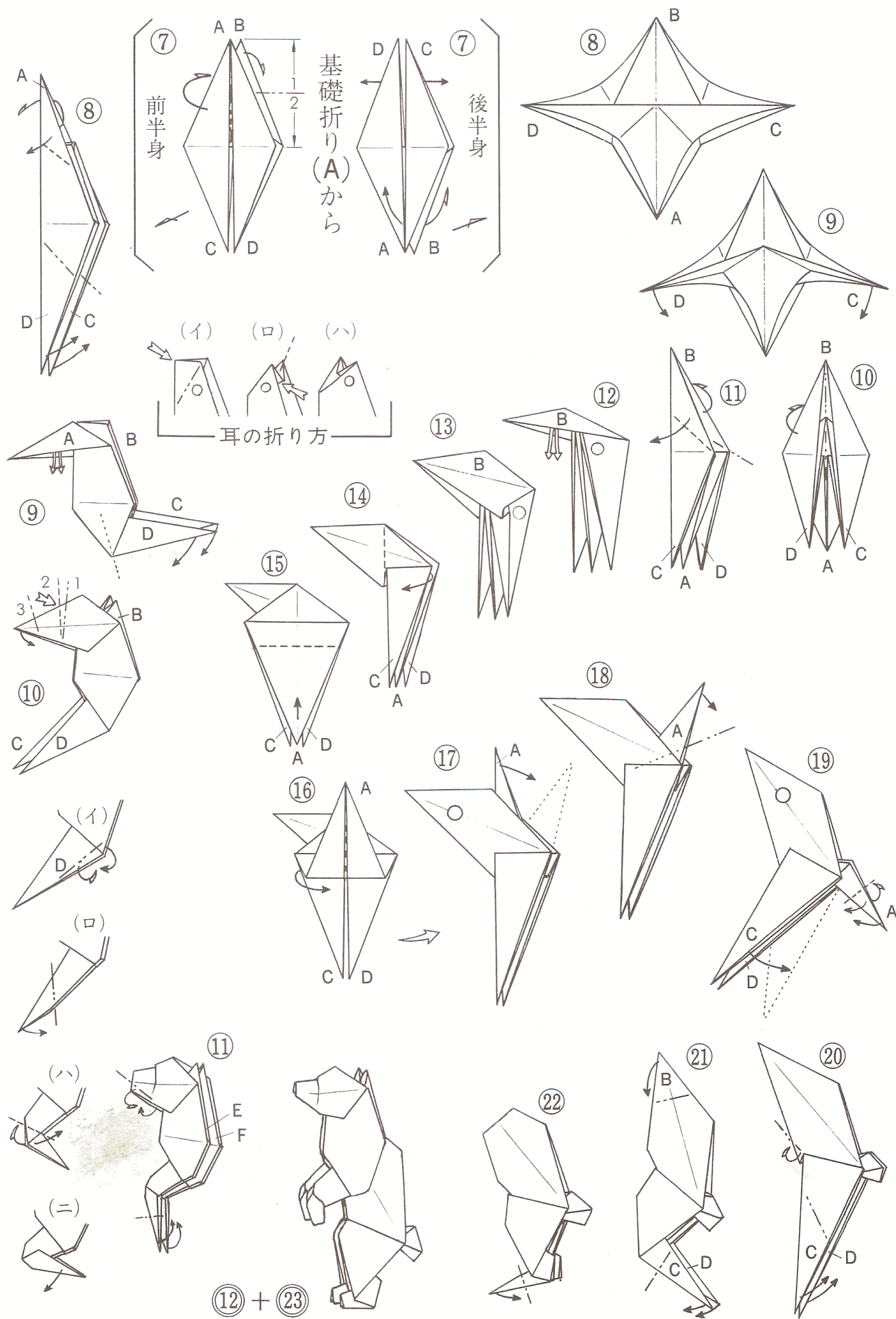
基礎折り(A)二つを前半身と後半身に折って組み合せる。

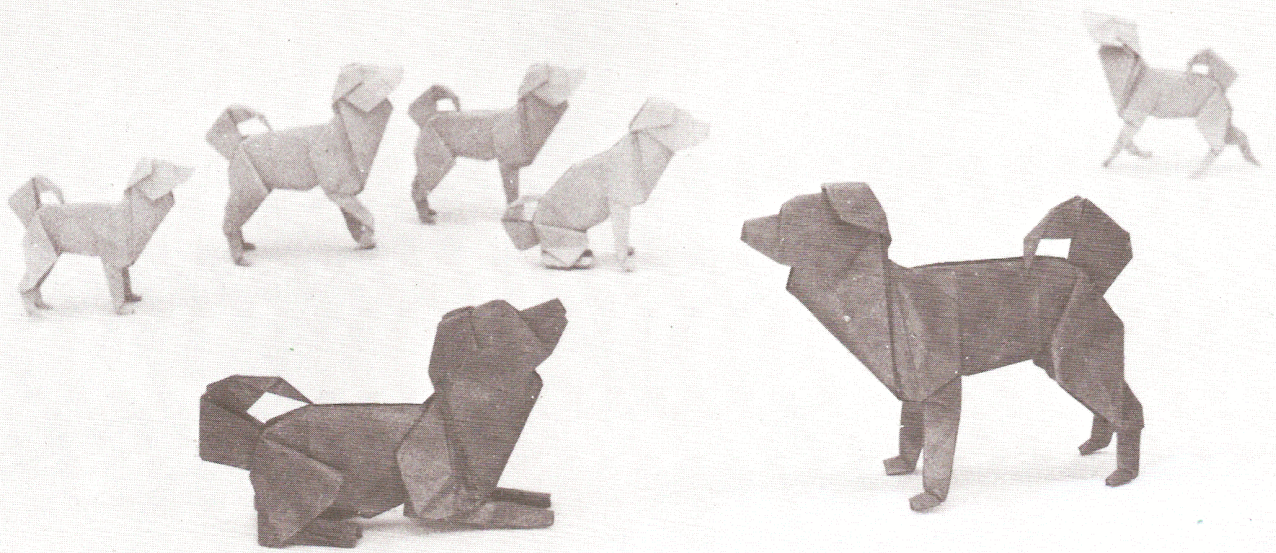
前半身 ⑦Bを折り下げたから、二つに折る。⑧Aをひらいて折るかぶせ、CDを折る。⑨Bを耳に折り、CDを点線の内側で折り返し、Aの中からひらき出す。⑩12の折り目で矢印に押し込み、先を中へ折り、前足を(イ)(ロ)(ハ)の順に折る。⑪あごと足の先を折って、前半身仕上り⑫。

後半身 ⑦CDを思いきって引っぱれば、ABが⑧のようになる。

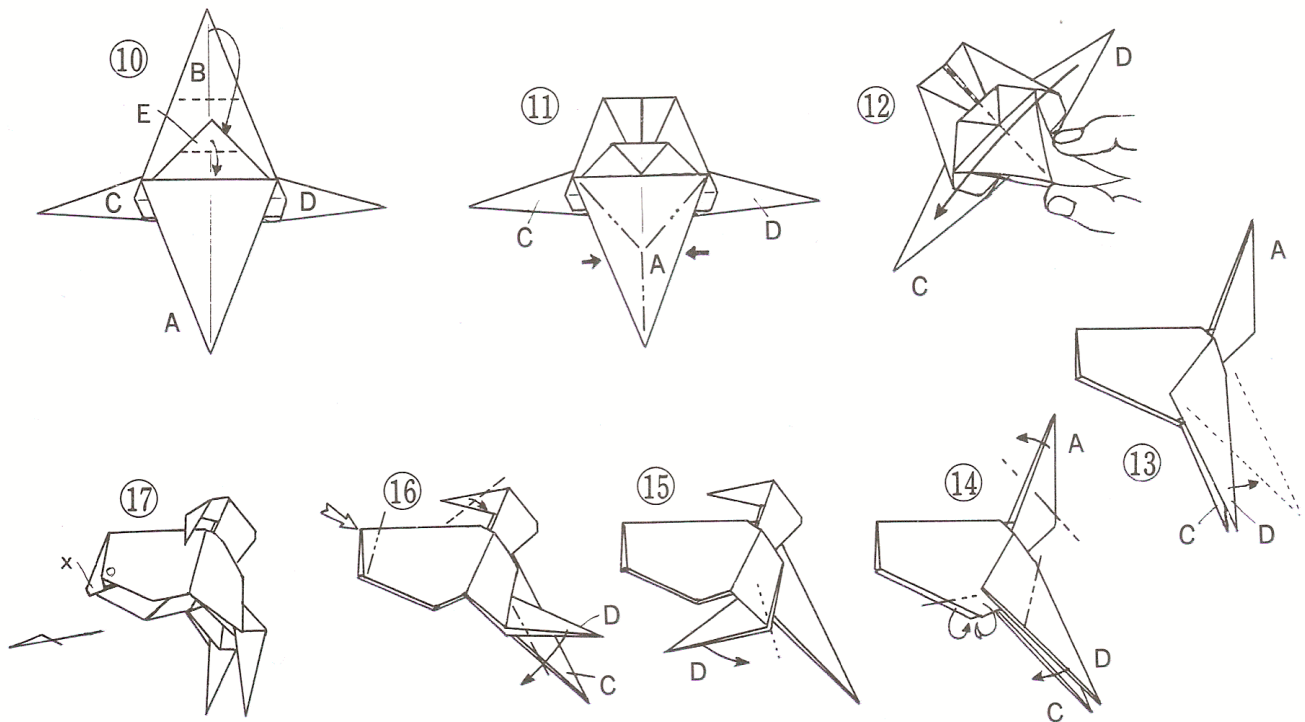
⑧CDを⑨のように折り下げて⑩⑪二つに折る。⑪Bをひらいて折るかぶせる。⑫Bの内側から矢印に引き出し、⑬のようにして折りがえる⑭。⑭矢印にひらく。⑮から⑯まで尾の作り方。⑯○印をもつてCDを点線へしずかに引き出す。⑳腹を表と裏から折り、CDを折り返す。㉑Bを中へ折り、CDを折る。㉒足の先を折り返して、後半身仕上り㉓。前半身EFの間へはりつけて㉔+㉕出来上り。

○前半身と後半身の組み合せ方
前半身のEFの外側をひらいて内側のカドを細く折り返し、その上に後半身の袋のカドをかぶせて、それぞれいっしょに巻き折りにしてから外側のEFをかぶせる。





からふと犬

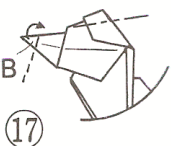
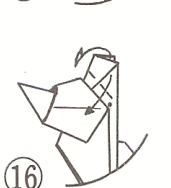
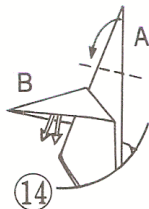
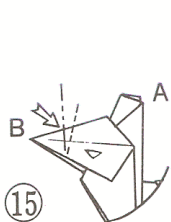
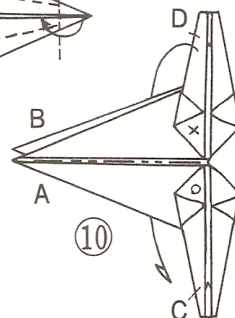
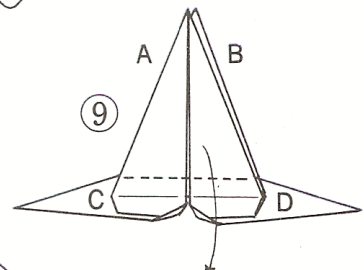
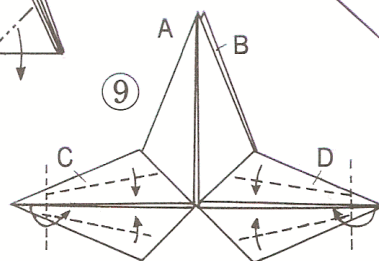
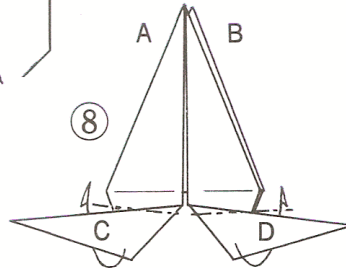
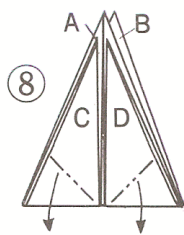
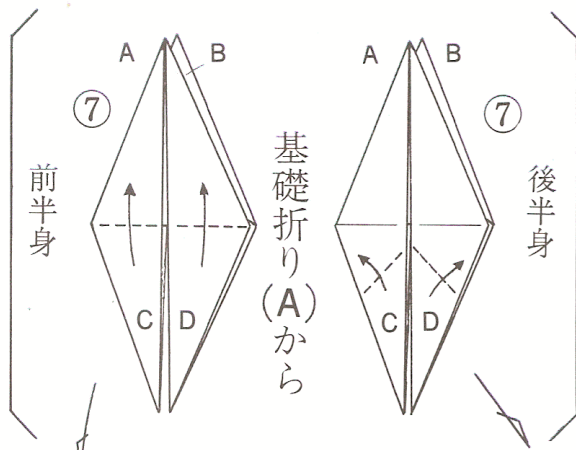


基礎折り(A)二つを前半身と後半身に折って組み合せる。

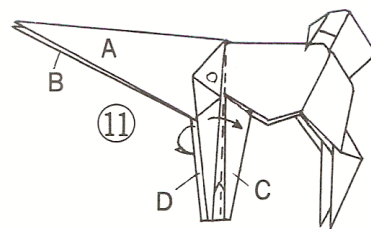
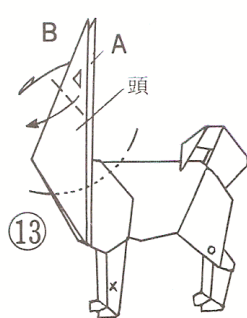
後半身から先に折る。⑦CDを角度に注意して⑧のように折る。⑧CDを山線から裏へ折る。(CDの山線は縦の線に対して直角ではない。⑨Aを折り下げる。⑩BとEを折る。⑪Aを山線に折り目をつけ、⑫のようにつまんで谷線を折って、CDを合せてAを上につきおこし、尾にする⑬。⑬CDを点線へしずかに引き出す。⑭⑮矢印にそれぞれ折る。⑯左上のカドを折り込み、尾の先を折り、Dを折り返し、CもDと同様に折る⑰。⑰を前半身と組み合せてから、⑱前足と調和をとりながら後足を折りとのえる。

前半身 ⑦CDを折り上げる。⑧CDを左右に折りひらく。⑨CDの先を折ってから細く折る。⑩Dを裏へ折ってから、後半身⑰の○印と×印の部分合印に合せて内側にさし込む。⑪+⑰CDを矢印に返して前足を細くする。⑫+⑬ABを重ねたまま矢印にひらいて谷線から折り上げる。⑭から⑰まで頭の作り方によって前半身を仕上げ、足を部分図のように折って、出来上り⑱+⑲。

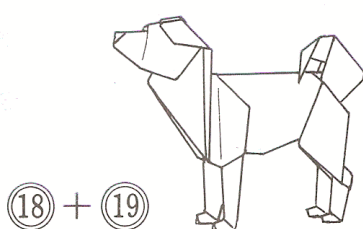
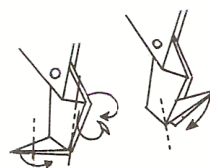
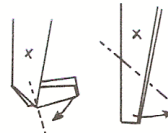
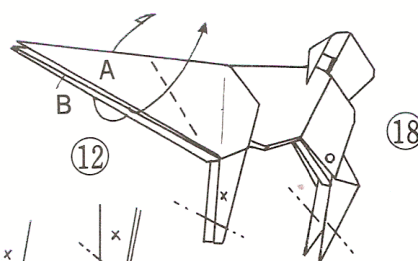
かつて、南極探検で活躍した「からふと犬」。たくましい生活力をもって極地の冬を生き抜いた勇者の風格を表現してみた。



頭の折り方

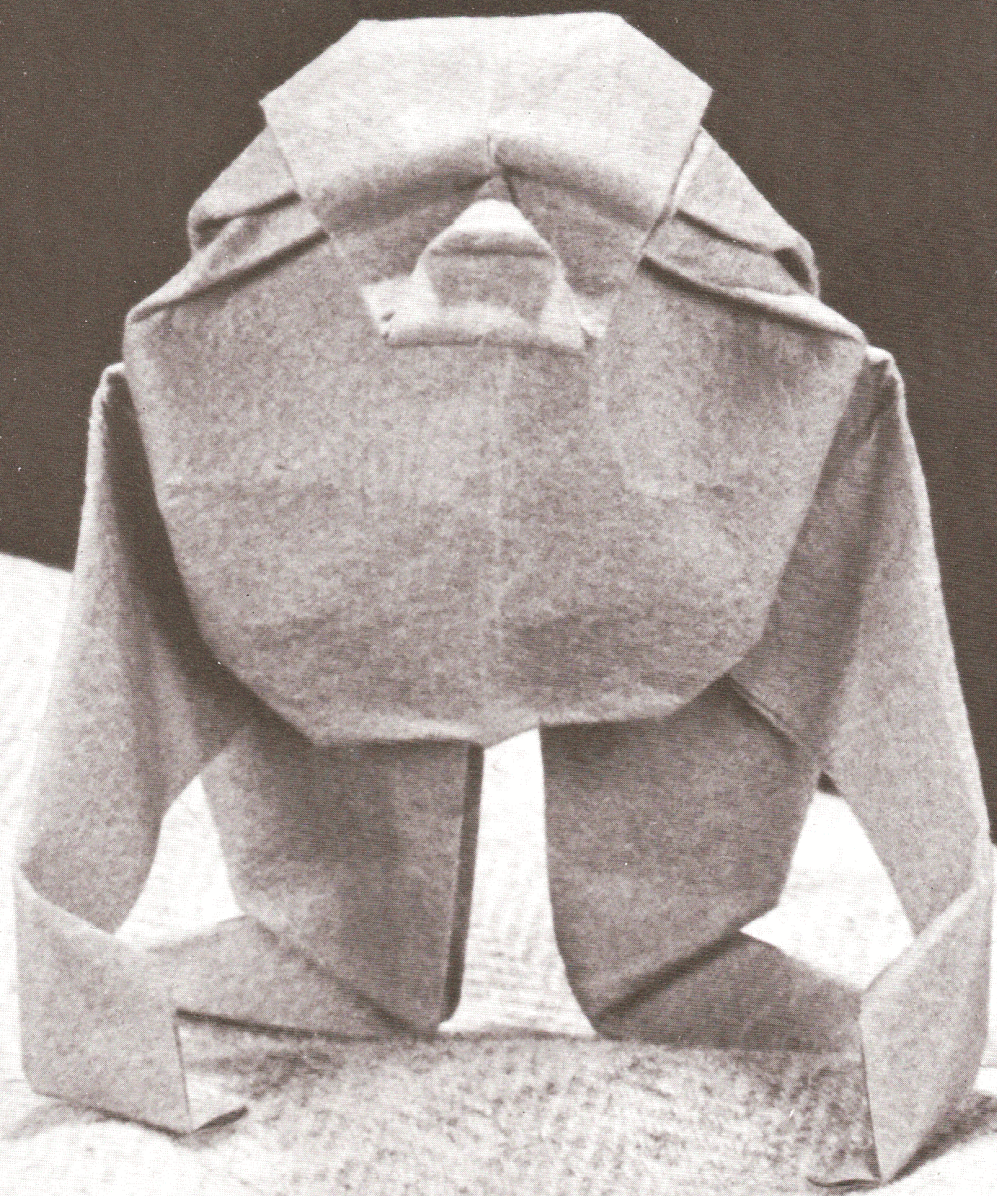


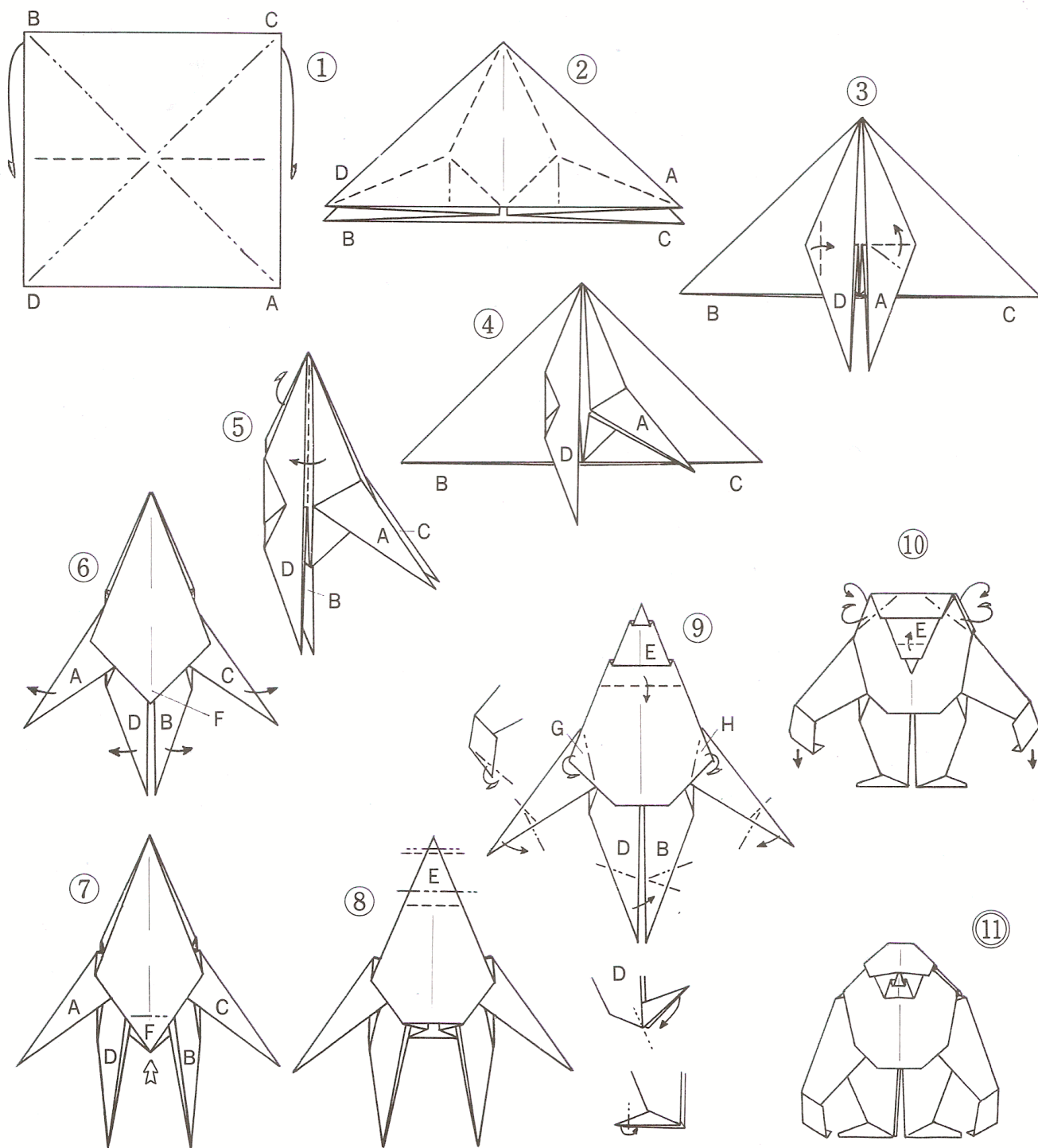
⑪



⑱ + ⑲

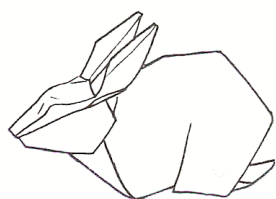
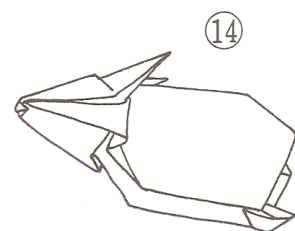
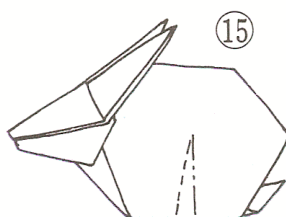
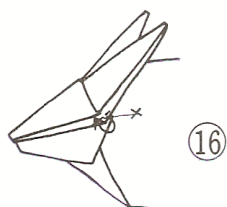
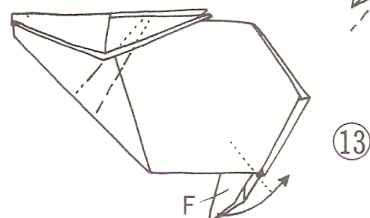
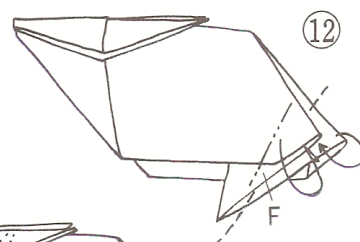
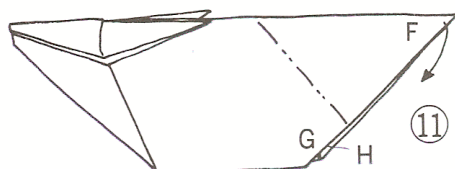
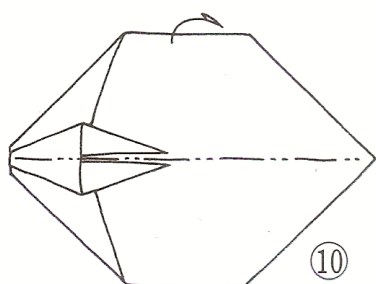
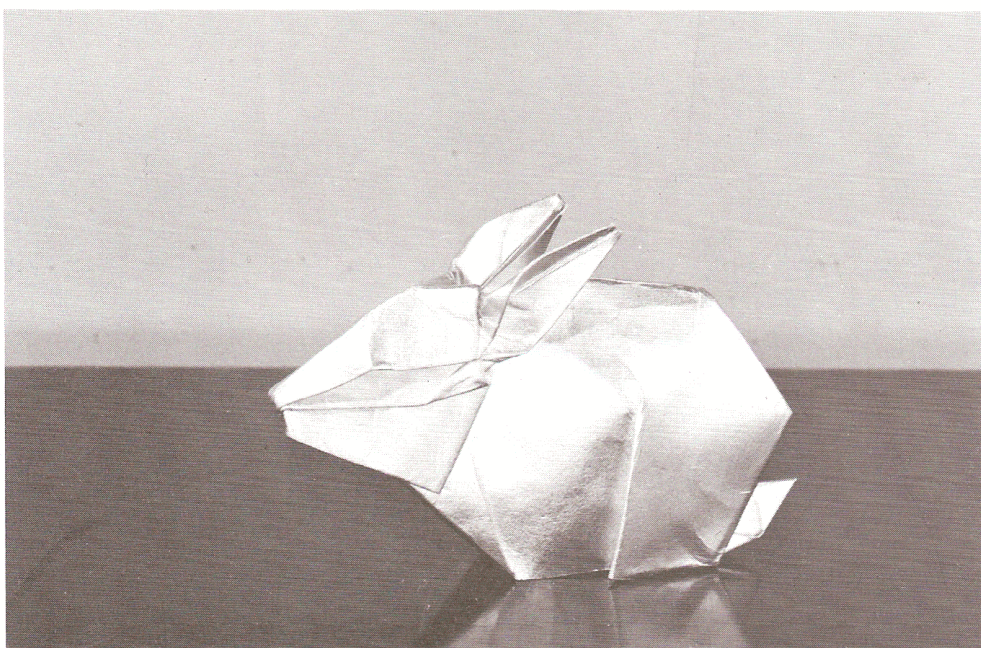
ゴリラの子





上野動物園の人気者ゴリラの子
を折り紙で写真しました。
手足や顔を折りかえれば、動作
や表情にいろいろな変化をつけるこ
とができます。

- ① 正方形の紙を山線と谷線に折り目をつけて②のように折る。
 - ② 山線と谷線でAとDを折り下げて③のようにする。
 - ③ 矢印にそれぞれ折る。
 - ④ BとCをADと同様に裏へ折る。
 - ⑤ 矢印に折りかえる。
 - ⑥ AD、CBを持って左右にしっかりと引っ張ってひろげる。
 - ⑦ 山線の位置からFを内側へ折り込む。
 - ⑧ Eに段をつける。
 - ⑨ Eを折り下げ、GHを折り込み、手と足を部分図のように折る。
 - ⑩ Eの先を額段の間へさし込み、頭の左右のカドを表と裏から間へ折り、手を引き下げて形をととのえる。
 - ⑪ 出来上り。
- ゴリラはたくましい骨組や筋肉をもった動物ですから、折り上げてから、からだの内側へ指を入れてふくらませ、強そうな形に固定します。



⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

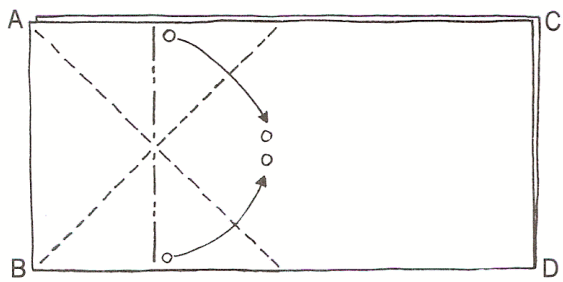
⑮

⑯

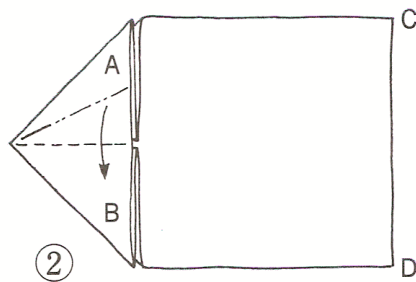
① 正方形の紙を横に二つに折って
から、山線と谷線に折り目をつけて
②のように折りまとめる。③ A
を③のようにひろげる。④ Aを山
線と谷線で折り、CDを裏へ折る。
⑤矢印に折る。⑥ BをAと同様
に折る。⑦ ABを⑧のようにひろ
げ、○印の部分を内側へ折り込む。
⑨△印の部分を折り込み、Eのカ
ドを小さく裏へ折る。⑩二つに折
る。⑪ FをGHの間へ折る。⑫矢
印に折り込んで、Fを細くする。
⑬ Fを斜めに折り上げて尾をつく
り、⑭のようにして首のところに
段をつける。⑮腹の部分に、表と
裏からそれぞれ山線と谷線で段を
つけ、体をまるやかにふくらませ
る。⑯耳の先を小さく折り込み、
×印のところのカドを折り上げ、
耳の上半分をひろげ、顔をつくり
ながら、頭の上から首にかけてし
ずかに押し込んで形をととのえる。
⑰ 出来上り。

○ 置物につくる場合、和紙に裏打
ちをするか厚口の紙を用い、ぬれ
タオルなどで裏から平らに湿り気
を与え、少しおいて水分のなじむ
のをまわってつくりまわす。

かわきあがるまでに何度も手を
くわえて、一部分がひきつれてゆ
がんだりしないように注意します。

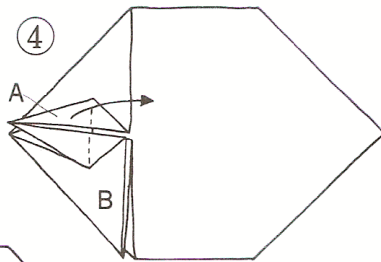


①

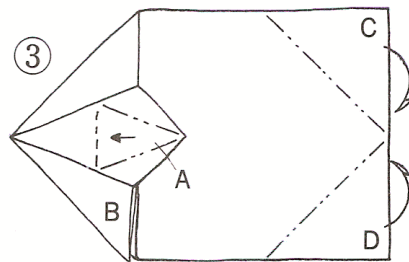


②

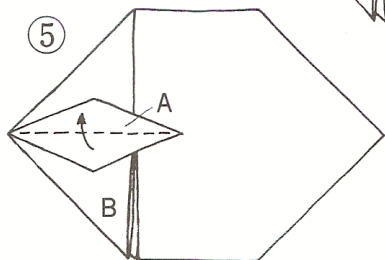
うさぎ



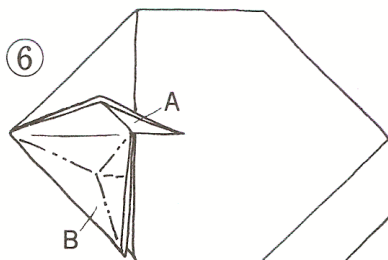
④



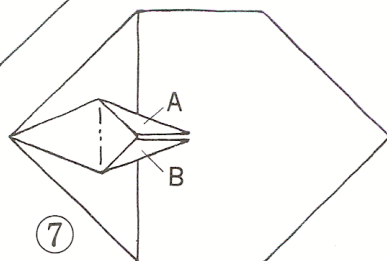
③



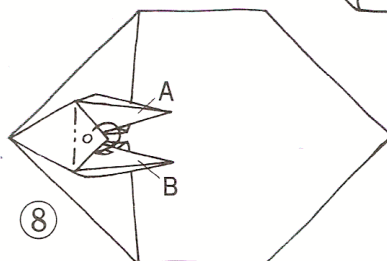
⑤



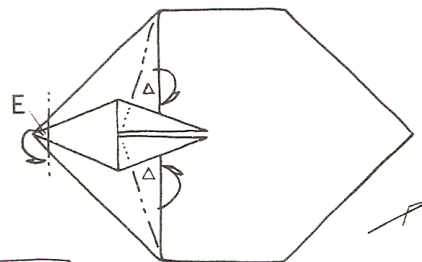
⑥



⑦



⑧



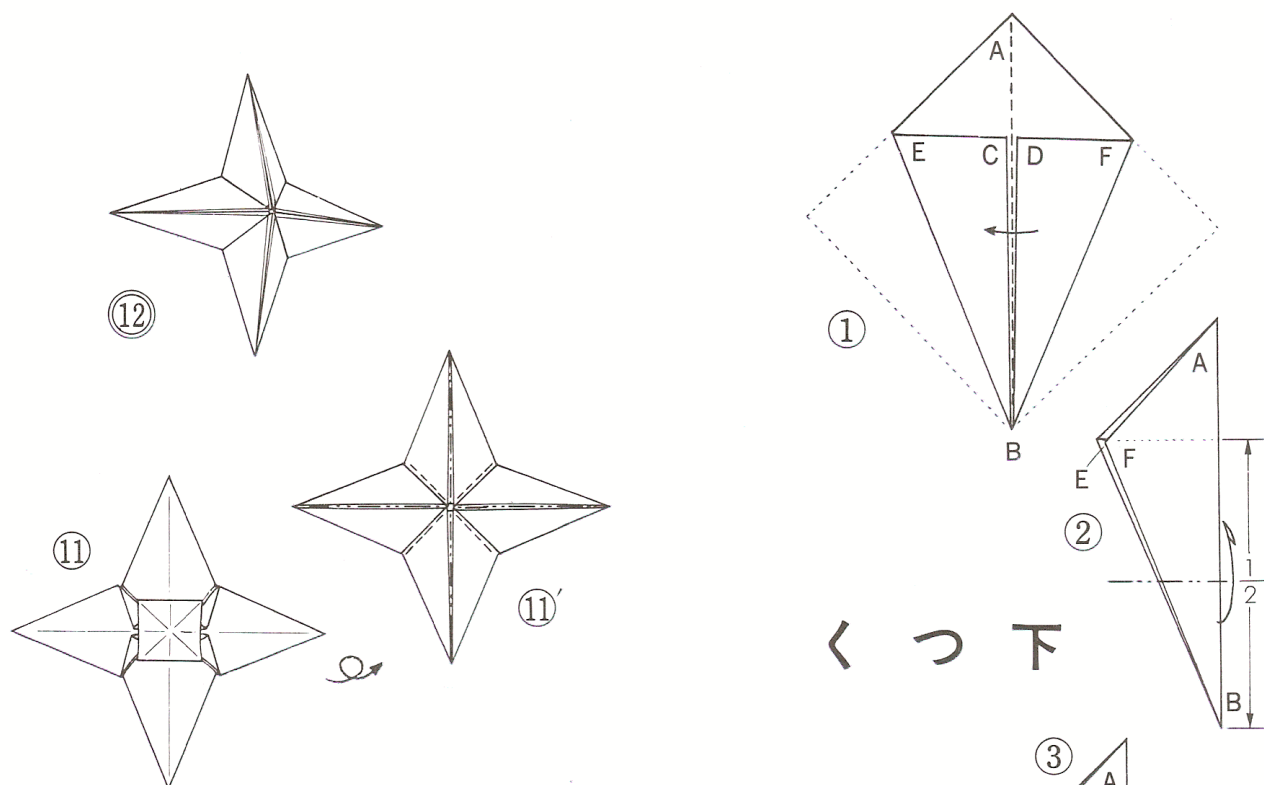
⑨

凍ったうさぎ

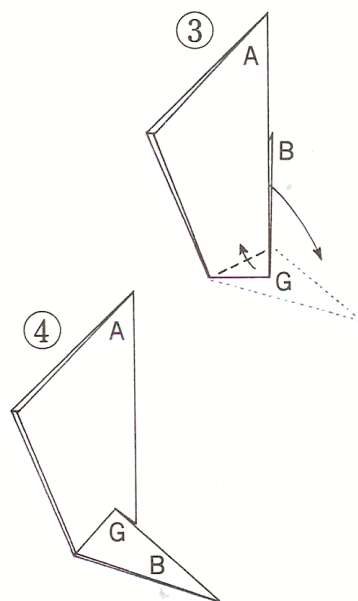
うさぎが凍るということは、たまたま餌を求めてとび出した雪野の白うさぎが、人に追いつめられた時、石か氷のように動かずじっとして、人の目をくらますことをいいます。しかし、危険がもう一步というところにせまった瞬間、疾走して、文字通り脱兎の如く危険から逃れるので、これは「静中の動」ということもできます。

小さな動物が全神経を緊張させて身構えた、すきのない姿を表現するには、ただ折り方を真似て、その通りに折っただけでは形になりません。自分自身がうさぎになったつもりで、細かい折り方の技巧にとらわれることなく、感動を伝えるほどの造形でなければなりません。どうしたら感じがだせるか、何回も折ってみて下さい。

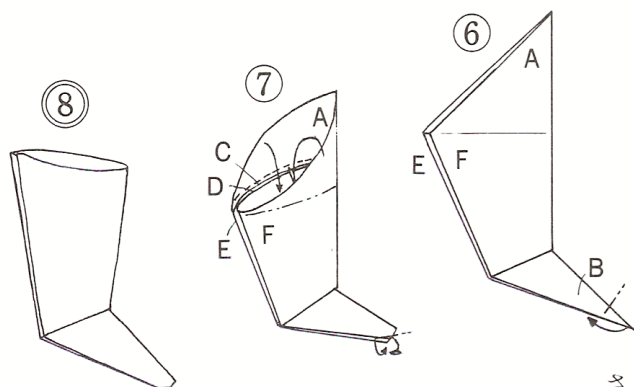
しかしながら凍ったうさぎとして考えずに、普通に折っても可愛い形です。大きさに変化をつけて親子のうさぎにするのもよいでしょう。



くつ下



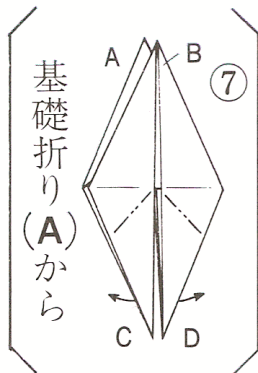
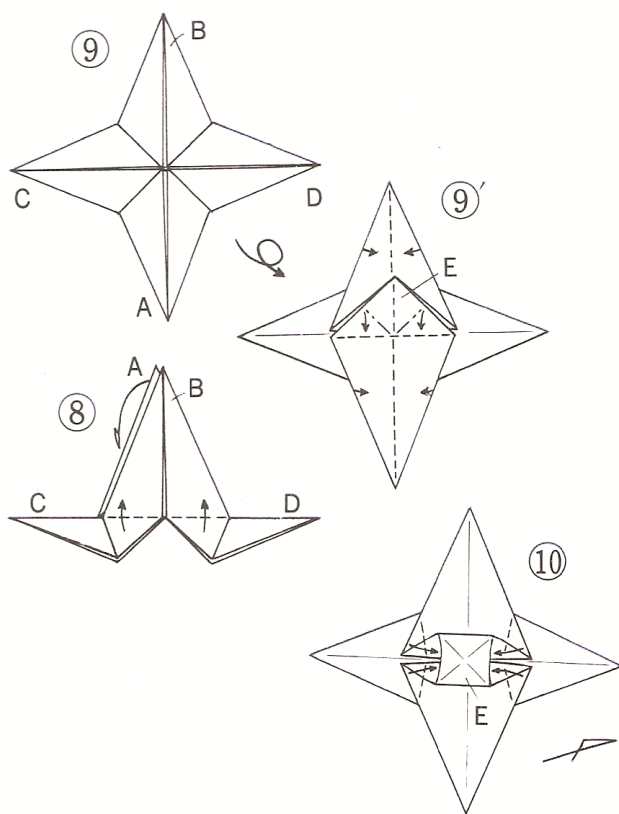
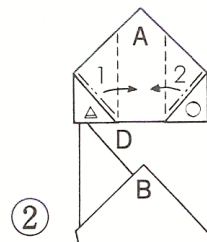
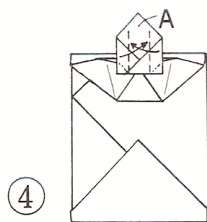
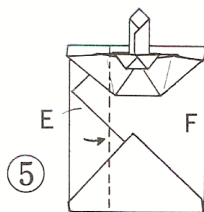
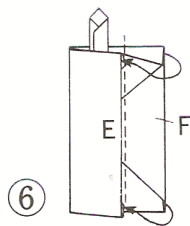
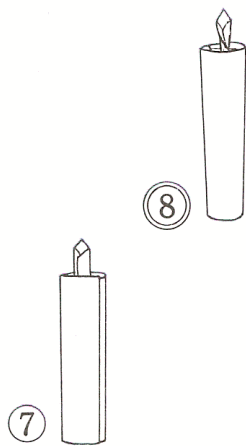
星
基礎折り(A)から折る。⑦CD
を左右に折る。⑧CDを矢印
にひらき、Aを裏へ折り下げ
る。⑨裏返す。⑨Eの左右の
袋をひらきながら、中を袋状
にして押しつぶす。⑩Eの左
右の袋の中に矢印にカドをさ
し込む。⑪裏返す。⑪山線と
谷線に折り目をつけて形をと
とのえる。⑫出来上り。



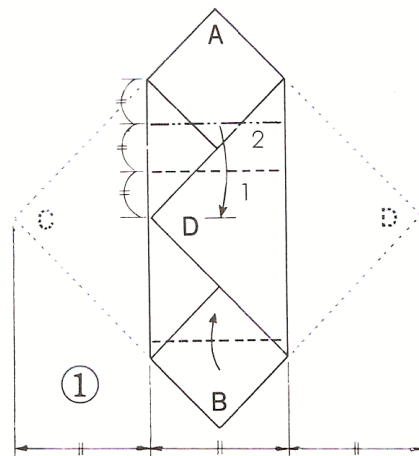
くつ下
正方形の紙を①②と折る。③Gのカド
を折りながらBを折り下げる。④を⑤
のようにひらき、折り目をつけなおし
てGを押し込む⑥。⑥Bの先を折り込
み、Aを⑦のようにひらき、中のCD
を片側に押しつけて袋状にしてから、
Aを折り込んで、⑧出来上り。

●もんだ紙で折
れば、やわらか
い感じになりま
す。大きく作っ
てプレゼントの
入れ物にして下
さい。

星

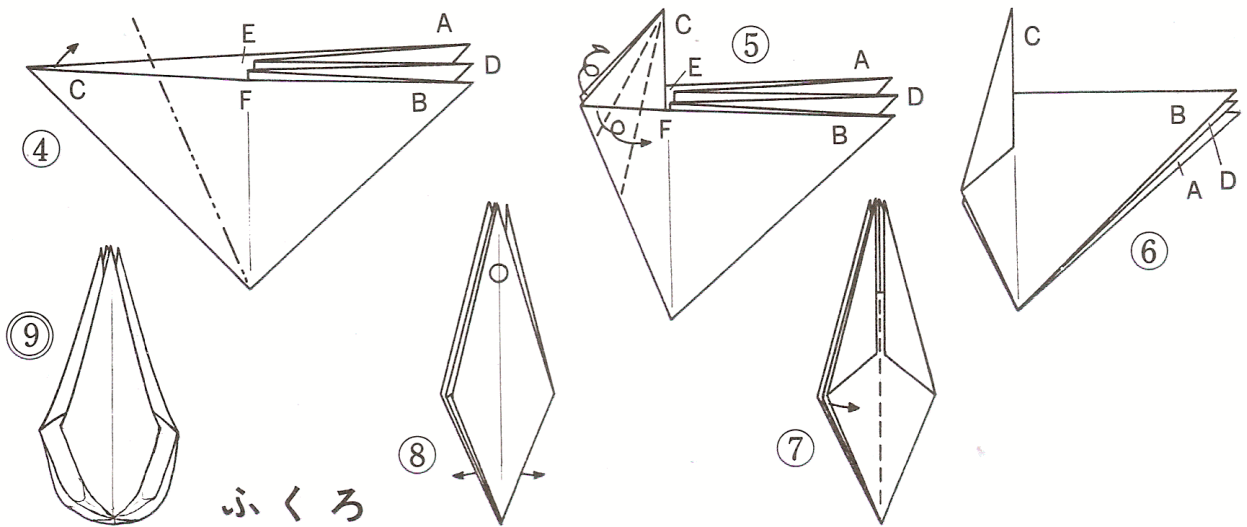
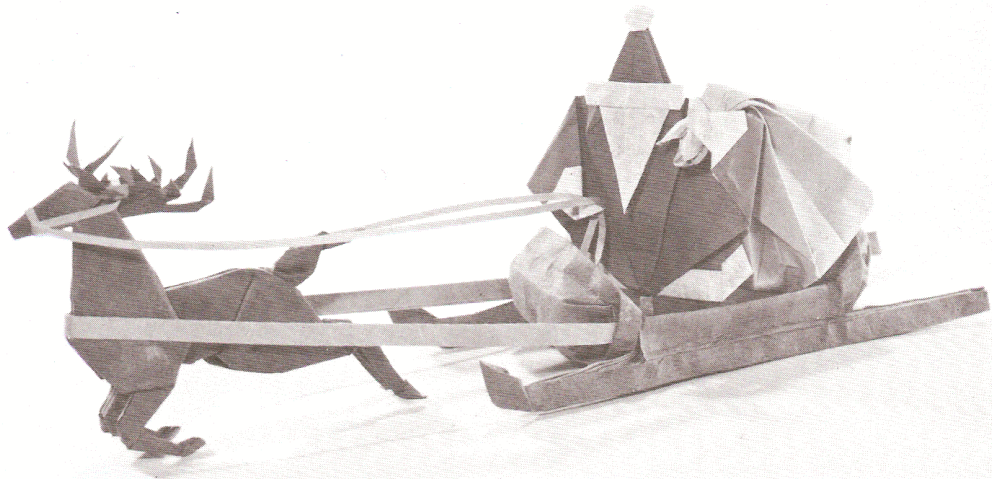


ろうそく



ろうそく
正方形の紙を①のように折り、さらに山線と谷線を折る。②①②の谷線を折りながら△印と○印をひろげる。③Aに小さく段をつける。④Aを②の折り方で細く折る。⑤谷線をかるく折る。⑥谷線を折ってFをさし込む。⑦全体を筒状にととのえ、Aのもとの方をひねって炎の感じにする。⑧出来上り。
●炎に紙の色を出す折り方です。から、片側染めの紙で、表を白にして炎の色をかえたり、Aの部分に炎の色の小さい紙をはさめば、いろいろなろうそくになります。

サンタクロース



ふくろ

サンタクロース

薄い紙で作ってクリスマスカードにつけたり、プレゼントの包みの飾りや葉にもなります。

このサンタクロースと前頁の星、ろうそく、くつ下などを作ってツリーにつければ、楽しいクリスマス飾りになります。

ふくろ

「サンタクロース」と同じ大きさの紙で、④まで同じに折る。

④山線と谷線でCをEFの間へ折る。

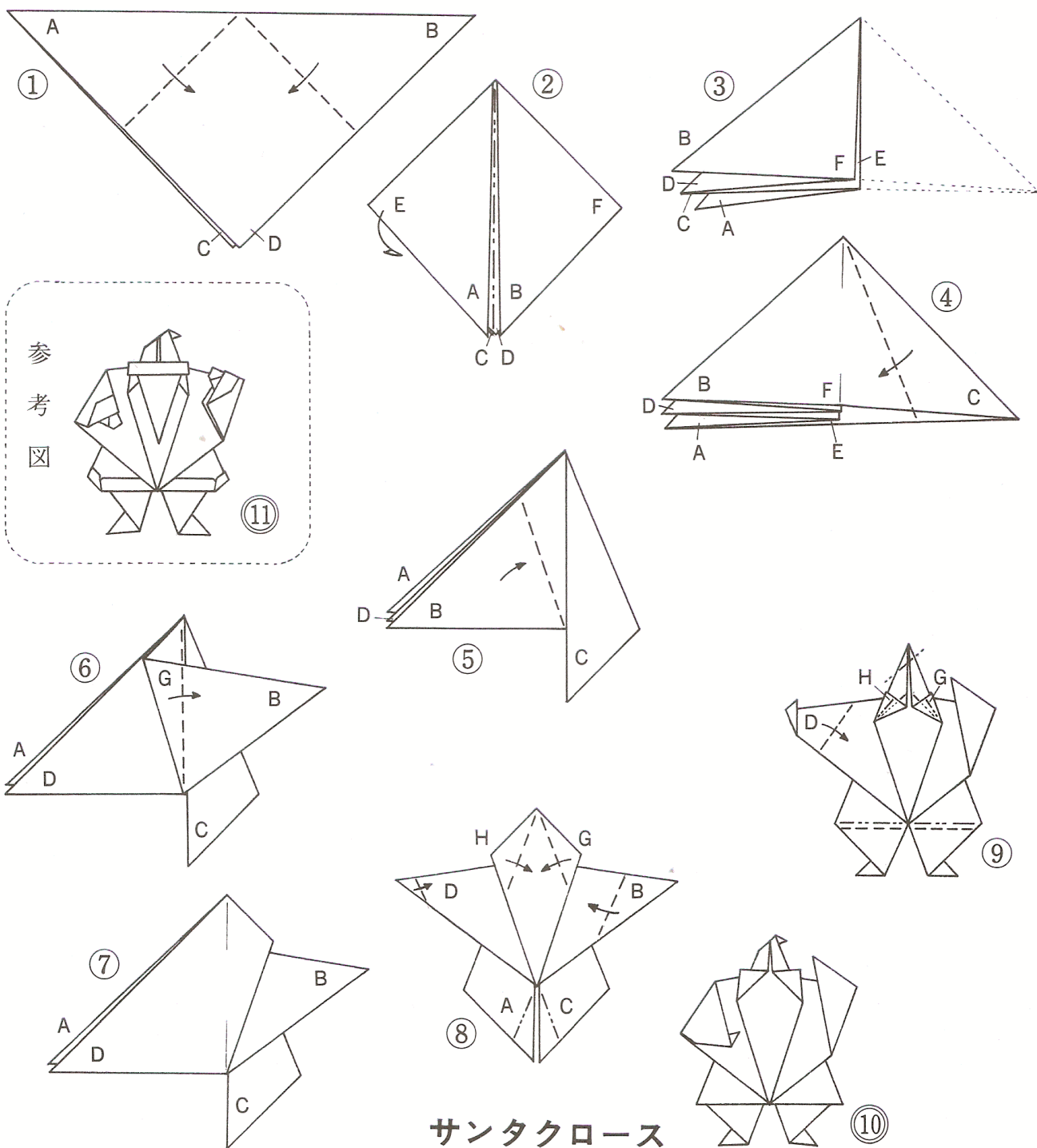
⑤矢印にそれぞれ外側へ二回折って「放射線巻き折り」にする⑥。

⑥ABCをそれぞれCと同じに折る。(つまり全部で巻き折り八つ)

⑦一枚だけ右へ返す。

⑧○印を持ってふくらませる。

⑨出来上り。



サンタクロース

正方形の紙を対角線に折る①。

① AとBを折り下げる。

② EFを外にして中心から折る。

③ Dの内側からCを点線へ開き出す。

④ Cを矢印に折る。

⑤ Bを一枚だけ折る。

⑥ Gを折る。

⑦ AとDをBCのようにして左側へ折る。

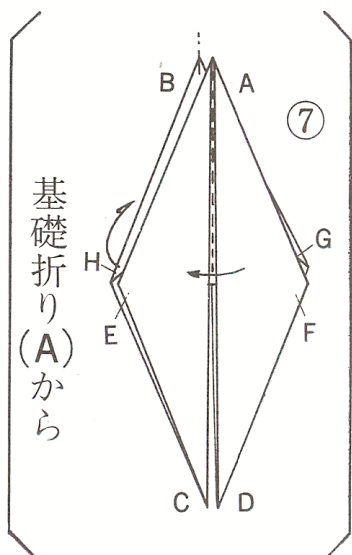
⑧ HG、DBをそれぞれ表に折り、ACを裏へ折る。

⑨ Dを折り、HGの袋を折りひらき、上のカドを小さく裏へ折って脚のところに段をつける。

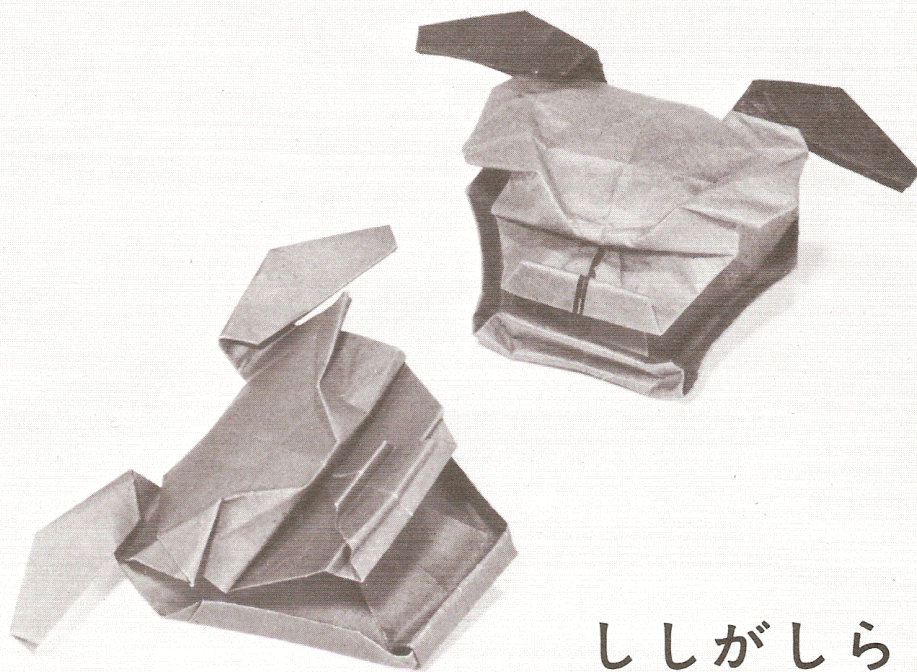
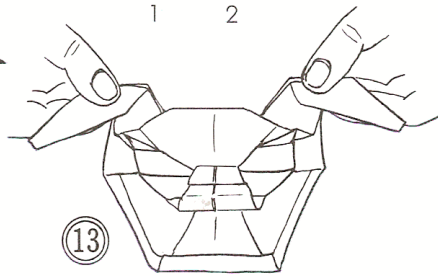
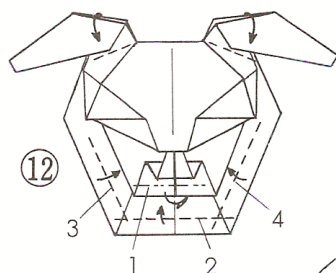
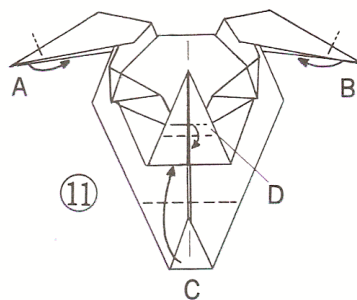
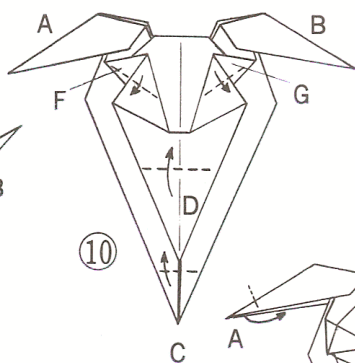
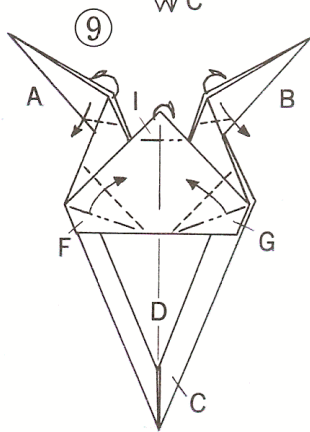
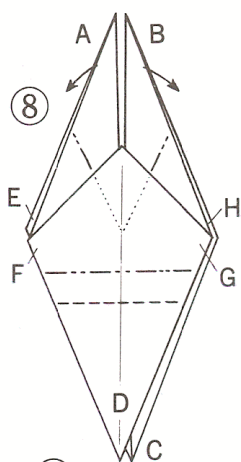
⑩ 出来上り(袋と手綱を持った姿)。

○ 写真や参考図の作品は、裏の白い赤い紙を二枚重ねて折り、服の裾や袖口に白が出るように表の紙を折り返し、手と脚を内側の紙で作ったもので裾の内側で脚に段をつけてありません。

サンタクロースだけでツリーなどにつけるとときには、帽子の先や手綱を持った手を折らずに、脚に段をつけないで、おおらかに仕上げます。



基礎折り(A)から



ししがしら

ししがしら

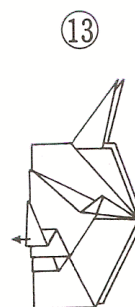
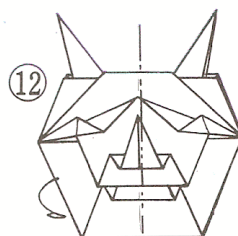
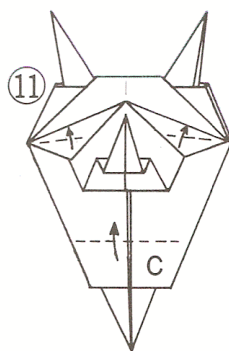
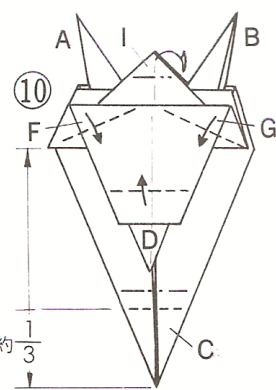
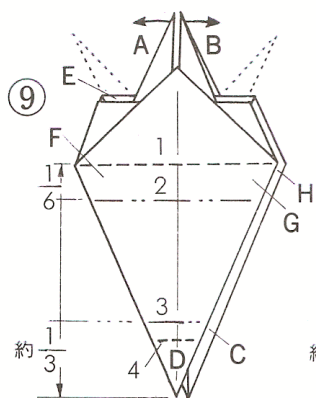
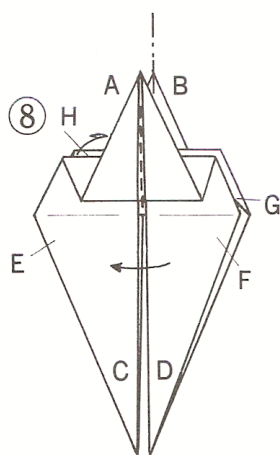
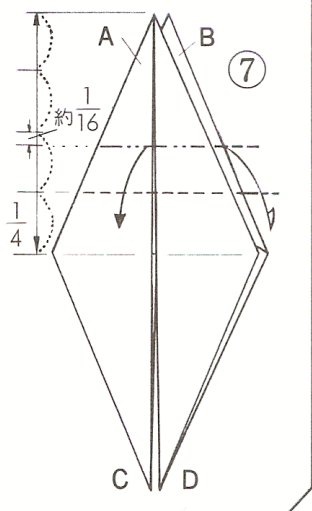
秋祭りの大きなのぼりが村の入口に立って、里神楽の笛太鼓や、村をながして歩く、獅子舞のはやしも聞こえてきます。そんな幼いころの思い出から、獅子頭を作りました。

折り方

基礎折り(A)から折る。⑦FとHを矢印に折る。⑧AとBをそれぞれEF、HGの間へ折り、Dに段をつける。⑨AとBを矢印にひらいて折るかぶせ、Iを裏へ折り、FGを山線と谷線ですらして折る。⑩CとDを折り上げ、FGを折る。⑪Dに段をつけ、CをDの裏へ折り、ABのカドを折り込む。⑫耳を前に起こして折り目をつけ、1234と折り目をつけて形をととのえる。⑬出来上り。

●耳をもって動かせば、口がパクパク動きます。このししが笑っている感じを出すように折り線を工夫してありますから、お正月の飾りにもなります。その場合、一方の口をあけて飾り、向い獅子にして下さい。(古くから魔よけの意味があります)写真の右は赤と黒の紙を重ねて折り、耳にする部分の外側の赤を折り込んで、裏に重ねた黒で耳を作ったものです。

基礎折り(A)から



⑭

おにの面



〔註〕この獅子頭やおにの面の折り方から、ロボの顔やその他の動物の顔に折りがえられます。鬼の面は、下あごをもっと下から折れば、般若の面にもなります。

○この折り方のうち、⑨⑩の折り線の割合は、多少ずれても形になるのが特徴で、いろいろなおにの顔ができます。

○この折り方のうち、⑨⑩の折り線の割合は、多少ずれても形になるのが特徴で、いろいろなおにの顔ができます。

おにの面
民話などに、子供と仲よく遊んだおにの話があります。そつた、人のよい？おにの顔を、折り紙で表現してみました。

おにの面

鬼

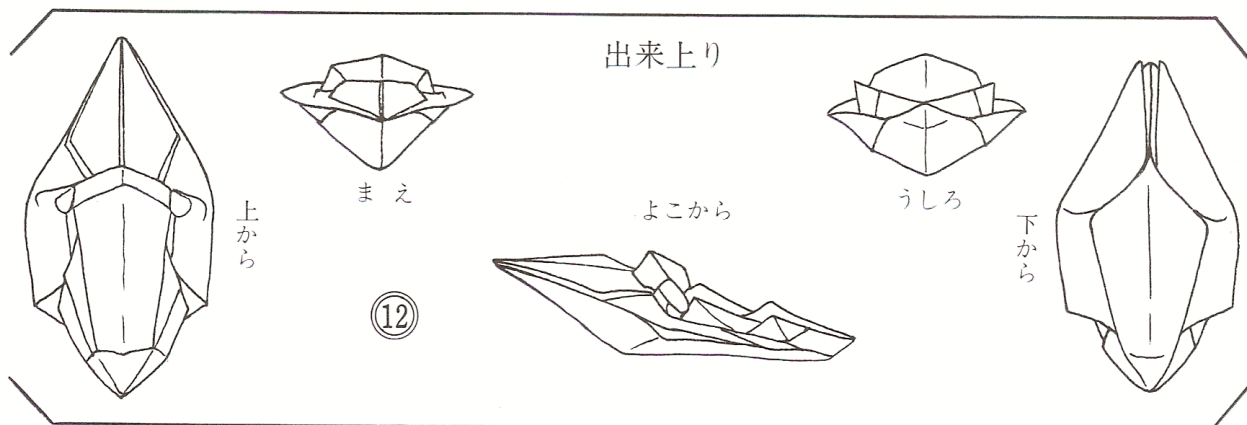
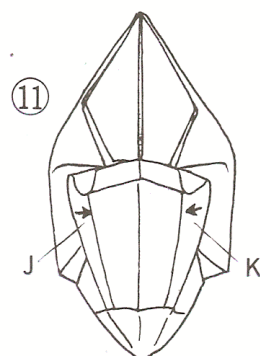
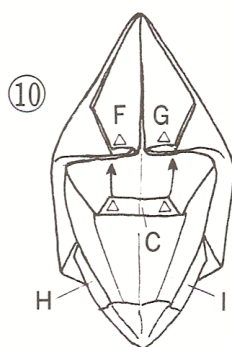
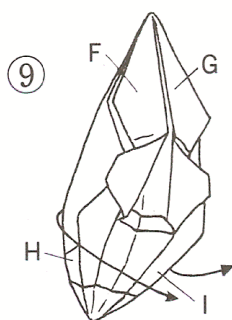
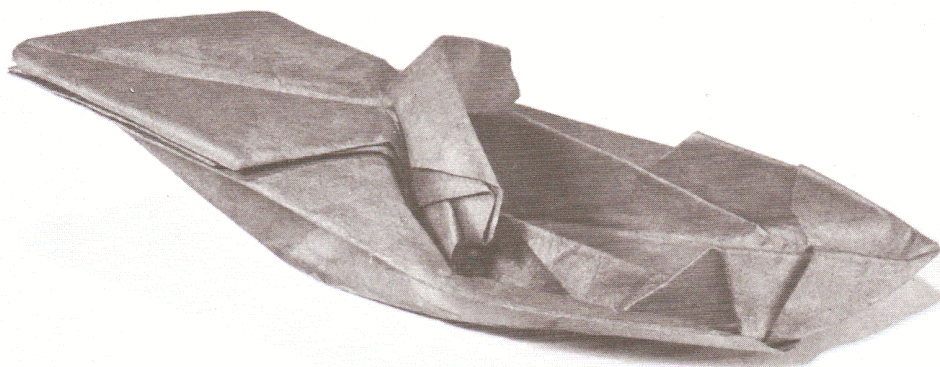


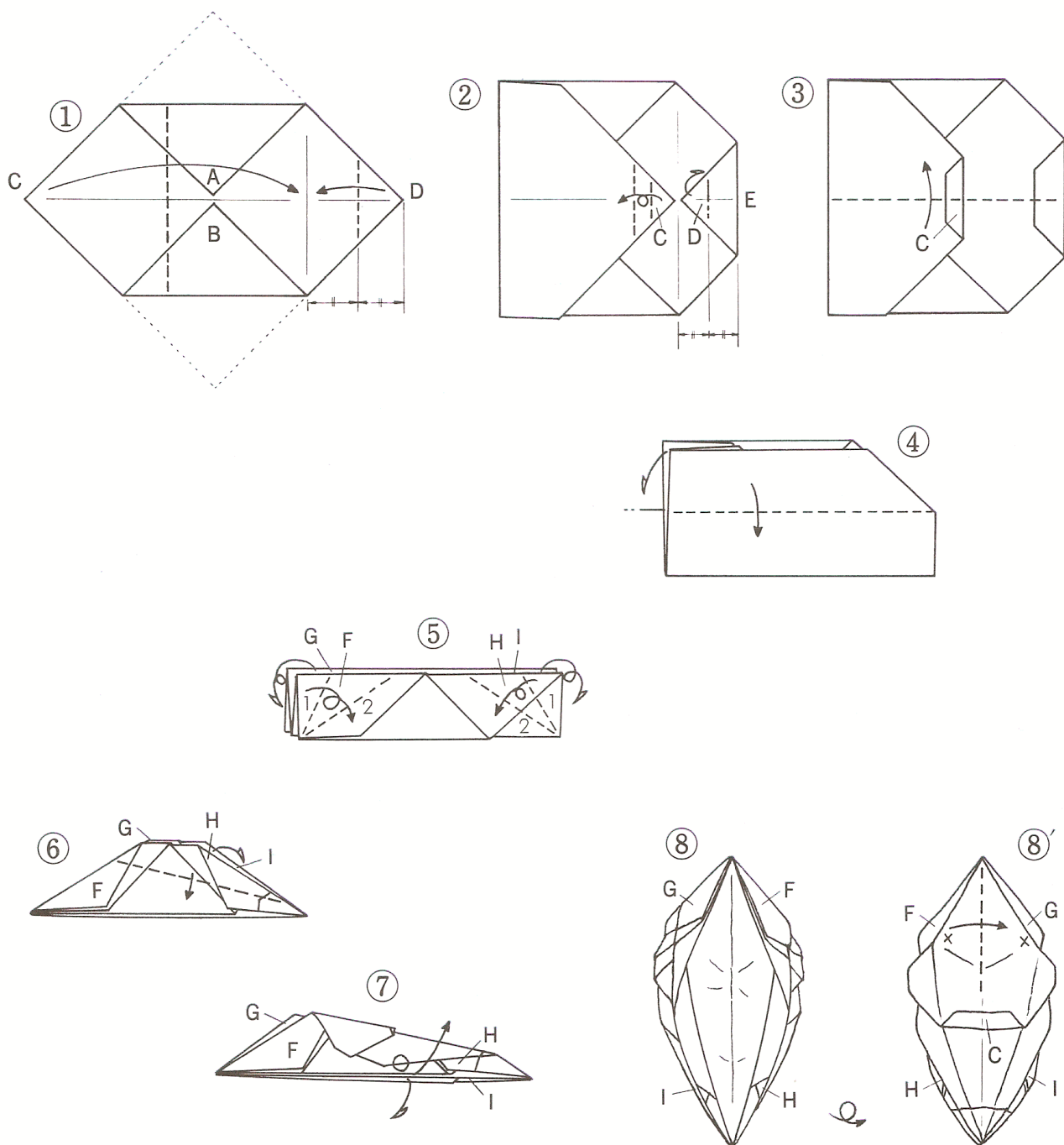
鬼は祖霊の象徴や邪鬼などもあつて、その考え方によつて作り方もかわります。いずれの場合も力強さが第一に表現されなければなりません。祖霊を象徴する場合は、しずかにじつと見つめれば、親しさと恐さがにじみでてくるように作るのがよいと思います。写真の右はなまはげ、左は魔除けの鬼の面。

森のこびと

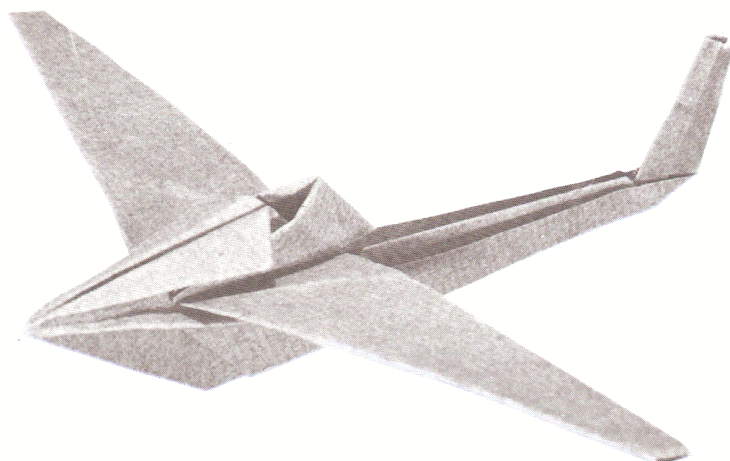


快速艇

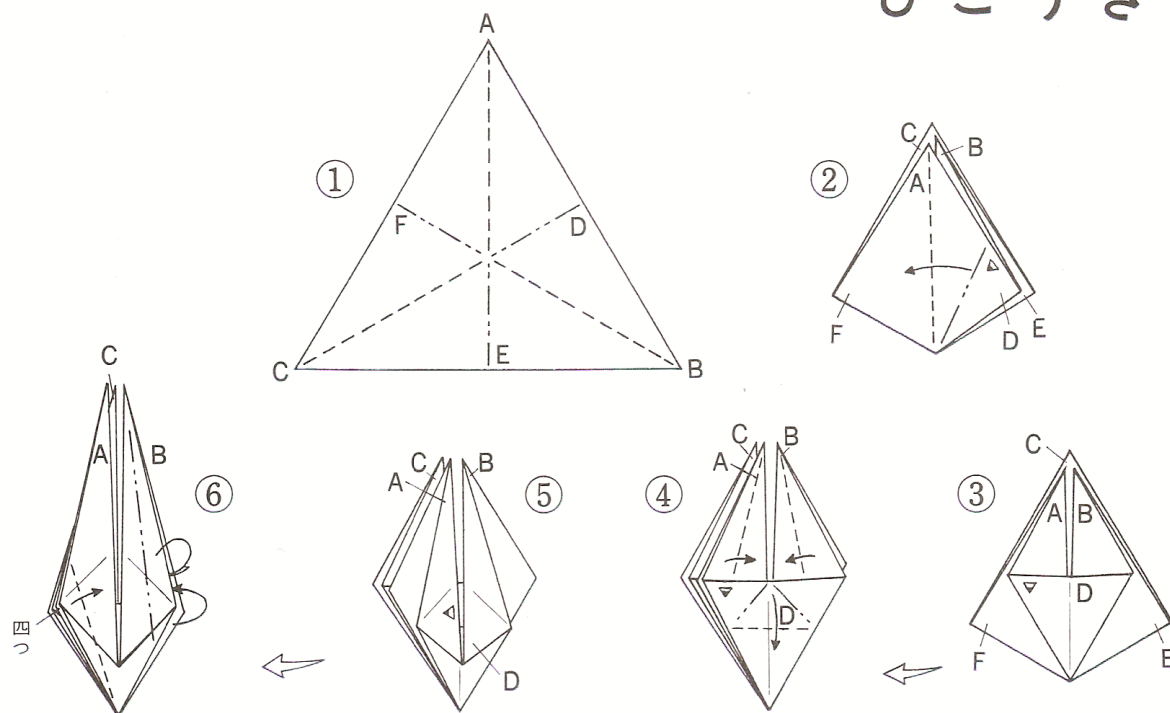




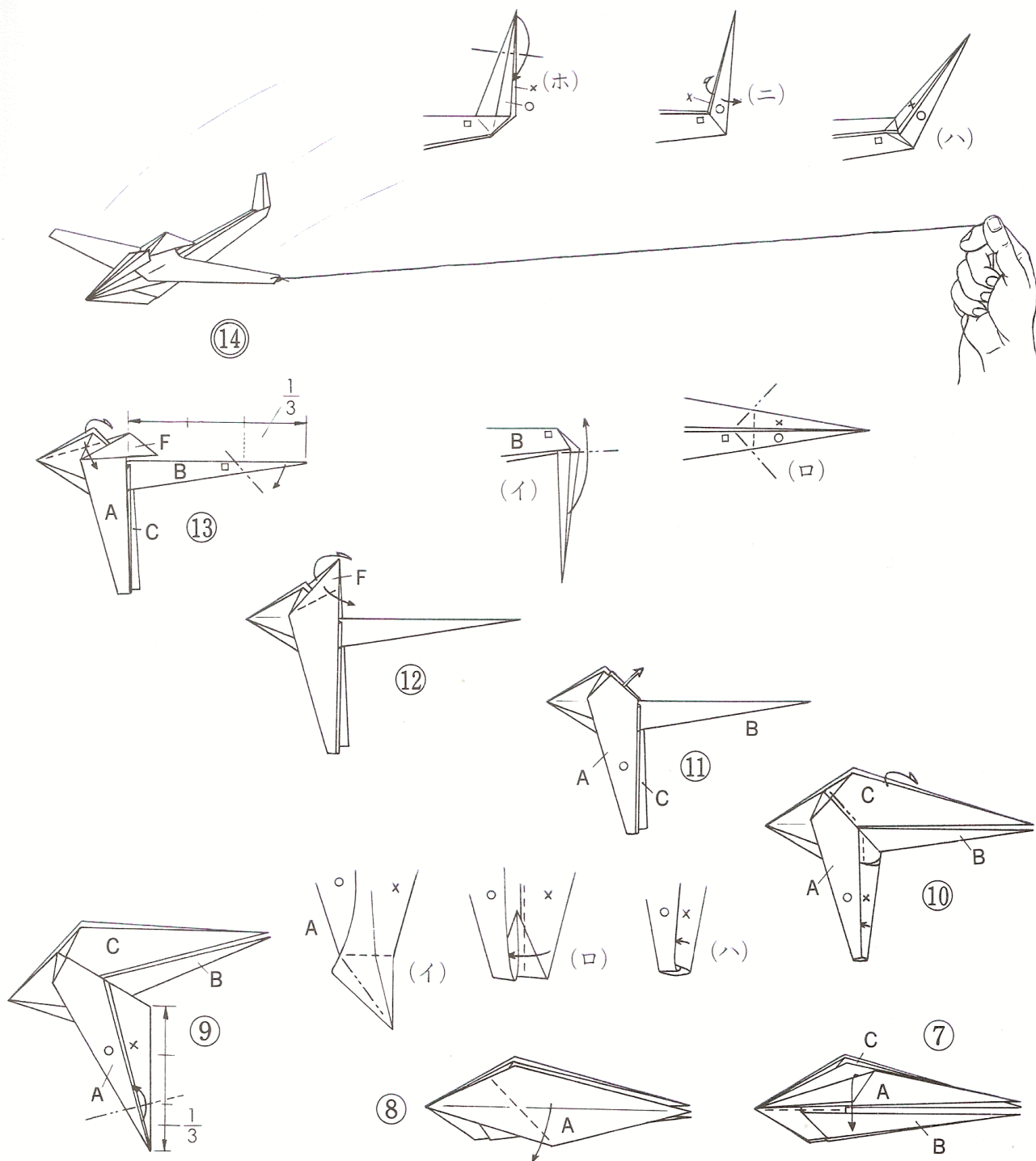
- 折り方
- ① 正方形の紙のA Bを中心に折ってから、CとDを矢印にそれぞれ折る。
 - ② D Eの半分のところからDを間へ折り、Cを巻き折りにする。
 - ③ ④ 矢印に折る。
 - ⑤ FとHをそれぞれ1 2の順に折り、GとIを裏へ同様に折る。
 - ⑥ HとIを谷線の位置から外側へ折り下げる。
 - ⑦ ⑦の印のところを持って矢印にひろげる⑧。
 - ⑧ 裏返す。
 - ⑧' H IをひろげたままFとGを合せる。
 - ⑨ Gの裏へ左手の人差指を、Fの裏へ中指を入れ、表から親指でおさえてH Iを矢印に折り返し、中をへこませて平らにして船底を作る。
 - ⑩ Cをしずかに引きおこし、合印にかけて固定する。
 - ⑪ J Kを引きおこし、形をととのえる。
 - ⑫ 出来上り。



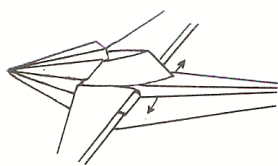
ひこうき



- 折り方
- 正三角形の紙を用い、①のように山線と谷線に折り目をつけてから、②のように折りまとめる。
- ② Dの袋を折りひらく。
- ③ E FをDと同様に折る。
- ④ Dを山線と谷線で折りひらく。
- ⑤ それぞれの間のEとFをDと同様に折る。
- ⑥ Bを細く折り込み、左のカドを一つだけ折る。
- ⑦ ⑧ 矢印に折る。
- ⑨ ⑩ Aの先を約半分のところから折り、部分図のようにして×印のところを○印の内側へ入れる。
- ⑪ Cを裏へAと同様に折る。
- ⑫ 矢印にひらいて折りかえす。
- ⑬ 機首を矢印にひらいて折りかぶせ、Bを約半分のところから折り、部分図の順に折って尾翼を作り、ACの主翼を左右にひろげて形をととのえる。
- ⑭ 出来上り。

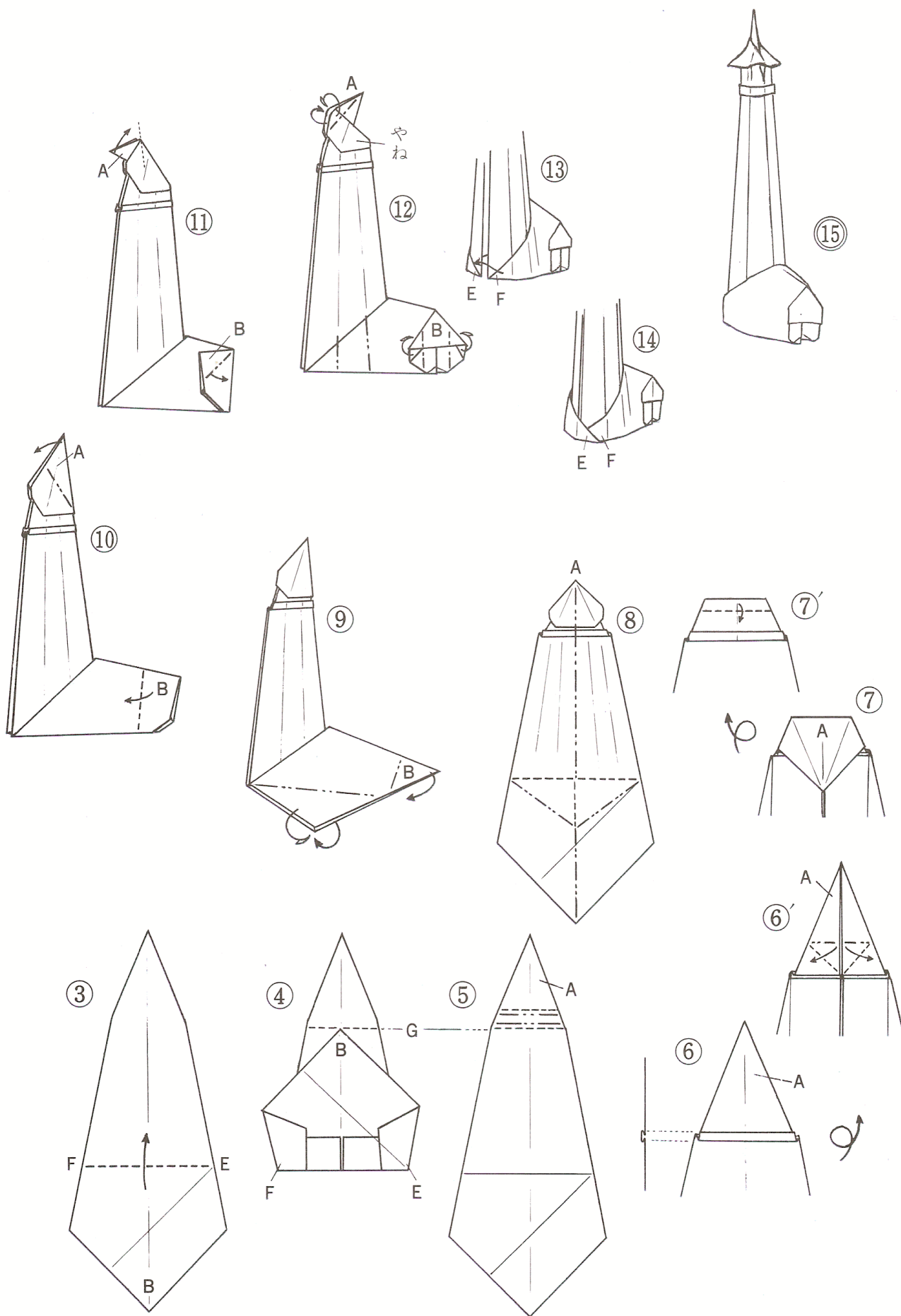


参 考 図

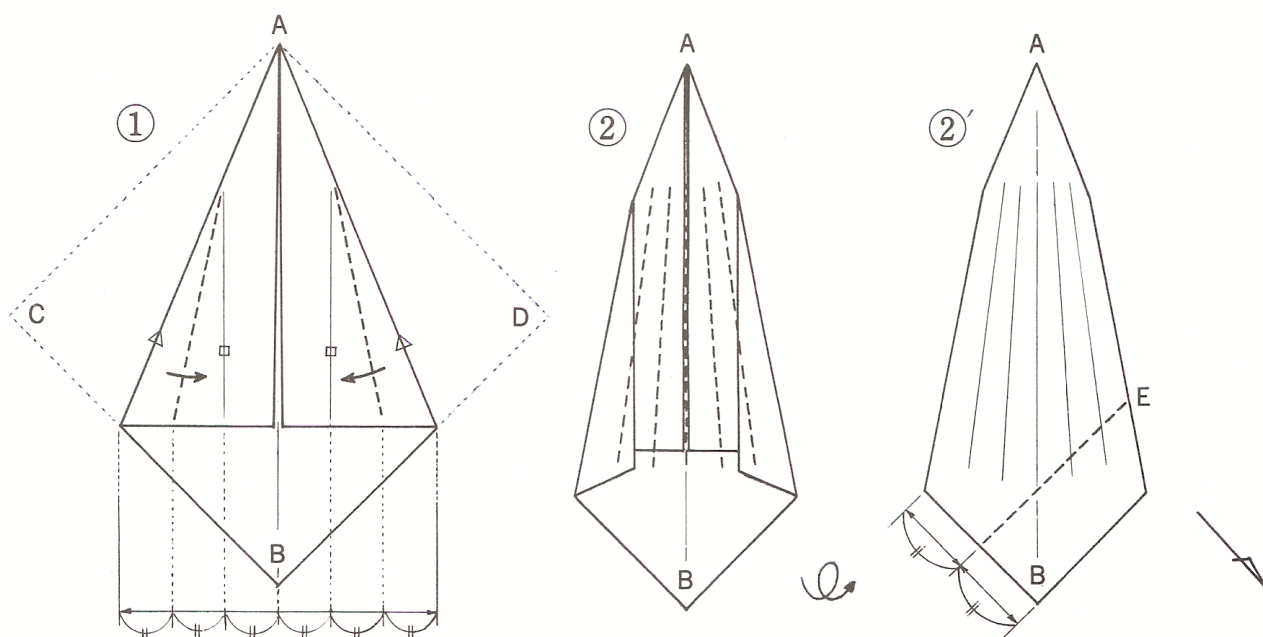


○参考図のように、Bの上側のへりを少しひらけば主翼が固定します。機首の内側へ細い棒などをさし込んで主翼を固定し、釣りの重りなどを先の方に入れ、図のように糸をつけて振りまわして飛ばします。

用紙は、画用紙かラシヤ紙、または厚口のハトロン紙などで、大きさは一辺が30 cm位で作って下さい。



燈 台



創作の時には、もりあがる感激による発想で、テーマや折り線もきまります。このとうだいも、一つの作品のままで風物詩になるようにと思って創りました。これは、動物や鳥などちがって、簡単に表情をつけるわけにはゆきません。しかし、そこに生活している人々のことや、潮風を思いながら構想をねり制作してみると、幾何学的な折り線構造でありながら、やはり、そこに人がいるような感じを出すことができました。

折り方

正方形の紙を①のように折ってから、△印と□印の線を合せる。(□印の線は、ABの中心線に平行)

②谷線に折り目をつけてから裏返す。②Bを折ってE点を求める。

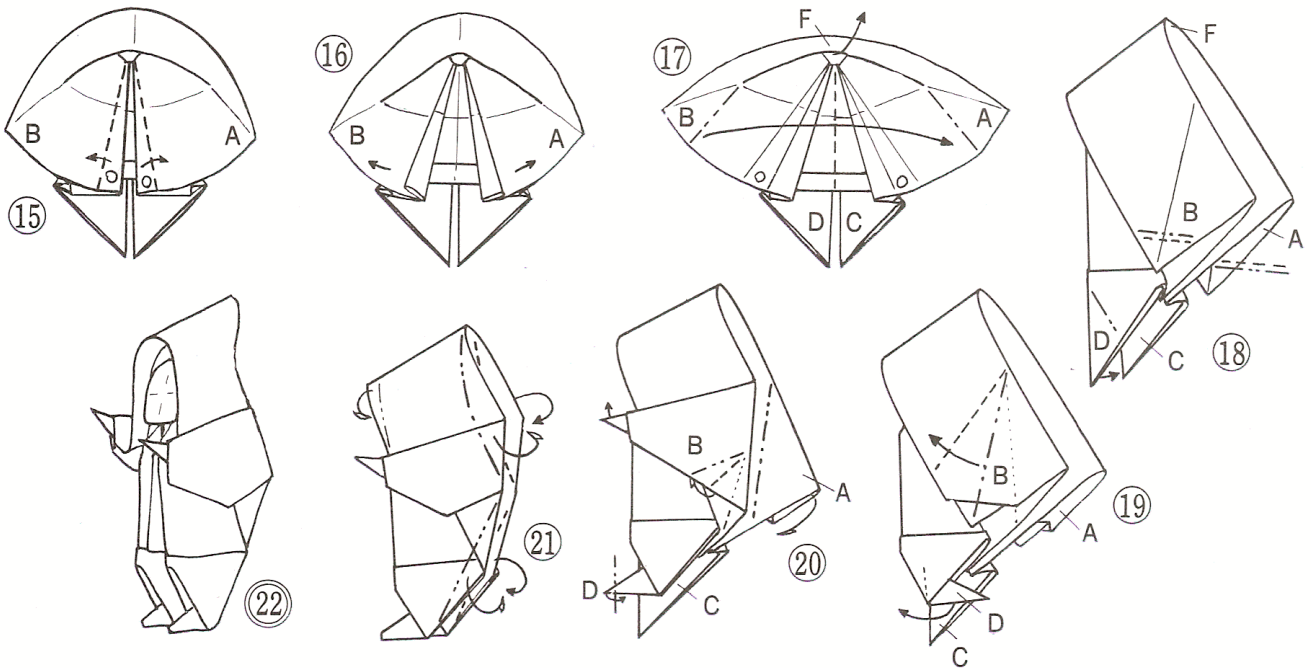
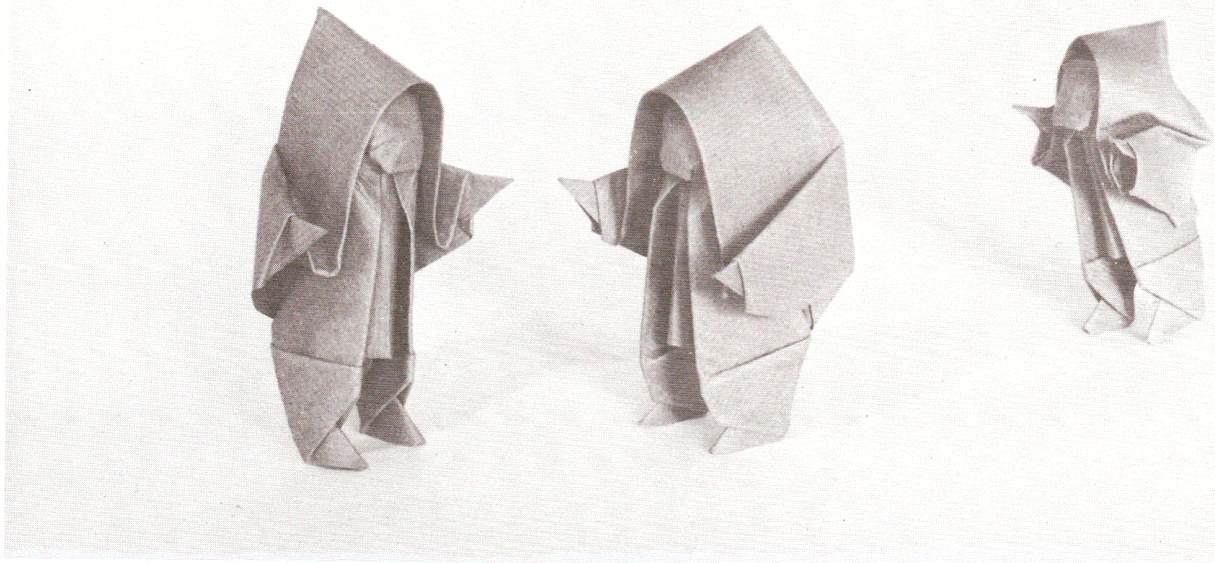
③④BをEFから折ってGの線を求める。⑤山線と谷線でAに段をつける。⑥裏返す。⑥Aの袋をひらいて⑦のように折る。⑦裏返す

⑦矢印に折って裏側のAを立てる

⑧山線と谷線で⑨のように折る。

⑨⑩矢印に折る。⑪Aを折り上げ、Bを折りひろげる。⑫Aを矢印に折り込み、Bの横を折る。⑬Eの袋へFをさし込み、⑭屋根のひさしを引きおこし、全体の形をととのえる。⑮出来上り。

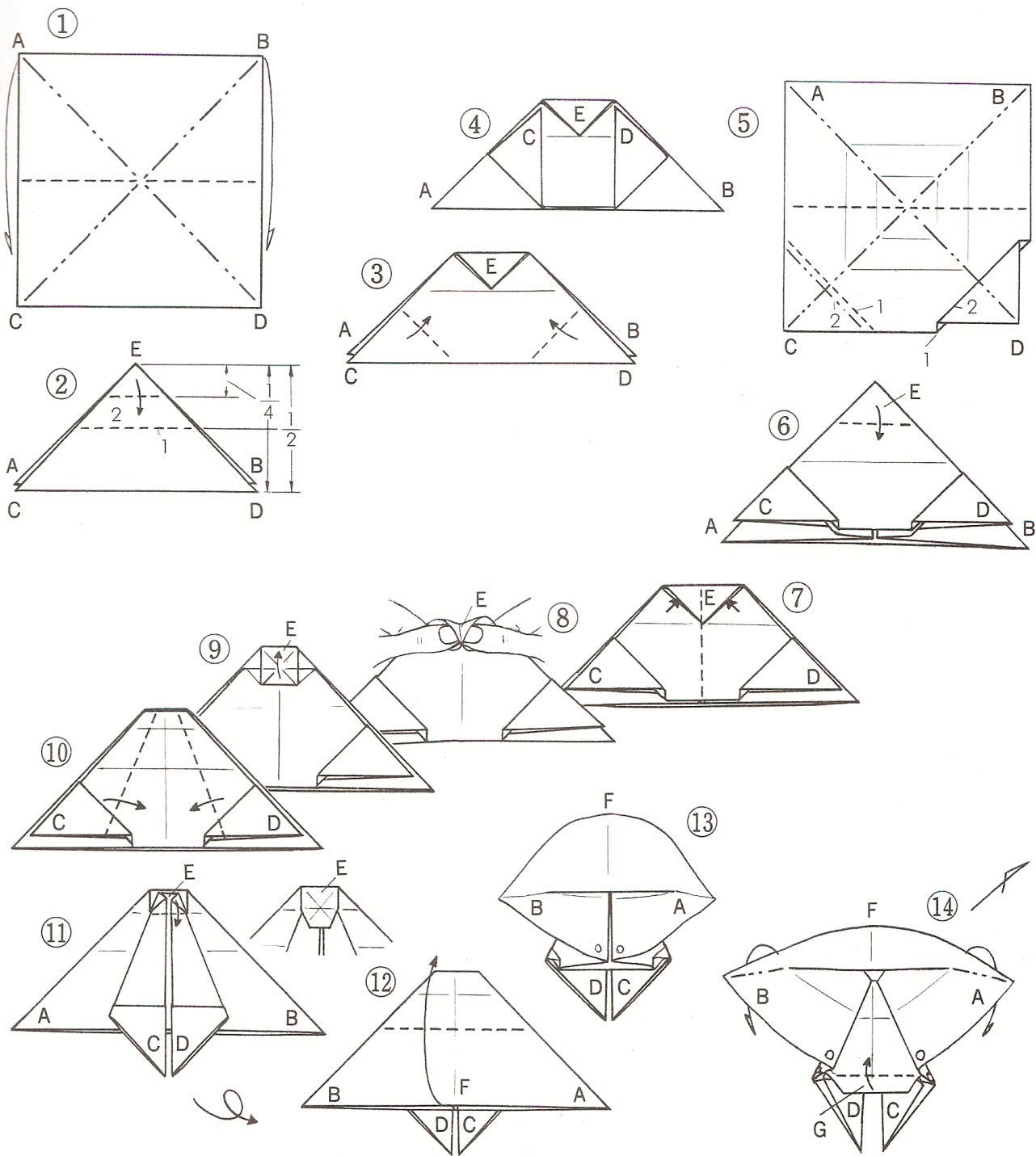
雪国のこども



雪にうずもれた山里の元気な子供たちの姿を表現しました。あたまは頭巾マフラーやはんてんの裾をまくってかぶった姿に、足は雪ぐつやモンペの形にしました。折り方をおぼえてから、いろいろな姿の子供を折って下さい。

こうした子供たちを折り紙で制作して、親しく心にかよふものは、手漉きの紙のことです。和紙はたいてい雪深い山村の家内工業として、一枚一枚に深い愛情をかけて作られます。楮コの繊維を雪でさらして漉いた紙は清らかで、その感触もやわらかく、繊維の一本一本が輝いていて気品があります。寒漉きのものは「ネリ」が程よくきいて質がよく、長野県の内山村の障子紙など、その最たるものです。この紙に薄い渋しぶを引いて、くもりの日に時間をかけて乾かせば、やわ肌やわかわの感じになり、夏の強い陽にふつうに渋を引いて乾かせば、健康な若者の皮膚の感じが出ます。

栃木県烏山の程村紙ほどむらもまじり気のない楮を使って、漉き方に特徴があるから、地の厚い木綿もめんのようです。かつて万国博覧会で世界一と賞せられたもので、この紙に渋を引けば、まるで革のようになり、染め方や使い方によって、紙の持ち味が生きて深い趣きがあります。



折り方

① 正方形の紙に折り目をつけて②のように折りまとめる。② ①の折り目をつけてのばし、2を折る。③ CDを折る。④ をひらく。⑤ CもDのように段をつけて折りまとめる。(①の谷線の位置は③で折り上げた折り目) ⑥ Eを折る。⑦ 縦に折り目をつけてから、矢印の三角の袋に⑧のように指を入れ左右にひらけば、自然にEのカドが四角な袋状にひろがる。⑨ 矢印に折る。⑩ CDを折る。⑪ 矢印に折り下げてから裏返す。⑫ 矢印に一枚をひらき、谷線に折り目をつける。(谷線の位置は②の①の折り目) ⑬ ABを⑭の形にひろげる。⑭ Gを折り上げ、ABを山線に折りかえてFの裏側のEにかぶせる。⑮ ①印を左右に折り返す。⑯ ABを引き出し、⑰のようにする。⑰ Fを丸く引き出し、中心から二つに折りながらFの折り目をしごいてABの山線を折り、⑱の形にする。⑱ ABに小さく段をつけ、Dを折る。⑲ Bを折って手をつくり、Dを点線の内側で折り返す。⑳ Bの下を袖の形に折り込み、AとCをBとDのように折る。㉑ 矢印にそれぞれ折り込み、形をととのえる。㉒ 出来上り。

あとがき

この本の折り方は一九五四年から一九六三年の間、主婦の友に八年間連載されたものを中心にとめました。これは多くの人々の支持によって、日本の伝統の一つである折り紙の新分野をひらいてきた記録の一部です。その後の研究の成果を若干加えて、従来の折り方の中には全くなかったものばかりです。

折り紙の愛好者から、どうして本を作らないかという励ましやおしかりを頂いてきました。しかし、私の創ったものがいつまでも人々の心の友として喜ばれるためにはどうしたらよいか、いろいろな分野からも検討してきました。折り紙の創作と一口にいても、一つの作品に二、三年はかかっています。長いので十年、特殊な折り方では二十三年もかかってやっと折り線の完成したものもある位で、私の折り方は長年の労作の積み重ねによります。どの折り方も、同じ主題で折った作品の中から選んだもので、一つ一つに個性が強くでています。

図の中に何分の一としてあるところは、実際にはもっと

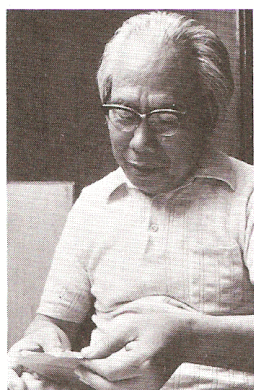
微妙なもので、皆さんが折りながら工夫することによって出来上り図や参考写真よりはるかに安定した美しい形になるものがあります。

折り方の記号は私が長年内外の愛好者に呼びかけているもので、外国で出版された本に吉沢のシステムによると記して使われています。

製図は音楽における楽譜と同じで、きわめて幅ひろい解釈ができますから、個性的な表現が可能です。

皆さんがこの本で本気で折り紙を折るならば、一つ一つの折り方からいろいろに展開して、あなた自身の楽しい折り紙の世界が拓けます。

私が折り紙の研究だけで生きてこられたのは、これまでの日本では一つの奇跡のようなものでしたが、これは国際折り紙研究会の会員はもとより、諸先生や先輩、友人のお力添えもあり、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどの理解ある援助も有難く、決して忘れられません。その中で、長年連載して下さった主婦の友社は勿論のこと、私の研究整理が手間どって、長く埋もれていたものを、こうして世の中に出して下さる鎌倉書房のご好意に深く感謝致します。



著者紹介

1911年 栃木県に生まれる。幼少の頃より折り紙に興味をもち、折り紙の研究と創作活動が続ける。

1954年 国際折り紙研究会を創設。内外の折り紙発展と愛好者の交流に努める。

1955年 オランダに於ける個展は、画期的な美術造形として世界から注目される。その後、国内及び外国でたびたび個展を開く。

1963年 著書数冊の内、「たのしいおりがみ」によって毎日出版文化賞を受賞。

1971年 モービル児童文化賞受賞。

外務省及び国際交流基金より、折り紙の講師として1966年から数次に亘り三十数ヵ国へ派遣され、国際親善につくす。

1983年 折り紙による文化普及にて勲五等雙光旭日章を受賞。

1984年 パリに於いて朝日新聞社及びビュール・カルダン主催により新しい作品の個展、この展覧会を東京で朝日新聞主催により開催。チューリッヒ市の「フェノメナ展」に招聘されて参加。

美しい折り紙

吉沢 章 創作折り紙作品集

定価 一五〇〇円

昭和四十九年八月十日 初版発行
昭和六十年七月三十日 七刷発行

著 者 吉 沢 章

発 行 者 長 谷 川 映 太 郎 章

印 刷 所 株 式 会 社 精 興 社

発 行 所 株 式 会 社 鎌 倉 書 房

東京都新宿区市谷左内町二一

電話 〇三(二六八)二三〇六

販売部直通

万一落丁・乱丁などがございましたらお取替えいたします。

